

# 学生による授業認識 と大学教育

大東文化大学授業認識報告書（全学データ）

2023 年度

大東文化大学

## 目次

1. はじめに.....	3
2. 結果.....	4
2.1 2023 年度前期・学生による授業認識アンケート.....	4
2.2 2023 年度後期・学生による授業認識アンケート.....	42
3. 各学部・学科によるアンケート結果についての考察.....	103
文学部 日本文学科.....	103
文学部 中国文学科.....	104
文学部 英米文学科.....	105
文学部 教育学科.....	106
文学部 書道学科.....	107
文学部 歴史文化学科.....	108
経済学部 社会経済学科・現代経済学科.....	109
外国語学部 中国語学科.....	110
外国語学部 日本語学科.....	112
法学部 法律学科.....	113
法学部 政治学科.....	115
国際関係学部 国際関係学科・国際文化学科.....	116
経営学部 経営学科.....	117
スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科.....	119
スポーツ・健康科学部 健康科学科.....	122
スポーツ・健康科学部 看護学科.....	125
社会学部 社会学科.....	127
4. おわりに.....	130
資料.....	131
1. 大東文化大学全学 FD 委員会規程.....	131
2. 2023 年度 学生による授業認識アンケート実施要項.....	134

## 1. はじめに

全学 FD 委員会委員長 中野 紀和

2023年5月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が5類に移行したことを受け、学生たちの雰囲気明るくなったように感じられる。マスクをとる者が増え、人との距離が近くなり、大学全体に少しずつ活気が戻ってきた。行動制限が人の意識に与えた影響は思っていた以上に大きかったようだ。授業は、2022年度には基本的に対面授業に戻っていたが、教室では隣と距離をとって座り、換気に気を配る等、行動上の制限は残っていた。ほぼ通常運転に戻った2023年度の授業は、対面でのディスカッションや発表の機会も増え、学外での活動も再開され、学生には大きな刺激になったに違いない。教員の側も、学生の反応を直に見ながら授業の理解度を探りつつ、説明の工夫をしたり進行具合を調整するといった臨機応変な対応がし易くなったのではないだろうか。いずれにしても、2023年度はマスク姿の学生が減り、互いを明確に認識した学びの場が（完全ではないが）戻ってきたと言ってよいだろう。

一方で、すべての学生が人とのコミュニケーションが得意なわけでもなく、積極的な関わりを望んでいるわけではない。対面授業に戸惑う学生もいたことだろう。そういう学生に積極的な授業参加を促すことの難しさを、これまで以上に感じている教員もいるのではないだろうか。

このような状況下、文科省はこれからの学修のあり方として、教員と学生の双方向性を確保した授業展開を求める傾向にある。コロナ禍での授業を経験してパソコン等の扱いに長けた学生が増えるなかで、学生との双方向性を確保するための工夫が教員は今後益々求められるだろう。

通常運転に戻った2023年度、学生たちが授業をどのように受け止めたのか、「学生による授業認識アンケート」の結果に表れている。本報告書はそのまとめである。アンケートの実施にご理解とご協力をいただいた全ての学生と教職員の方々に感謝申し上げたい。

ありがとうございました。

以上

## 2. 結果

### 2.1 2023 年度前期・学生による授業認識アンケート

#### 1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てることを目的として実施した。

#### 2. 実施の対象

- (1) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とした。
- (2) 対象科目は教員（専任・非常勤を問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とした。
- (3) 実施対象科目を全学 FD 委員会にて選定し、各学部学科にて精査したうえ決定とした。

#### 3. アンケート項目

2023年度前期の授業に関する学生の授業認識アンケートは以下の項目の通りであった。  
(対面授業に戻ったことから、2022年度の内容をQ3のみ変更)

##### 【シラバス】

**Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？**

Y) はい（おおよそ）知っています → Q1b に

N) いいえ（あまりよく）知りません → Q1b はとぼして Q2 に

**Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。**

5) 強くそう思う    4) どちらかと言えばそう思う    3) どちらとも言えない

2) どちらかと言えばそう思わない    1) まったくそう思わない

##### 【授業の難易度】

**Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。**

5) とても難しかった    4) やや難しかった    3) 適切だった

2) やや易しかった    1) とても易しかった

##### 【質問対応】

**Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。**

Y) はい、あります → Q4 に

N) いいえ、したことがありません → Q4 はとばして Q5 に

【フィードバック】

**Q4 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。**

- 5) 強くそう思う    4) どちらかと言えばそう思う    3) どちらとも言えない  
2) どちらかと言えばそう思わない    1) まったくそう思わない

【学生の意欲／熱意】

**Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。**

- 5) 強くそう思う    4) どちらかと言えばそう思う    3) どちらとも言えない  
2) どちらかと言えばそう思わない    1) まったくそう思わない

【教員の意欲／熱意】

**Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。**

- 5) 強くそう思う    4) どちらかと言えばそう思う    3) どちらとも言えない  
2) どちらかと言えばそう思わない    1) まったくそう思わない

【成長実感】

**Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」  
あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。**

- 5) 強くそう思う    4) どちらかと言えばそう思う    3) どちらとも言えない  
2) どちらかと言えばそう思わない    1) まったくそう思わない

【総合満足】

**Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1  
を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。**

- 10) 100%    9) 90%    8) 80%    7) 70%    6) 60%    5) 50%  
4) 40%    3) 30%    2) 20%    1) 10%

【自由記述】

**Q9a 授業について良かった点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読み  
ます)**

**Q9b 授業について困った点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読みま  
す)。**

## 4. 結果

### 4.1 対象科目数と対象人数

対象科目数は 804 科目、対象延べ学生数（各対象科目内の履修者数の合計）は 50,935 人、実際に回答した延べ学生数は 12,872 人であった。なお、今年度から重回帰分析からクロス集計へと分析方法が変更になったため、結果の表示に関しては 2022 年度と比較することが難しい点がある。特に、2023 年度は各設問の相関関係を示している。さらに全学的な結果に加え、全学共通科目でも同様の分析を行った。

### 4.2 のべ回答者数と回答率

各質問項目の回答分布にある回答者数（Q1b は 9,934 人、Q2 は 11,546 人、Q4 は 4,479 人、Q5 は 11,531 人、Q6 は 11,557 人、Q7 は 11,555 人、Q8 は 11,559 人）は、設問によって異なるが、全学平均の回答者数・回答率は、11,559 人、22.69%であった。

2022 年度は（一定の条件のもと）全科目を対象としたアンケートを実施しており、回答率は 25.15%（前期）であった。学生たちの回答科目数の多さから生じる慣れや負担、教員のコメント対応の負担等を考慮し、回答率をあげることを目的として 2023 年度は 1 人 1 科目のアンケートを実施した。1 科目であっても、確実にアンケートを実施することで、教員が自身の課題を認識し、授業の改善に活かすことが重要だと考えたからである。しかし、回答率だけをみると結果は芳しくない。

その原因として、以下の学科部局の回答率の低下が考えられる。中国文学科－6.28%、英米文学科－6.58%、教育学科－2.01%、社会経済学科－3.65%、現代経済学科－6.84%、中国語学科－5.56%、英語学科－6.15%、日本語学科－1.28%、法律学科－8.57%、国際関係学科－0.49%、国際文化学科－5.05%、経営学科－6.17%、看護学科－4.87%、国際交流センター－20.78%であった。

ちなみに上昇したのは、日本文学科、書道学科、歴史文化学科、政治学科、スポーツ科学科、健康科学科、社会学科、教職課程センターであった。

包括的な設問である Q8 の場合、今年度は全学的な回答者 11,559 人の評価は 6.31～9.87 の間に分布している（平均値 8.09）。昨年度は 6.26～9.88 の間に分布しており（平均値 8.07）、今年度とほぼ同じ値であった。

学年別では、1 年 > 2 年 > 3 年 > 4 年と学年があがるごとに回答率は落ちるが、これは全学平均も全学共通科目の平均も同様の傾向である。

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	449	1,110	1,559	28.80%
中国文学科	110	531	641	17.16%
英米文学科	341	1,789	2,130	16.01%
教育学科	817	3,572	4,389	18.61%
書道学科	131	529	660	19.85%
歴史文化学科	320	1,336	1,656	19.32%
社会経済学科	746	2,325	3,071	24.29%
現代経済学科	372	2,591	2,963	12.55%
中国語学科	335	1,073	1,408	23.79%
英語学科	914	3,081	3,995	22.88%
日本語学科	209	547	756	27.65%
法律学科	1,163	4,071	5,234	22.22%
政治学科	756	1,847	2,603	29.04%
国際関係学科	607	1,117	1,724	35.21%
国際文化学科	290	1,158	1,448	20.03%
経営学科	864	4,720	5,584	15.47%
スポーツ科学科	770	2,597	3,367	22.87%
健康科学科	408	1,136	1,544	26.42%
看護学科	237	806	1,043	22.72%
社会学科	1,320	2,321	3,641	36.25%
教職課程センター	352	995	1,347	26.13%
国際交流センター	48	124	172	27.91%
<b>全学</b>	<b>11,559</b>	<b>39,376</b>	<b>50,935</b>	<b>22.69%</b>

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	6,013	11,140	17,153	35.06%
2	2,904	12,247	15,151	19.17%
3	1,988	11,204	13,192	15.07%
4	635	4,663	5,298	11.99%

【全学共通科目】

学年別回答率

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	1,683	3,405	5,088	33.08%
2	638	2,738	3,376	18.90%
3	166	776	942	17.62%
4	109	764	873	12.49%
<b>全学</b>	<b>2,598</b>	<b>7,690</b>	<b>10,288</b>	<b>25.25%</b>

4.2.1 【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

全学では2「知っている」と回答したのは80.98%（昨年度は78.18%）であった。昨年度よりは改善されているが、やはり2割近くがシラバスを承知していない。「知っている」と回答した比率が最も高かったのは、昨年度に引き続き看護学科91.95%であった（昨年度89.43%）。

全学共通科目をみると83.17%と全学平均よりも高い結果となった。

学年別では全学も全学共通科目も、学年が上がるにつれ比率が高くなり、これも昨年度同

様である。

Q 1a 「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」 / 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	15.14%	84.86%
中国文学科	20.00%	80.00%
英米文学科	11.11%	88.89%
教育学科	18.38%	81.62%
書道学科	24.43%	75.57%
歴史文化学科	28.44%	71.56%
社会経済学科	11.68%	88.32%
現代経済学科	12.33%	87.67%
中国語学科	25.97%	74.03%
英語学科	21.64%	78.36%
日本語学科	15.38%	84.62%
法律学科	23.60%	76.40%
政治学科	18.65%	81.35%
国際関係学科	14.80%	85.20%
国際文化学科	16.15%	83.85%
経営学科	15.05%	84.95%
スポーツ科学科	26.14%	73.86%
健康科学科	14.67%	85.33%
看護学科	8.05%	91.95%
社会学科	21.04%	78.96%
教職課程センター	27.84%	72.16%
国際交流センター	20.83%	79.17%
<b>全学</b>	<b>19.02%</b>	<b>80.98%</b>

学年	1	2
1	19.03%	80.97%
2	19.98%	80.02%
3	18.94%	81.06%
4	15.28%	84.72%

【全学共通科目】

Q 1a 「シラバス既知」学年別回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」 / 2「はい（おおよそ）知っています」）

学年	1	2
1	16.88%	83.12%
2	18.84%	81.16%
3	13.17%	86.83%
4	10.09%	89.91%
<b>全学</b>	<b>16.83%</b>	<b>83.17%</b>

4.2.2 【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]



この設問は Q1a で 2「はい（おおよそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は 4.33（昨年度 4.30）で標準偏差は 0.72（昨年度 0.77）であった。大きな変化はないが僅かに改善が見られる。

学科で最も平均値が高かったのは書道学科で 4.54（昨年度は中国文学科で 4.54）であった。標準偏差の 0.6 を加味すると、3.94 から 5.14 の幅のなかにある。

全学共通科目の平均は 4.38、標準偏差は 0.71、全学平均より僅かに高い。最も数値が高かったのは社会経済学科で 4.56、標準偏差は 0.5 であった。

学科部局別、学年別、全学の回答分布をみると、5～1 の段階別の回答分布状況は、5「強くそう思う」、4「どちらかと言えばそう思う」の合計は全学 89.91%（昨年度 87.88%）、全学共通科目 91.27% であった。学生は「シラバスの記述通りに授業が行われた」と認識しており、概ね満足していると言えるだろう。

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	395	4.39	0.72
中国文学科	95	4.26	0.78
英米文学科	313	4.33	0.73
教育学科	704	4.36	0.69
書道学科	105	4.54	0.60
歴史文化学科	250	4.14	0.84
社会経済学科	686	4.31	0.68
現代経済学科	341	4.27	0.69
中国語学科	284	4.13	0.81
英語学科	771	4.37	0.71
日本語学科	183	4.42	0.73
法律学科	936	4.29	0.78
政治学科	656	4.28	0.71
国際関係学科	543	4.34	0.77
国際文化学科	256	4.36	0.68
経営学科	761	4.35	0.71
スポーツ科学科	635	4.48	0.71
健康科学科	361	4.39	0.68
看護学科	225	4.33	0.65
社会学科	1,122	4.31	0.70
教職課程センター	270	4.34	0.69
国際交流センター	42	4.60	0.66
<b>全学</b>	9,934	4.33	0.72

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	5,172	4.35	0.72
2	2,478	4.32	0.73
3	1,705	4.30	0.74
4	561	4.34	0.74

Q 1b 「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

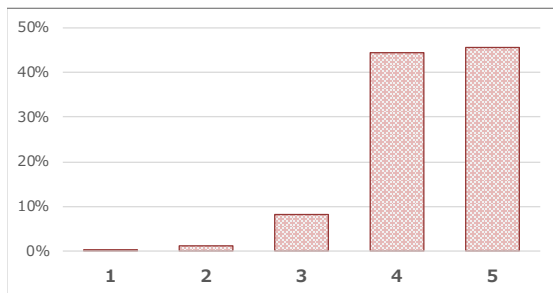
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.51%	1.52%	6.58%	41.52%	49.87%
中国文学科	1.05%	3.16%	5.26%	49.47%	41.05%
英米文学科	0.64%	1.92%	5.75%	47.28%	44.41%
教育学科	0.28%	0.71%	8.81%	43.47%	46.73%
書道学科	0.00%	0.00%	5.71%	34.29%	60.00%
歴史文化学科	1.20%	2.80%	14.00%	45.20%	36.80%
社会経済学科	0.29%	1.90%	5.25%	52.04%	40.52%
現代経済学科	0.29%	1.17%	8.50%	51.03%	39.00%
中国語学科	0.70%	2.46%	15.49%	46.13%	35.21%
英語学科	0.26%	1.17%	8.82%	40.86%	48.90%
日本語学科	1.09%	1.09%	4.92%	40.44%	52.46%
法律学科	0.96%	1.82%	8.87%	43.91%	44.44%
政治学科	0.46%	1.07%	9.45%	47.71%	41.31%
国際関係学科	0.92%	1.29%	8.66%	40.88%	48.25%
国際文化学科	0.00%	1.17%	7.81%	44.92%	46.09%
経営学科	0.26%	1.31%	8.54%	43.36%	46.52%
スポーツ科学科	0.47%	0.79%	7.72%	32.13%	58.90%
健康科学科	0.28%	0.83%	6.93%	43.49%	48.48%
看護学科	0.00%	0.89%	7.11%	49.78%	42.22%
社会学科	0.36%	1.16%	8.02%	48.13%	42.34%
教職課程センター	0.00%	1.11%	9.26%	43.70%	45.93%
国際交流センター	0.00%	0.00%	9.52%	21.43%	69.05%
<b>全学</b>	<b>0.46%</b>	<b>1.33%</b>	<b>8.29%</b>	<b>44.25%</b>	<b>45.66%</b>

Q 1b 「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.52%	1.01%	8.04%	43.64%	46.79%
2	0.48%	1.21%	9.08%	44.67%	44.55%
3	0.23%	2.35%	8.27%	45.69%	43.46%
4	0.53%	1.78%	7.31%	44.03%	46.35%

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	46	0.46%
2	132	1.33%
3	824	8.29%
4	4396	44.25%
5	4536	45.66%
合計	9934	

【全学共通科目】

Q 1b 「シラバス通り」学年別の平均値と標準偏差

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,482	4.38	0.70
2	543	4.38	0.69
3	153	4.37	0.79
4	99	4.42	0.73
全学	2,279	4.38	0.71

【全学共通科目】

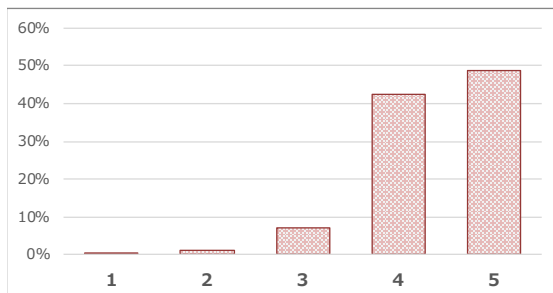
Q 1b 「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.54%	0.74%	7.15%	43.12%	48.45%
2	0.37%	0.92%	7.37%	43.28%	48.07%
3	0.00%	3.92%	7.84%	35.95%	52.29%
4	0.00%	3.03%	5.05%	38.38%	53.54%
全学	0.44%	1.10%	7.20%	42.43%	48.84%

【全学共通科目】

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	10	0.44%
2	25	1.10%
3	164	7.20%
4	967	42.43%
5	1113	48.84%
合計	2279	

#### 4.2.3 【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

この設問の回答は、5「とても難しかった」～1「とても易しかった」であり、数値が高いほど良いわけではない。全学の平均は3.58（昨年度3.60）、標準偏差は0.80であった。どの学科も3「適切だった」から4「やや難しかった」の間に平均があることから、難易度は概ね適切と言えるだろう。学科では、看護学科が3.86と最も高く（昨年度は健康科学科3.82）、授業内容をやや難しいと受け止めている傾向にある。

学科部局別と全学の回答分布状況をみると、全学では3と4の合計が82.66%であり、全体としては概ね適切ではあるものの、やや難しいと受け止めているようだ。なお、3「適切だった」が5割を超える高い数値を示したのは、日本文学科57.24%、日本語学科55.02%、スポーツ科学科57.76%、教職課程センター64.49%であった。

全学共通科目の平均は3.50、標準偏差0.83であった。3と4の合計は82.69%で、全学とほぼ同じであった。学年別では、全学も全学共通科目も、1年生と2年生のほうが3年生、4年生よりも数値が大きく、授業をやや難しいと受け止めている結果になった。

Q2「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	449	3.33	0.75
中国文学科	110	3.47	0.67
英米文学科	342	3.48	0.84
教育学科	816	3.67	0.86
書道学科	131	3.49	0.68
歴史文化学科	320	3.61	0.72
社会経済学科	745	3.66	0.71
現代経済学科	373	3.63	0.88
中国語学科	335	3.68	0.77
英語学科	915	3.58	0.77
日本語学科	209	3.37	0.75
法律学科	1,161	3.67	0.82
政治学科	753	3.62	0.80
国際関係学科	607	3.61	0.76
国際文化学科	291	3.56	0.81
経営学科	862	3.68	0.80
スポーツ科学科	767	3.29	0.89
健康科学科	408	3.80	0.81
看護学科	236	3.86	0.80
社会学科	1,316	3.55	0.78
教職課程センター	352	3.38	0.66
国際交流センター	48	3.63	0.78
<b>全学</b>	<b>11,546</b>	<b>3.58</b>	<b>0.80</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	6,001	3.57	0.82
2	2,903	3.66	0.79
3	1,989	3.56	0.78
4	634	3.48	0.74

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

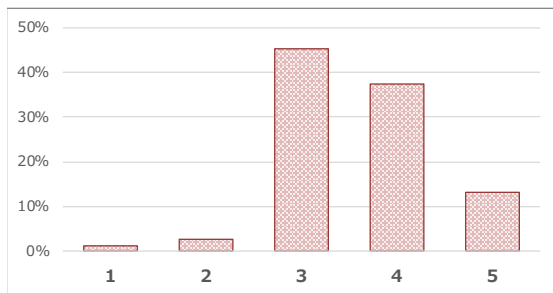
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	2.67%	3.56%	57.24%	30.73%	5.79%
中国文学科	0.00%	4.55%	49.09%	40.91%	5.45%
英米文学科	1.75%	5.85%	46.49%	34.50%	11.40%
教育学科	1.72%	2.57%	40.69%	37.25%	17.77%
書道学科	1.53%	2.29%	45.80%	46.56%	3.82%
歴史文化学科	0.31%	1.25%	47.50%	39.06%	11.88%
社会経済学科	0.27%	1.88%	40.94%	45.50%	11.41%
現代経済学科	2.14%	4.83%	36.73%	40.21%	16.09%
中国語学科	0.30%	2.09%	42.39%	39.40%	15.82%
英語学科	0.66%	3.06%	46.12%	38.03%	12.13%
日本語学科	2.39%	3.35%	55.02%	33.01%	6.22%
法律学科	0.95%	2.33%	43.41%	35.57%	17.74%
政治学科	0.93%	2.79%	43.96%	37.85%	14.48%
国際関係学科	0.99%	2.14%	43.66%	41.68%	11.53%
国際文化学科	1.72%	2.41%	47.08%	36.08%	12.71%
経営学科	1.51%	2.32%	36.89%	44.78%	14.50%
スポーツ科学科	4.95%	4.17%	57.76%	22.69%	10.43%
健康科学科	0.74%	1.23%	36.76%	40.20%	21.08%
看護学科	0.42%	1.69%	32.20%	42.80%	22.88%
社会学科	1.22%	2.89%	46.50%	38.15%	11.25%
教職課程センター	0.57%	1.42%	64.49%	26.70%	6.82%
国際交流センター	0.00%	6.25%	37.50%	43.75%	12.50%
<b>全学</b>	<b>1.38%</b>	<b>2.75%</b>	<b>45.18%</b>	<b>37.48%</b>	<b>13.22%</b>

Q 2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.72%	3.23%	44.86%	37.11%	13.08%
2	0.83%	2.38%	41.72%	39.99%	15.09%
3	1.11%	2.41%	47.96%	36.35%	12.17%
4	1.58%	0.79%	55.05%	33.44%	9.15%

Q2「難易度適切」に対する全学の回答分布

(1「とても易しかった」/ 2「やや易しかった」/ 3「適切だった」/ 4「やや難しかった」/ 5「とても難しかった」)



回答	回答者数	割合
1	159	1.38%
2	318	2.75%
3	5216	45.18%
4	4327	37.48%
5	1526	13.22%
合計	11546	

【全学共通科目】

Q2「難易度適切」学年別の平均値と標準偏差

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,680	3.50	0.84
2	636	3.56	0.82
3	167	3.38	0.87
4	109	3.47	0.72
全学	2,594	3.50	0.83

【全学共通科目】

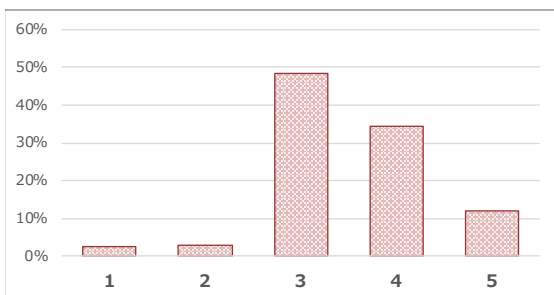
Q2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.86%	2.62%	47.74%	35.48%	11.31%
2	1.10%	3.77%	47.48%	33.49%	14.15%
3	3.59%	5.39%	50.90%	29.94%	10.18%
4	0.92%	0.00%	61.47%	26.61%	11.01%
全学	2.39%	2.97%	48.46%	34.23%	11.95%

#### 【全学共通科目】

Q2 「難易度適切」に対する全学の回答分布

(1「とても易かった」/ 2「やや易かった」/ 3「適切だった」/ 4「やや難しかった」/ 5「とても難しかった」)



回答	回答者数	割合
1	62	2.39%
2	77	2.97%
3	1257	48.46%
4	888	34.23%
5	310	11.95%
合計	2594	

#### 4.2.4 【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

全学で、1「あります」と回答したのは80.74%、全学共通科目でも84.61%と高い比率となった。昨年度は「質問やメール連絡をしたことがありますか」という設問であり、1「あります」が18.74%であった。質問だけでなくメール連絡の有無を尋ねたことが影響しているのかもしれない。対面授業に戻っていることもあり、教員と学生との距離が近くなったことも影響していると考えられる。

学科では、全学は一部学科が60%台であったが、大半の学科が70%台から80%台にあり、大きなばらつきはないが、部局では教職課程センター75.14%、国際交流センター45.83%と大きな差が出る結果となった。全学共通科目においても、1「あります」の回答は、41.18%～91.92%と大きな差が生じる結果となった。

学年別には、全学では1年生79.47%、2年生82.36%、3年生83.26%、4年生78.01%であり、4年生が最も高かった昨年度とはこの点は異なる。全学共通科目でも、1年生84.70%、2年生86.10%、3年生82.93%に対し、4年生76.85%と4年生は低かった。とはいえ、全体として75%を超えており、4年生が授業に対して消極的で、教員との距離が遠いというわけではないだろう。

### Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	79.87%	20.13%
中国文学科	77.27%	22.73%
英米文学科	73.61%	26.39%
教育学科	75.59%	24.41%
書道学科	71.76%	28.24%
歴史文化学科	82.70%	17.30%
社会経済学科	86.23%	13.77%
現代経済学科	86.76%	13.24%
中国語学科	72.89%	27.11%
英語学科	65.20%	34.80%
日本語学科	75.60%	24.40%
法律学科	85.96%	14.04%
政治学科	87.67%	12.33%
国際関係学科	76.32%	23.68%
国際文化学科	77.16%	22.84%
経営学科	88.02%	11.98%
スポーツ科学科	82.77%	17.23%
健康科学科	78.33%	21.67%
看護学科	89.74%	10.26%
社会学科	85.86%	14.14%
教職課程センター	75.14%	24.86%
国際交流センター	45.83%	54.17%
<b>全学</b>	<b>80.74%</b>	<b>19.26%</b>

学年	1	2
1	79.47%	20.53%
2	82.36%	17.64%
3	83.26%	16.74%
4	78.01%	21.99%

#### 【全学共通科目】

### Q3「質問対応」学年別回答

（1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学年	1	2
1	84.70%	15.30%
2	86.10%	13.90%
3	82.93%	17.07%
4	76.85%	23.15%
<b>全学</b>	<b>84.61%</b>	<b>15.39%</b>

#### 4.2.5 【Q4】 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は4.15（昨年度は3.95）、標準偏差は0.97（昨年度は0.98）であった。4「ど



ちらかと言えはそう思う」と5「強くそう思う」の間にあり、対応は迅速であったと認識されていると言える。学科部局別回答分布をみても、5が47.22%と半数に近い。対面で質問する機会が増え、その場で回答をもらった学生が多かったのかもしれない。

学科では書道学科4.63（標準偏差0.67）が最も高かった（昨年度は日本語学科4.33）。部局では国際交流センターが4.44（昨年度は国際交流センター4.64）、標準偏差0.83であり、昨年度と同じ部局であった。

全学共通科目の平均は4.09（昨年度は表は未記載、3.91）、標準偏差1.01（昨年度は0.98）であった。昨年度に比べると僅かに改善されたようである。

学年別では、全学では1年生の4.17（標準偏差0.98）から4年生の4.23（標準偏差1.01）の間にあり概して高い数値であり、学年による大きな違いはみられない。全学共通科目では、最も低い2年生3.98（標準偏差0.94）、最も高い4年生4.36（標準偏差1.02）と、全学に比べると幅はある。どちらにしても4年生の数値は高く、コロナ禍で大学生活の前半をオンライン授業で過ごした体験と比較し、現状の対応を迅速だと認識しているのかもしれない。

Q 4 「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	161	4.28	0.89
中国文学科	44	4.14	1.01
英米文学科	141	4.33	0.90
教育学科	339	4.24	0.97
書道学科	56	4.63	0.67
歴史文化学科	112	4.00	1.08
社会経済学科	283	3.94	1.02
現代経済学科	136	3.99	0.99
中国語学科	166	4.09	0.90
英語学科	458	4.29	0.96
日本語学科	93	4.34	0.87
法律学科	368	4.04	0.97
政治学科	269	4.03	0.93
国際関係学科	269	4.28	0.92
国際文化学科	129	4.22	0.93
経営学科	305	3.96	1.04
スポーツ科学科	310	4.09	1.08
健康科学科	177	4.19	0.90
看護学科	82	3.94	0.89
社会学科	423	4.11	0.93
教職課程センター	126	4.39	0.93
国際交流センター	32	4.44	0.83
<b>全学</b>	<b>4,479</b>	<b>4.15</b>	<b>0.97</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,401	4.17	0.98
2	1,073	4.08	0.96
3	753	4.12	0.95
4	243	4.23	1.01

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

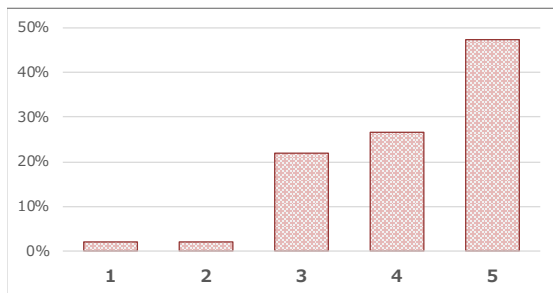
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.86%	0.62%	16.77%	29.19%	51.55%
中国文学科	4.55%	0.00%	18.18%	31.82%	45.45%
英米文学科	2.13%	0.71%	14.18%	28.37%	54.61%
教育学科	2.65%	2.95%	13.57%	29.20%	51.62%
書道学科	0.00%	0.00%	10.71%	16.07%	73.21%
歴史文化学科	2.68%	6.25%	23.21%	24.11%	43.75%
社会経済学科	2.47%	4.24%	27.56%	28.27%	37.46%
現代経済学科	2.21%	3.68%	25.00%	31.62%	37.50%
中国語学科	1.20%	1.81%	24.10%	32.53%	40.36%
英語学科	2.18%	2.40%	15.50%	24.02%	55.90%
日本語学科	0.00%	4.30%	13.98%	24.73%	56.99%
法律学科	1.63%	2.72%	26.63%	27.72%	41.30%
政治学科	1.12%	2.23%	28.25%	29.00%	39.41%
国際関係学科	1.86%	0.74%	19.33%	24.16%	53.90%
国際文化学科	1.55%	2.33%	17.83%	28.68%	49.61%
経営学科	2.95%	2.62%	30.49%	23.61%	40.33%
スポーツ科学科	4.19%	0.65%	27.42%	17.42%	50.32%
健康科学科	1.69%	0.56%	20.90%	30.51%	46.33%
看護学科	0.00%	2.44%	35.37%	28.05%	34.15%
社会学科	1.42%	2.36%	23.17%	30.26%	42.79%
教職課程センター	2.38%	0.00%	17.46%	16.67%	63.49%
国際交流センター	0.00%	3.13%	12.50%	21.88%	62.50%
<b>全学</b>	<b>2.05%</b>	<b>2.21%</b>	<b>22.01%</b>	<b>26.50%</b>	<b>47.22%</b>

Q 4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.25%	2.54%	19.49%	27.11%	48.60%
2	1.77%	1.96%	25.82%	27.03%	43.43%
3	1.33%	1.99%	25.76%	25.23%	45.68%
4	3.70%	0.41%	18.93%	22.63%	54.32%

Q 4 「フィードバック」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	92	2.05%
2	99	2.21%
3	986	22.01%
4	1187	26.50%
5	2115	47.22%
合計	4479	

【全学共通科目】

Q 4 「フィードバック」学年別の平均値と標準偏差

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	591	4.09	1.03
2	224	3.98	0.94
3	67	4.28	0.96
4	47	4.36	1.02
全学	930	4.09	1.01

【全学共通科目】

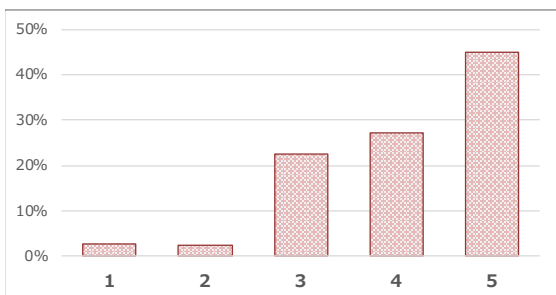
Q 4 「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	3.21%	2.54%	21.66%	27.24%	45.35%
2	1.79%	2.23%	28.13%	31.70%	36.16%
3	1.49%	2.99%	17.91%	20.90%	56.72%
4	4.26%	0.00%	14.89%	17.02%	63.83%
全学	2.80%	2.37%	22.58%	27.31%	44.95%

### 【全学共通科目】

#### Q4 「フィードバック」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」 )



回答	回答者数	割合
1	26	2.80%
2	22	2.37%
3	210	22.58%
4	254	27.31%
5	418	44.95%
合計	930	

#### 4.2.6 【Q5】 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

[自分意欲]

この設問に対する全学の平均は 4.06 (前年度は 4.12)、標準偏差 0.81 (前年度は 0.83) であり、前年度と大差のない数値であった。学科別では、スポーツ科学科 4.34 (標準偏差 0.74) が最も高いが (昨年度は書道学科 4.4)、学科による数値の幅は小さい。部局では教職課程センター 4.17 (昨年度は国際交流センター 4.53) が高かった。

学科部局別の回答分布をみても、4「どちらかと言えばそう思う」 50.15%、5「強くそう思う」 30.24%と、4と5で8割を超えており、学生は意欲をもって授業に取り組んだと言えるだろう。

学年別では、1年生から3年生は 4.0 を超えており、4年生 3.98 (標準偏差 0.82) が最も低いが大差のない数値となっている。

全学共通科目では平均 4.04 (昨年度は表は未記載、4.09)、標準偏差 0.83 (昨年度 0.83) とほぼ同じと言ってよいだろう。回答分布は、4「どちらかと言えばそう思う」 49.52%、5「強くそう思う」 30.24%と、4と5で 79.76%とほぼ8割であることから、学生は意欲をもって授業に取り組んだと言えるだろう。

学年別では、どの学年も 4以上となっており大差はみられない。

Q5「自分意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	448	4.08	0.79
中国文学科	110	3.95	0.85
英米文学科	341	4.12	0.79
教育学科	816	4.09	0.84
書道学科	131	4.31	0.69
歴史文化学科	320	3.92	0.88
社会経済学科	745	3.97	0.77
現代経済学科	372	3.97	0.84
中国語学科	334	4.06	0.88
英語学科	911	4.20	0.81
日本語学科	208	4.10	0.89
法律学科	1,161	3.97	0.83
政治学科	755	3.96	0.77
国際関係学科	604	4.11	0.76
国際文化学科	288	4.11	0.75
経営学科	859	3.96	0.81
スポーツ科学科	767	4.34	0.74
健康科学科	407	4.09	0.80
看護学科	237	4.07	0.72
社会学科	1,317	3.96	0.84
教職課程センター	352	4.17	0.74
国際交流センター	48	3.85	1.10
<b>全学</b>	<b>11,531</b>	<b>4.06</b>	<b>0.81</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	5,993	4.07	0.82
2	2,899	4.02	0.82
3	1,985	4.09	0.76
4	635	3.98	0.82

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

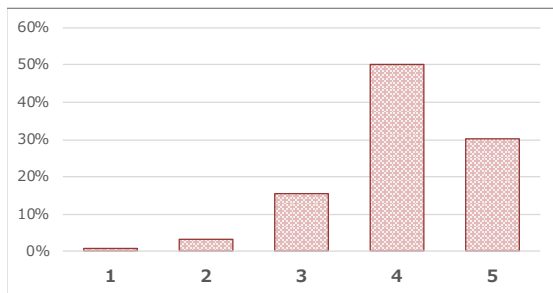
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.67%	2.90%	14.51%	51.56%	30.36%
中国文学科	0.91%	4.55%	19.09%	49.09%	26.36%
英米文学科	0.00%	4.11%	13.49%	48.97%	33.43%
教育学科	1.10%	3.31%	14.58%	47.79%	33.21%
書道学科	0.00%	2.29%	6.11%	50.38%	41.22%
歴史文化学科	2.19%	3.75%	18.75%	50.63%	24.69%
社会経済学科	0.67%	3.22%	17.58%	55.44%	23.09%
現代経済学科	0.81%	4.57%	18.28%	49.46%	26.88%
中国語学科	1.50%	3.29%	16.77%	44.91%	33.53%
英語学科	0.66%	3.18%	11.75%	44.46%	39.96%
日本語学科	1.92%	2.88%	14.90%	44.23%	36.06%
法律学科	0.78%	4.31%	18.00%	50.90%	26.01%
政治学科	0.66%	2.52%	20.53%	53.11%	23.18%
国際関係学科	0.99%	0.83%	15.40%	51.82%	30.96%
国際文化学科	1.39%	0.69%	12.50%	55.90%	29.51%
経営学科	0.70%	4.07%	18.51%	51.57%	25.15%
スポーツ科学科	0.65%	1.30%	8.47%	42.89%	46.68%
健康科学科	0.74%	3.19%	14.00%	50.12%	31.94%
看護学科	0.84%	1.69%	12.66%	59.07%	25.74%
社会学科	1.37%	3.95%	16.93%	52.77%	24.98%
教職課程センター	0.57%	1.14%	13.35%	50.57%	34.38%
国際交流センター	4.17%	6.25%	25.00%	29.17%	35.42%
<b>全学</b>	<b>0.91%</b>	<b>3.10%</b>	<b>15.59%</b>	<b>50.15%</b>	<b>30.24%</b>

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.88%	3.32%	15.23%	48.56%	32.00%
2	1.10%	3.07%	16.97%	50.74%	28.11%
3	0.60%	2.57%	13.70%	53.85%	29.27%
4	1.26%	2.83%	18.58%	50.87%	26.46%

Q 5 「自分意欲」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	105	0.91%
2	358	3.10%
3	1798	15.59%
4	5783	50.15%
5	3487	30.24%
合計	11531	

【全学共通科目】

Q 5 「自分意欲」学年別の平均値と標準偏差

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,675	4.04	0.83
2	637	4.01	0.84
3	166	4.17	0.77
4	109	4.03	0.84
全学	2,589	4.04	0.83

【全学共通科目】

Q 5 「自分意欲」に対する学年別回答分布

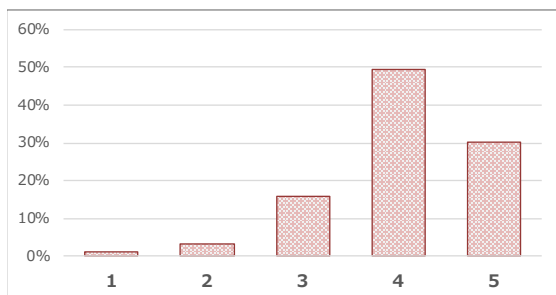
学年	1	2	3	4	5
1	0.90%	3.82%	15.82%	48.84%	30.63%
2	1.73%	2.35%	17.58%	49.92%	28.41%
3	1.20%	1.81%	9.64%	53.01%	34.34%
4	1.83%	2.75%	14.68%	52.29%	28.44%
全学	1.16%	3.28%	15.80%	49.52%	30.24%



### 【全学共通科目】

#### Q 5 「自分意欲」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」 )



回答	回答者数	割合
1	30	1.16%
2	85	3.28%
3	409	15.80%
4	1282	49.52%
5	783	30.24%
合計	2589	

#### 4.2.7 【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

この設問に対する全学平均は 4.46 (昨年度は 4.43)、標準偏差 0.75 (昨年度は 0.78) と、わずかにアップしているが、ほぼ昨年度並みと言える。4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の中間であり、学科部局別と全学の回答分布をみても、5 が 57.86%、4 が 33.15% という分布で、5 が半数を超えている。4 と 5 の合計で 91.01% と高い数値を示し、満足してよい結果と言えるだろう。これはどの学科も同じ傾向にある。

学科別では書道学科が 4.83、標準偏差 0.39 と最も高かった (昨年度は中国文学科 4.68)。部局では教職課程センターが 4.59 (標準偏差 0.71) と高かった (昨年度は国際交流センター 4.75)。学年別ではどの学年も 4.4 以上であり概して高い。

全学共通科目の平均 4.49、標準偏差 0.70 と全学の平均とほぼ同じ結果となった。回答分布も 5 が 58.95%、4 が 33.38%、92.33% と全学の回答分布よりも高い数値となった。こちらも満足してよい結果と言えるだろう。

学年別では、全学も全学共通科目でも高い数値を示し、学年による違いは見られない。

Q 6「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	449	4.54	0.68
中国文学科	110	4.46	0.73
英米文学科	342	4.50	0.71
教育学科	816	4.44	0.78
書道学科	131	4.83	0.39
歴史文化学科	320	4.33	0.84
社会経済学科	744	4.45	0.74
現代経済学科	373	4.25	0.81
中国語学科	335	4.41	0.73
英語学科	915	4.48	0.82
日本語学科	208	4.55	0.76
法律学科	1,162	4.36	0.80
政治学科	756	4.41	0.72
国際関係学科	608	4.58	0.69
国際文化学科	290	4.44	0.72
経営学科	863	4.34	0.80
スポーツ科学科	770	4.66	0.64
健康科学科	409	4.51	0.71
看護学科	237	4.48	0.68
社会学科	1,321	4.45	0.68
教職課程センター	350	4.59	0.71
国際交流センター	48	4.52	0.68
<b>全学</b>	<b>11,557</b>	<b>4.46</b>	<b>0.75</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	6,011	4.46	0.75
2	2,901	4.44	0.75
3	1,991	4.48	0.74
4	635	4.49	0.75

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

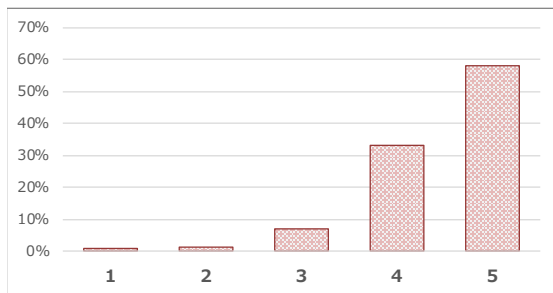
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.45%	1.34%	4.23%	32.07%	61.92%
中国文学科	0.91%	0.91%	6.36%	34.55%	57.27%
英米文学科	0.29%	1.17%	7.31%	30.70%	60.53%
教育学科	0.98%	1.59%	7.11%	33.09%	57.23%
書道学科	0.00%	0.00%	0.76%	15.27%	83.97%
歴史文化学科	1.88%	0.94%	10.00%	36.88%	50.31%
社会経済学科	0.67%	1.34%	6.72%	35.22%	56.05%
現代経済学科	1.07%	2.14%	10.72%	42.90%	43.16%
中国語学科	0.90%	1.19%	5.37%	41.49%	51.04%
英語学科	1.31%	1.86%	7.54%	26.12%	63.17%
日本語学科	0.48%	2.40%	6.73%	22.12%	68.27%
法律学科	1.12%	1.64%	9.21%	36.32%	51.72%
政治学科	0.66%	0.66%	8.07%	37.83%	52.78%
国際関係学科	0.82%	0.66%	4.77%	26.81%	66.94%
国際文化学科	0.69%	1.03%	6.21%	37.59%	54.48%
経営学科	0.35%	3.94%	6.95%	38.59%	50.17%
スポーツ科学科	0.65%	0.13%	4.81%	21.30%	73.12%
健康科学科	0.73%	0.73%	6.11%	31.78%	60.64%
看護学科	0.00%	2.11%	4.22%	37.13%	56.54%
社会学科	0.30%	0.83%	6.74%	37.70%	54.43%
教職課程センター	0.86%	0.57%	6.00%	24.00%	68.57%
国際交流センター	0.00%	0.00%	10.42%	27.08%	62.50%
<b>全学</b>	<b>0.74%</b>	<b>1.37%</b>	<b>6.88%</b>	<b>33.15%</b>	<b>57.86%</b>

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.73%	1.36%	7.02%	32.82%	58.06%
2	0.69%	1.38%	7.48%	34.54%	55.91%
3	0.70%	1.66%	5.68%	32.90%	59.07%
4	1.26%	0.47%	6.77%	31.18%	60.31%

Q 6 「教員熱意」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」 )



回答	回答者数	割合
1	86	0.74%
2	158	1.37%
3	795	6.88%
4	3831	33.15%
5	6687	57.86%
合計	11557	

【全学共通科目】

Q 6 「教員熱意」学年別の平均値と標準偏差

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,683	4.48	0.70
2	636	4.51	0.65
3	167	4.57	0.76
4	109	4.46	0.83
全学	2,597	4.49	0.70

【全学共通科目】

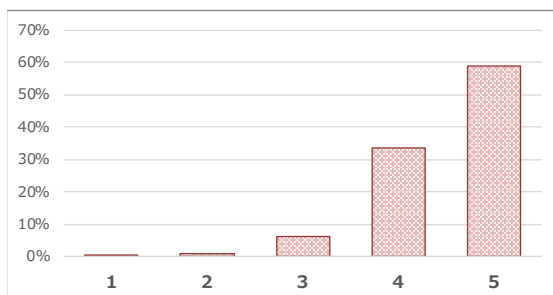
Q 6 「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.42%	0.89%	6.77%	33.99%	57.93%
2	0.31%	0.31%	5.82%	34.75%	58.81%
3	0.60%	2.99%	4.19%	23.35%	68.86%
4	2.75%	0.00%	5.50%	32.11%	59.63%
全学	0.50%	0.85%	6.31%	33.38%	58.95%

【全学共通科目】

Q 6 「教員熱意」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」 )



回答	回答者数	割合
1	13	0.50%
2	22	0.85%
3	164	6.31%
4	867	33.38%
5	1531	58.95%
合計	2597	

4.2.8 【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]

この設問に対する全学の平均は 4.26(昨年度は 4.25)、標準偏差は 0.81 (昨年度は 0.83) であった。昨年度とほぼ同じ数値となった。全体としてはまずまずの結果と言えるだろう。学科では、書道学科 4.63 (標準偏差 0.58) と最も高く (昨年度は中国文学科 4.58)、部局では教職課程センター4.45、標準偏差 0.73 (昨年度は国際交流センター4.65) であった。

学科・部局別、および全学の回答分布をみると、4「どちらかと言えばそう思う」43.38%、5「強くそう思う」43.78%であり、ほぼ同じ割合となっている。4よりも5の割合のほうが高かったのは、中国文学科 46.79%、書道学科 68.70%、英語学科 51.58%、日本語学科 45.45%、国際関係学科 48.11%、国際文化学科 46.90%、スポーツ科学科 59.56%、健康科学科 47.06% であった。中国語学科は、4と5が 45.83%と同じ割合であった。なかでも、書道学科とスポーツ科学科は高い数値を示しており、具体的な技術の習得と成長実感が結びついていることが考えられる。部局では、教育課程センターも国際交流センターも5の割合が高く、教育課程センター55.68%、国際交流センター47.92%であった。

全学共通科目の平均は 4.28、標準偏差 0.80 であった (昨年度は表は未掲載、4.25、標準偏差 0.79)。全学の平均とほぼ同じといえる。こちらでもまずまずの結果と言えるだろう。

学年別では、1年生、2年生よりも3年生、4年生が高い数値を示し、学年別の回答分布を見ると、全学でも全学共通科目でも5「強くそう思う」の割合は4年生が最も高い (全学 48.03%、全学共通科目 52.29%)。

Q7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	449	4.28	0.80
中国文学科	109	4.27	0.82
英米文学科	341	4.19	0.83
教育学科	817	4.23	0.84
書道学科	131	4.63	0.58
歴史文化学科	319	4.10	0.86
社会経済学科	745	4.21	0.77
現代経済学科	372	4.14	0.86
中国語学科	336	4.32	0.82
英語学科	915	4.36	0.80
日本語学科	209	4.26	0.86
法律学科	1,162	4.18	0.87
政治学科	755	4.20	0.75
国際関係学科	607	4.35	0.77
国際文化学科	290	4.36	0.72
経営学科	863	4.21	0.82
スポーツ科学科	769	4.48	0.75
健康科学科	408	4.34	0.74
看護学科	237	4.26	0.74
社会学科	1,321	4.17	0.83
教職課程センター	352	4.45	0.73
国際交流センター	48	4.31	0.85
<b>全学</b>	<b>11,555</b>	<b>4.26</b>	<b>0.81</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	6,010	4.27	0.82
2	2,900	4.21	0.81
3	1,991	4.31	0.77
4	635	4.35	0.77

Q7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

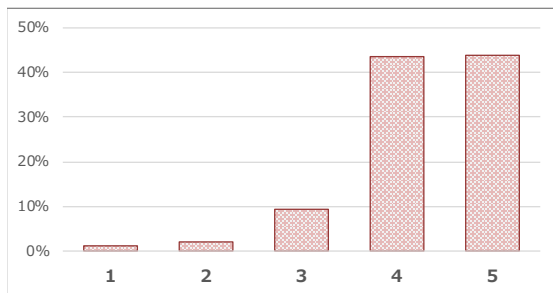
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.11%	2.00%	9.35%	42.54%	44.99%
中国文学科	0.92%	0.92%	15.60%	35.78%	46.79%
英米文学科	1.17%	2.93%	11.14%	44.87%	39.88%
教育学科	1.35%	2.94%	9.42%	43.82%	42.47%
書道学科	0.00%	0.00%	5.34%	25.95%	68.70%
歴史文化学科	1.88%	2.82%	12.23%	49.22%	33.86%
社会経済学科	1.34%	1.61%	8.72%	51.14%	37.18%
現代経済学科	1.08%	3.49%	13.98%	43.55%	37.90%
中国語学科	2.38%	1.19%	4.76%	45.83%	45.83%
英語学科	0.98%	2.08%	8.52%	36.83%	51.58%
日本語学科	1.91%	2.39%	8.61%	41.63%	45.45%
法律学科	1.72%	3.10%	10.76%	43.89%	40.53%
政治学科	0.79%	1.59%	10.73%	50.60%	36.29%
国際関係学科	1.15%	1.48%	7.08%	42.17%	48.11%
国際文化学科	1.03%	0.34%	6.90%	44.83%	46.90%
経営学科	1.04%	2.67%	11.01%	44.84%	40.44%
スポーツ科学科	0.78%	1.30%	6.76%	31.60%	59.56%
健康科学科	0.49%	1.23%	9.31%	41.91%	47.06%
看護学科	0.42%	1.69%	10.13%	47.26%	40.51%
社会学科	1.36%	2.80%	10.90%	47.16%	37.77%
教職課程センター	0.85%	0.85%	6.82%	35.80%	55.68%
国際交流センター	2.08%	2.08%	6.25%	41.67%	47.92%
<b>全学</b>	<b>1.19%</b>	<b>2.14%</b>	<b>9.50%</b>	<b>43.38%</b>	<b>43.78%</b>

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.20%	2.46%	9.70%	41.91%	44.73%
2	1.14%	2.07%	11.38%	45.59%	39.83%
3	1.26%	1.31%	7.38%	44.90%	45.15%
4	1.26%	1.73%	5.67%	43.31%	48.03%

Q7「成長感覚」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」 )



回答	回答者数	割合
1	138	1.19%
2	247	2.14%
3	1098	9.50%
4	5013	43.38%
5	5059	43.78%
合計	11555	

【全学共通科目】

Q7「成長感覚」学年別の平均値と標準偏差

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,681	4.26	0.81
2	637	4.26	0.78
3	166	4.49	0.73
4	109	4.36	0.85
全学	2,595	4.28	0.80

【全学共通科目】

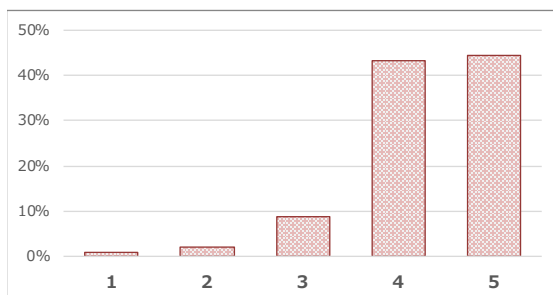
Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.13%	2.50%	8.74%	44.56%	43.07%
2	0.78%	1.88%	10.68%	44.11%	42.54%
3	0.60%	1.20%	6.63%	31.93%	59.64%
4	1.83%	2.75%	5.50%	37.61%	52.29%
全学	1.04%	2.27%	8.98%	43.31%	44.39%

【全学共通科目】

Q7「成長感覚」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」 )



回答	回答者数	割合
1	27	1.04%
2	59	2.27%
3	233	8.98%
4	1124	43.31%
5	1152	44.39%
合計	2595	



4.2.9 【Q8】 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10 を「100%満足」、1 を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。[総合満足]

この設問に対する回答の全学の平均は8.09（昨年度8.07）、標準偏差は1.78（昨年度1.81）であった。昨年度前期よりほんの僅かに平均値は上昇し、標準偏差は僅かに下降している。「100点満点の80.9点」という結果であり、まずは「合格点」と言えるのではないだろうか。学科では書道学科8.92、標準偏差1.38（昨年度は中国文学科8.73）であった。標準偏差が最も低いのも書道学科であった。部局では教職課程センター8.40（昨年度は国際交流センター9.22）が高かった。

学科部局別、および全学の回答分布をみると、8が24.28%、9が21.55%、10が24.81%、合計70.64%と全体の7割以上を占める。最頻値は10であった。昨年度は8～10の合計が70.6%と今年度とほぼ同じであった。しかし、その内訳は8が24.7%、9が21.8%、10が24.2%であったことから、全体として総合満足度は高くなっていると考えられることができるだろう。

学科では、10が最も高い数値を示すのは、日本文学科30.96%、書道学科45.04%、スポーツ科学科42.60%であった。書道学科は1～3までが0%であり、8～10で87.78%と概して満足度が高い。10の割合が30%を超えたのは、今年度は上記3学科のみであった（昨年度は6学科）。10の割合については、18.52%～45.04%と学科によって大きな違いが見られる。

部局では、10の割合は教職課程センター29.26%、国際交流センター29.17%と大きな差はないが、8～10の合計が教職課程センター78.13%、国際交流センター58.34%であった。

全学共通科目の平均は8.19、標準偏差1.71（昨年度は表は未掲載8.09、標準偏差1.74）であった。回答分布をみると、8が22.90%、9が21.94%、10が26.83%、8～10の合計が71.67%であった。全学の平均よりも僅かに高い割合となった。

学年別では、全学、全学共通科目ともに4年生は10の割合が高く、これは例年同様の傾向である。回答者数が少ない点は注意すべきであるが、全学、全学共通科目の両方で1が最も高い数値を示すのも4年生であることは無視できない。

Q 8「総合満足」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	449	8.45	1.56
中国文学科	110	8.15	1.75
英米文学科	341	8.07	1.72
教育学科	817	7.96	1.82
書道学科	131	8.92	1.38
歴史文化学科	320	7.80	2.00
社会経済学科	746	7.98	1.69
現代経済学科	372	8.06	1.68
中国語学科	335	7.99	1.83
英語学科	914	8.26	1.80
日本語学科	209	8.25	1.76
法律学科	1,163	7.80	2.01
政治学科	756	8.02	1.65
国際関係学科	607	8.21	1.73
国際文化学科	290	8.24	1.62
経営学科	864	7.79	1.85
スポーツ科学科	770	8.76	1.50
健康科学科	408	8.11	1.72
看護学科	237	7.75	1.78
社会学科	1,320	8.02	1.74
教職課程センター	352	8.40	1.61
国際交流センター	48	7.83	2.05
<b>全学</b>	<b>11,559</b>	<b>8.09</b>	<b>1.78</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	6,013	8.10	1.76
2	2,904	8.00	1.78
3	1,988	8.16	1.81
4	635	8.24	1.79

Q 8 「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

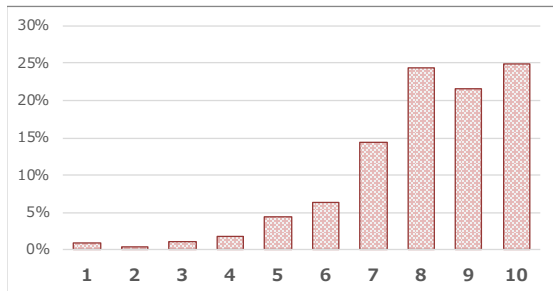
学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.22%	0.00%	0.89%	0.89%	4.45%	3.79%	12.47%	20.04%	26.28%	30.96%
中国文学科	0.91%	0.00%	1.82%	1.82%	2.73%	6.36%	15.45%	21.82%	24.55%	24.55%
英米文学科	0.00%	0.00%	1.17%	2.93%	6.16%	6.74%	15.54%	19.65%	23.46%	24.34%
教育学科	0.49%	0.49%	1.71%	2.69%	4.90%	7.59%	15.67%	23.62%	18.60%	24.24%
書道学科	0.00%	0.00%	0.00%	1.53%	3.05%	3.05%	4.58%	14.50%	28.24%	45.04%
歴史文化学科	1.25%	1.25%	2.19%	2.81%	4.69%	7.19%	16.56%	23.44%	17.50%	23.13%
社会経済学科	0.80%	0.54%	1.21%	1.74%	2.55%	8.18%	16.09%	28.15%	21.72%	19.03%
現代経済学科	0.54%	0.27%	0.27%	1.61%	5.65%	7.26%	16.94%	24.73%	17.74%	25.00%
中国語学科	1.49%	0.00%	1.49%	2.39%	3.88%	8.06%	11.34%	27.16%	22.99%	21.19%
英語学科	0.98%	0.33%	1.20%	2.41%	3.39%	5.03%	10.72%	23.52%	22.87%	29.54%
日本語学科	0.48%	0.48%	1.44%	0.96%	6.22%	4.31%	11.00%	23.92%	22.01%	29.19%
法律学科	1.98%	0.77%	1.55%	2.58%	5.59%	6.88%	16.68%	22.53%	19.60%	21.84%
政治学科	0.53%	0.26%	1.06%	1.46%	4.89%	6.35%	16.53%	26.32%	23.28%	19.31%
国際関係学科	1.15%	0.66%	0.82%	0.82%	3.62%	5.11%	13.01%	24.88%	25.04%	24.88%
国際文化学科	0.69%	0.69%	0.69%	1.38%	2.76%	3.10%	15.17%	27.24%	25.17%	23.10%
経営学科	1.39%	1.04%	1.04%	1.62%	5.09%	7.99%	17.82%	26.97%	18.52%	18.52%
スポーツ科学科	0.65%	0.00%	0.39%	0.78%	2.08%	2.21%	9.61%	21.30%	20.39%	42.60%
健康科学科	0.74%	0.49%	0.74%	0.98%	5.64%	5.88%	14.71%	25.98%	19.61%	25.25%
看護学科	0.00%	0.42%	1.69%	2.95%	7.59%	9.70%	16.88%	23.21%	18.14%	19.41%
社会学科	0.98%	0.53%	0.61%	1.89%	4.32%	7.12%	15.15%	25.98%	22.27%	21.14%
教職課程センター	0.28%	0.57%	0.85%	1.14%	3.13%	4.55%	11.36%	23.30%	25.57%	29.26%
国際交流センター	2.08%	0.00%	2.08%	0.00%	6.25%	16.67%	14.58%	12.50%	16.67%	29.17%
全学	0.90%	0.48%	1.07%	1.82%	4.36%	6.27%	14.46%	24.28%	21.55%	24.81%

Q 8 「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.81%	0.35%	1.03%	1.71%	4.61%	6.62%	15.08%	23.18%	21.34%	25.26%
2	0.72%	0.45%	1.38%	2.00%	4.61%	7.16%	15.60%	24.28%	21.11%	22.69%
3	1.21%	0.91%	0.91%	1.96%	3.47%	4.28%	11.92%	27.52%	22.43%	25.40%
4	1.57%	0.47%	0.31%	1.42%	3.78%	5.20%	11.65%	24.88%	22.68%	28.03%

Q 8 「総合満足」に対する全学の回答分布

( 1「10%」/ 2「20%」/ … / 9「90%」/ 10「100%」)



回答	回答者数	割合
1	104	0.90%
2	55	0.48%
3	124	1.07%
4	210	1.82%
5	504	4.36%
6	725	6.27%
7	1672	14.46%
8	2806	24.28%
9	2491	21.55%
10	2868	24.81%
合計	11559	

【全学共通科目】

Q 8 「総合満足」学年別の平均値と標準偏差

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,683	8.17	1.68
2	638	8.12	1.75
3	166	8.58	1.55
4	109	8.31	1.98
全学	2,598	8.19	1.71

【全学共通科目】

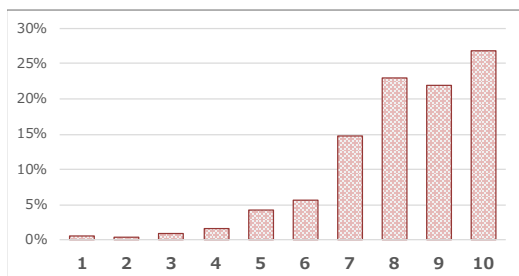
Q 8 「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.48%	0.36%	0.77%	1.60%	4.52%	5.94%	15.45%	22.76%	22.34%	25.79%
2	0.63%	0.16%	1.41%	1.88%	4.86%	5.80%	14.89%	23.20%	21.32%	25.86%
3	0.60%	1.20%	0.00%	0.00%	1.81%	3.01%	11.45%	24.70%	22.29%	34.94%
4	1.83%	0.92%	0.92%	2.75%	1.83%	5.50%	10.09%	21.10%	18.35%	36.70%
全学	0.58%	0.38%	0.92%	1.62%	4.31%	5.70%	14.82%	22.90%	21.94%	26.83%

【全学共通科目】

Q8 「総合満足」に対する全学の回答分布

( 1「10%」/ 2「20%」/ … / 9「90%」/ 10「100%」)



回答	回答者数	割合
1	15	0.58%
2	10	0.38%
3	24	0.92%
4	42	1.62%
5	112	4.31%
6	148	5.70%
7	385	14.82%
8	595	22.90%
9	570	21.94%
10	697	26.83%
合計	2598	

4.3.1 【クロス表に関する結果（全学）】

当該クロス表(表1,2)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、最も右の列に「どちらかと言えばそう思う」と「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。

この表に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の箇所の数字が高くなっていることが見て取れる。さらに、最も右の列の数字に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことがより顕著に示されている。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

表1：クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）[回答数]

	自分意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも思えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	28	8	17	19	13	85	32
	2 どちらかと言えばそう思わない	8	38	47	49	15	157	64
	3 どちらとも思えない	22	92	453	188	38	793	226
	4 どちらかと言えばそう思う	27	138	769	2,616	270	3,820	2,886
	5 強くそう思う	20	81	512	2,906	3,150	6,669	6,056
	合計	105	357	1,798	5,778	3,486	11,524	9,264

表2：クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）[パーセント]

	自分意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも思えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う			
教員熱意	1 まったくそう思わない	32.94%	9.41%	20.00%	22.35%	15.29%	100.00%	37.65%
	2 どちらかと言えばそう思わない	5.10%	24.20%	29.94%	31.21%	9.55%	100.00%	40.76%
	3 どちらとも思えない	2.77%	11.60%	57.12%	23.71%	4.79%	100.00%	28.50%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.71%	3.61%	20.13%	68.48%	7.07%	100.00%	75.55%
	5 強くそう思う	0.30%	1.21%	7.68%	43.57%	47.23%	100.00%	90.81%

#### 4.3.2 【クロス表に関する結果解釈（全学共通科目）】

当該クロス表(表 1,2)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、最も右の列に「どちらかと言えばそう思う」と「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。

この表に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の箇所の数字が高くなっていることが見て取れる。さらに、最も右の列の数字に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことがより顕著に示されている。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1：【全学共通科目】 クロス集計（【自分意欲】 × 【教員熱意】） [回答数]

	自分意欲					合計	4+5	
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも思えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う			
教員熱意	3	1	4	4	1	13	5	
1 まったくそう思わない	2	6	7	4	3	22	7	
2 どちらかと言えばそう思わない	8	13	100	33	9	163	42	
3 どちらとも思えない	6	36	178	579	65	864	644	
4 どちらかと言えばそう思う	11	29	120	661	704	1,525	1,365	
5 強くそう思う	合計	30	85	409	1,281	782	2,587	2,063

表 2：【全学共通科目】 クロス集計（【自分意欲】 × 【教員熱意】） [パーセント]

	自分意欲					合計	4+5
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも思えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	23.08%	7.69%	30.77%	30.77%	7.69%	100.00%	38.46%
1 まったくそう思わない	9.09%	27.27%	31.82%	18.18%	13.64%	100.00%	31.82%
2 どちらかと言えばそう思わない	4.91%	7.98%	61.35%	20.25%	5.52%	100.00%	25.77%
3 どちらとも思えない	0.69%	4.17%	20.60%	67.01%	7.52%	100.00%	74.54%
4 どちらかと言えばそう思う	0.72%	1.90%	7.87%	43.34%	46.16%	100.00%	89.51%
5 強くそう思う							

#### 4.4.1 【相関表に関する結果（全学）】

相関係数に関しては、+0.3~+0.6(-0.3~-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6~+1(-0.6~-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関表では、弱い正の相関関係をオレンジ色、強い正の相関関係を赤字で記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全てに関して、正の相関関係がみられた。

もっとも重要な「総合満足度」に対しては、特に「成長実感」との間に強い正の相関関係がみられ、その他、正の相関関係が強い順で、「教員の熱意」、「自分の意欲」、「フィードバックが丁寧かどうか」、「シラバス通りかどうか」と続く。ここから、「総合満足度」の向上に対しては、「成長実感を持てるかどうか」が重要な構成要素であり、その他、「教員の熱意」、

「自分の熱意」、「フィードバックが丁寧かどうか」、「シラバス通りかどうか」の順で重要な要素であることが分かった。

次に、その「成長実感」と関連性の強い項目をみていくと、「教員の熱意」との間に強い正の相関関係がみられ、「自分の意欲」、「フィードバックが丁寧かどうか」、「シラバス通りかどうか」と続いている。ここから、「成長実感」の向上に対しては、「教員の熱意があるかどうか」が重要な構成要素であり、その他、「自分の意欲」、「フィードバックが丁寧かどうか」、「シラバス通りかどうか」の順で重要な要素であることが示された。

「難易度が適切かどうか」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度」などの他の変数が5点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度」は3点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、「難易度」と他の変数における関連性は、単純に2つの変数が共変しているかどうかを測る相関分析で測ることができない。よって、「難易度が適切かどうか」に関わる結果に対して妥当な解釈は困難であろう。

まとめると、教員の熱意が学生の意欲向上や成長実感に繋がり、それが「総合満足度」に大きく影響を与えていることが示された。

表1：相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		〔シラバス通り〕	〔難易度適切〕	〔FB丁寧〕	〔自分意欲〕	〔教員熱意〕	〔成長実感〕	〔総合満足〕
Q1b	〔シラバス通り〕	1.00						
Q2	〔難易度適切〕	-0.07	1.00					
Q4	〔FB丁寧〕	0.38	-0.06	1.00				
Q5	〔自分意欲〕	0.38	-0.11	0.44	1.00			
Q6	〔教員熱意〕	0.47	-0.09	0.47	0.48	1.00		
Q7	〔成長実感〕	0.45	-0.14	0.47	0.56	0.60	1.00	
Q8	〔総合満足〕	0.47	-0.24	0.47	0.53	0.58	0.65	1.00

#### 4.4.2 【相関表に関する結果（全学共通科目）】

相関係数に関しては、+0.3~+0.6(-0.3~-0.6)で弱い正（負）の相関関係、+0.6~+1(-0.6~-1)で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関表では、弱い正の相関関係をオレンジ色、強い正の相関関係を赤字で記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全てに関して、正の相関関係がみられた。

もっとも重要な「総合満足度」に対しては、特に「成長実感」との間に強い正の相関関係がみられ、その他、正の相関関係が強い順で、「自分の意欲」、「教員熱意」、「シラバス通りかどうか」、「フィードバックが丁寧かどうか」と続く。ここから、「総合満足度」の向上に対しては、「成長実感を持てるかどうか」が重要な構成要素であり、その他、「自分の意欲」、「教員熱意」、「シラバス通りかどうか」、「フィードバックが丁寧かどうか」の順で重要な要素であることがわかった。

次に、その「成長実感」と関連性の強い項目順にみていくと、「教員の熱意」、「自分の意欲」、「シラバス通りかどうか」、「フィードバックが丁寧かどうか」と続いている。ここから、「成長実感」の向上に対しては、「教員の熱意があるかどうか」が重要な構成要素であり、「自分の意欲」、「フィードバックが丁寧かどうか」、「シラバス通りかどうか」の順で重要な要素であることが示された。

「難易度が適切かどうか」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度」などの他の変数が5点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度」は3点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、「難易度」と他の変数における関連性は、単純に2つの変数が共変しているかどうかを測る相関分析で測ることができない。よって、「難易度が適切かどうか」に関わる結果に対して妥当な解釈は困難であろう。

まとめると、教員の熱意が学生の意欲向上や成長実感に繋がり、それが「総合満足度」に大きく影響を与えていることが示された。

表1：【全学共通科目】 相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		(シラバス通り)	(難易度適切)	(FB丁寧)	(自分意欲)	(教員熱意)	(成長実感)	(総合満足)
Q1b	【シラバス通り】	1.00						
Q2	【難易度適切】	-0.06	1.00					
Q4	【FB丁寧】	0.35	-0.02	1.00				
Q5	【自分意欲】	0.38	-0.17	0.43	1.00			
Q6	【教員熱意】	0.45	-0.09	0.43	0.44	1.00		
Q7	【成長実感】	0.45	-0.19	0.43	0.56	0.57	1.00	
Q8	【総合満足】	0.43	-0.26	0.41	0.52	0.50	0.62	1.00

## まとめと結論

2023年度前期の主な結果をまとめると以下のようになる。



1. シラバス内容を知っているのは約81%であった。この数値は昨年度の78%より僅かに上昇した。
2. シラバス内容を知っている学生は、授業はシラバス通りに実施されたと概ね認識した。(最頻値=全学5・全学共通科目5、平均値=全学4.33・全学共通科目4.38)
3. 授業の難易度については「適切だった」という認識が最も多く、次に「やや難しかった」という認識が多かった。昨年度に引き続き、全体としては概ね適切な難易度設定がなされていると考えられる。(最頻値=全学3・全学共通科目3、平均値=全学3.58・全学共通科目3.5)  
 ただし、相関係数表の結果をみる限り、難易度に関してはすべての項目間で相関関係があるとは言えない。
4. 質問をしたことのある学生は全学で約81%、全学共通科目で85%であった。
5. 質問に対する対応は概ね「迅速である」と認識されていた。(最頻値=全学5・全学共通科目5、平均値=全学4.15・全学共通科目4.09)
6. 学生は「熱意・意欲」をもって授業に取り組んだ、と概ね認識していた。(最頻値=全学4・全学共通科目4、平均値=全学4.06・全学共通科目4.04)
7. 担当教員は熱意を持って授業を行っている、と学生は概ね認識していた。(最頻値=全学5・全学共通科目5、平均値=全学4.46・全学共通科目4.49)
8. 学生自身の意欲の自己認識と、学生が感じる教員の熱意には、弱い正の相関関係が確認された。学生が教員熱意を感じようになると、連動して学生自身の意欲も向上するようになっていくと言える。ただし、相関係数(0.48と0.44)から判断する限り、教員としては熱意をもって授業に取り組むことは当然として、熱意が学生に伝わるよう一層努力する必要があるだろう。
9. 授業を通じて知識の習得、思考の深化、技術の向上等の成長を感じたという認識は多くの学生が持っており、最頻値が昨年度の4から5へと上昇した。(最頻値=全学5・全学共通科目5、平均値=全学4.26・全学共通科目4.28)
10. すべてを総合して授業に(概ね)満足だと認識した学生(8~10を選んだ学生)は全学で約71%(昨年度と同じ値)であった。昨年度に倣い、別の表現をするならば、全学的に学生の平均満足度は約81%(昨年度と同じ値)であった。(最頻値=全学10・全学共通科目10、平均値=全学8.09・全学共通科目8.19)
11. 「自分意欲」と「教員熱意」のクロス集計によると、「どちらかと言えばそう思う」43.57%と、「強くそう思う」47.23%を合わせると、90.81%となる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。
12. 「総合満足」に最も影響があるのは「成長実感」であり、次いで「自身の意欲」「教員の熱意」「シラバス通りがどうか」「フィードバックが丁寧かどうか」であった。

最後に、全学および全学共通科目の傾向は以上の通りであるが、全体として回答率の低さは大きな課題である。特に今年度は回答率が低下した学科が多い。これらの学科部局に関して、各学科部局でレベルでの、また教員個人レベルでの対応が求められる。

以上

## 2.2 2023 年度後期・学生による授業認識アンケート

### 1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てることを目的として実施した。

### 2. 実施の対象

- (1) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とした。
- (2) 対象科目は教員（専任・非常勤を問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とした。
- (3) 実施対象科目を全学FD委員会にて選定し、各学部学科にて精査したうえ決定とした。

### 3. アンケート項目

2023年度後期の授業に関する学生の授業認識アンケートは以下の項目の通りであった。

#### 【シラバス】

**Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？**

Y) はい（おおよそ）知っています → Q1b に

N) いいえ（あまりよく）知りません → Q1b はとばして Q2 に

**Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。**

5) 強くそう思う    4) どちらかと言えばそう思う    3) どちらとも言えない

2) どちらかと言えばそう思わない    1) まったくそう思わない

#### 【授業の難易度】

**Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。**

5) とても難しかった    4) やや難しかった    3) 適切だった

2) やや易しかった    1) とても易しかった

#### 【質問対応】

**Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。**

Y) はい、あります → Q4 に

N) いいえ、したことはありません → Q4 はとばして Q5 に

【フィードバック】

Q4 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない  
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【学生の意欲／熱意】

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない  
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【教員の意欲／熱意】

Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない  
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【成長実感】

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」  
あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない  
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【総合満足】

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1  
を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。

- 10) 100% 9) 90% 8) 80% 7) 70% 6) 60% 5) 50%  
4) 40% 3) 30% 2) 20% 1) 10%

【自由記述】

Q9a 授業について良かった点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読み  
ます)

Q9b 授業について困った点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読みま  
す)。

## 4. 結果

### 4.1 対象科目数と対象人数

対象科目数は 882 科目、対象延べ学生数（各対象科目内の履修者数の合計）は 9,387 人、実際に回答した延べ学生数は 15,769 人であった。なお、今年度から重回帰分析からクロス集計へと分析方法が変更になったため、結果の表示に関しては 2022 年度と比較することが難しい点がある。特に、2023 年度は各設問の相関関係を示している。さらに全学的な結果に加え、全学共通科目でも同様の分析を行った。また、初めての試みとして、全学共通科目（84 科目）のみを対象として学生の所属別に集計した。

### 4.2 のべ回答者数と回答率

各質問項目の回答分布(学科／部局別)にある回答者数（Q1b は 13,281 人、Q2 は 15,764 人、Q4 は 5,145 人、Q5 は 15,751 人、Q6 は 15,767 人、Q7 は 15,770 人、Q8 は 15,769 人）は、設問によって異なるが、全学平均の回答者数・回答率は、15,769 人、31.62%（前期 22.69%）であった。

学生たちの回答科目数の多さから生じる慣れや負担、教員のコメント対応の負担等を考慮し、回答率をあげることを目的として、2023 年度は 1 人 1 科目のアンケートを実施したところ、前期より 8.93%の上昇がみられた。1 科目であっても、確実にアンケートを実施し、教員が自身の授業方法について課題を認識し、授業の改善に活かすことが重要だと考えたからである。例年、前期に比べ後期の回答率が下がる傾向にあったが、2023 年度は後期の回答率が上昇する結果となった。

その理由の一つは、学生たちがいつアンケートに回答しているのか、時間をグラフ化したことにある。授業中（9 時～18 時）に回答が集中していることが可視化されたことで、教員が授業中の回答を促す必要性を認識したからだと思われる。

その一方で、授業中に回答しているにもかかわらず、回答率が 6 割程度にとどまるといった声も聞かれた。スマートフォンを使用したアンケートならではの課題といえよう。

もう一つの課題は、大人数の履修者がいる科目の回答率が芳しくないことである。大人数ゆえの難しさはあると思われるが、これは今後の課題である。

回答率の上昇の内訳をみると、すべての学科部局で回答率の上昇がみられた。上昇率の高い順に、看護学科 47.42%（前期 22.79%、後期 70.21%）、中国語学科 27.88%（前期 23.79%、後期 45.04%）、英米文学科 21.14%（前期 16.01%、後期 37.15%）、書道学科 20.00%（19.85%、後期 39.85%）、健康科学科 19.42%（前期 26.42%、後期 45.84%）、国際交流センター14.44%（後期 27.91%、後期 42.35%）、英語学科 12.65%（前期 22.88%、後期 35.53%）、中国文学科 11.78%（前期 17.16%、後期 28.94%）、日本文学科 9.47%（前期 28.80%、後期 38.27%）、教職課程センター8.49%（前期 26.13%、後期 34.62%）、経営学科 7.63%（前期 15.47%、後期 23.10%）、歴史文化学科 6.85%（前期 19.32%、後期 26.17%）、スポーツ科学科 6.36%（22.87%、後期 29.23%）、現代経済学科 5.99%（前期 12.55%、後期

18.54%)、教育学科 5.47% (前期 18.61%、後期 24.08%)、政治学科 4.65% (前期 29.04%、後期 33.69%)、社会学科 4.45% (前期 36.25%、後期 40.70%)、日本語学科 4.09% (前期 27.65%、後期 31.74%)、国際文化学科 2.99% (前期 20.03%、後期 23.02%)、法律学科 2.96% (前期 22.22%、後期 25.18%)、国際関係学科 2.33% (前期 35.21%、後期 37.54%)、社会経済学科 1.56% (前期 24.29%、後期 25.85%) であった。それぞれ前期の回答率よりも上昇している。

全学共通科目の回答率のなかで空白となっている学科は、今回のアンケート対象科目に全学共通科目が該当しなかった学科である。

学年別では、学年があがるごとに回答率は落ちるが、これは全学平均も全学共通科目の平均も同様の傾向である。

本アンケートは、授業に対する学生の認識を問うだけではなく、その結果に対して、教員からのコメント入力も必須となっている。学生からの指摘あるいは好評であった部分も含め、授業改善に活かすことが最終的な目標である。学生からのアンケート回答率は徐々に上昇してきたが、教員側のコメント入力状況は良いとは言えない。教員からの反応がないことで、学生は次回アンケートへの回答意欲を低下させかねない。教員のコメント入力率を上げることも大きな課題である。

ちなみに、2023 年度後期の各学科のコメント入力状況は以下の通りである。文学部 46.0% (日本文学 63.3%、中国文学 68.2%、英米文 31.7%、教育 43.3%、書道 33.3%、歴史文化 48.4%)、経済学部 57.3% (社会経済 52.4%、現代経済 63.6%)、外国語学部 42.9% (中国語 48.0%、英語 39.3%、日本語 48.1%)、法学部 53.9% (法律 42.2%、政治 73.7%)、国際関係学部 71.7% (国際関係 70.0%、国際文化 73.9%)、経営学部 50.0%、スポーツ・健康科学部 53.8% (スポーツ科学 47.8%、健康科学 54.5%、看護 75.0%)、社会学部 57.1%、教職課程センター 59.3%、国際交流センター 42.9% であった。

専任教員の入力率は 61.5%、非常勤は 45.0% であった。

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	1,047	1,689	2,736	38.27%
中国文学科	292	717	1,009	28.94%
英米文学科	698	1,181	1,879	37.15%
教育学科	953	3,005	3,958	24.08%
書道学科	420	634	1,054	39.85%
歴史文化学科	397	1,120	1,517	26.17%
社会経済学科	802	2,301	3,103	25.85%
現代経済学科	516	2,267	2,783	18.54%
中国語学科	617	753	1,370	45.04%
英語学科	1,347	2,444	3,791	35.53%
日本語学科	286	615	901	31.74%
法律学科	1,203	3,574	4,777	25.18%
政治学科	827	1,628	2,455	33.69%
国際関係学科	547	910	1,457	37.54%
国際文化学科	300	1,003	1,303	23.02%
経営学科	1,193	3,972	5,165	23.10%
スポーツ科学科	899	2,177	3,076	29.23%
健康科学科	662	782	1,444	45.84%
看護学科	813	345	1,158	70.21%
社会学科	1,529	2,228	3,757	40.70%
教職課程センター	349	659	1,008	34.62%
国際交流センター	72	98	170	42.35%
<b>全学</b>	<b>15,769</b>	<b>34,102</b>	<b>49,871</b>	<b>31.62%</b>

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	8,498	9,759	18,257	46.55%
2	4,086	11,081	15,167	26.94%
3	2,627	10,268	12,895	20.37%
4	549	2,906	3,455	15.89%

### 【全学共通科目】

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	183	588	771	23.74%
中国文学科	77	351	428	17.99%
英米文学科	62	106	168	36.90%
教育学科	615	1,614	2,229	27.59%
書道学科	72	61	133	54.14%
歴史文化学科	64	324	388	16.49%
社会経済学科	0	0	0	
現代経済学科	98	327	425	23.06%
中国語学科	0	0	0	
英語学科	172	269	441	39.00%
日本語学科	80	144	224	35.71%
法律学科	381	492	873	43.64%
政治学科	159	126	285	55.79%
国際関係学科	62	79	141	43.97%
国際文化学科	17	136	153	11.11%
経営学科	182	467	649	28.04%
スポーツ科学科	306	764	1,070	28.60%
健康科学科	21	97	118	17.80%
看護学科	0	0	0	
社会学科	202	394	596	33.89%
教職課程センター	0	0	0	
国際交流センター	0	0	0	
<b>全学</b>	<b>2,753</b>	<b>6,339</b>	<b>9,092</b>	<b>30.28%</b>

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	1,827	2,909	4,736	38.58%
2	715	2,439	3,154	22.67%
3	140	593	733	19.10%
4	69	395	464	14.87%

#### 4.2.1 【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

全学では2「知っている」と回答したのは77.9%（前期は80.98%）であった。前期よりは低下しており、22.1%の回答学生がシラバスを承知していない。「知っている」と回答した比率が最も高かったのは、86.7%の国際関係学科（前期85.20%）であった。前期で最も高い値を示したのは看護学科91.95%であった。

全学共通科目をみると78.2%と全学平均(77.9%)よりもやや高い結果となっているが、前期より低い水準である(前期83.17%)。

学年別では全学も全学共通科目も、学年が上がるにつれ比率が高くなる。

Q 1a 「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	21.1%	78.9%
中国文学科	23.0%	77.0%
英米文学科	19.5%	80.5%
教育学科	22.7%	77.3%
書道学科	24.0%	76.0%
歴史文化学科	22.4%	77.6%
社会経済学科	15.7%	84.3%
現代経済学科	17.5%	82.5%
中国語学科	26.1%	73.9%
英語学科	22.9%	77.1%
日本語学科	17.5%	82.5%
法律学科	30.4%	69.6%
政治学科	22.7%	77.3%
国際関係学科	13.3%	86.7%
国際文化学科	16.6%	83.4%
経営学科	18.5%	81.5%
スポーツ科学科	27.5%	72.5%
健康科学科	21.4%	78.6%
看護学科	18.5%	81.5%
社会学科	24.1%	75.9%
教職課程センター	27.2%	72.8%
国際交流センター	16.7%	83.3%
<b>全学</b>	<b>22.1%</b>	<b>77.9%</b>

学年	1	2
1	22.7%	77.3%
2	22.3%	77.7%
3	21.5%	78.5%
4	13.5%	86.5%



### 【全学共通科目】

Q 1a 「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	22.4%	77.6%
中国文学科	23.7%	76.3%
英米文学科	27.4%	72.6%
教育学科	22.2%	77.8%
書道学科	16.7%	83.3%
歴史文化学科	23.4%	76.6%
社会経済学科		
現代経済学科	20.6%	79.4%
中国語学科		
英語学科	15.1%	84.9%
日本語学科	23.8%	76.3%
法律学科	26.1%	73.9%
政治学科	20.1%	79.9%
国際関係学科	11.3%	88.7%
国際文化学科	23.5%	76.5%
経営学科	21.5%	78.5%
スポーツ科学科	18.0%	82.0%
健康科学科	23.8%	76.2%
看護学科		
社会学科	26.2%	73.8%
教職課程センター		
国際交流センター		
<b>全学</b>	<b>21.8%</b>	<b>78.2%</b>

学年	1	2
1	21.4%	78.6%
2	24.8%	75.2%
3	18.6%	81.4%
4	7.2%	92.8%

#### 4.2.2 【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい（おおよそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は 4.37（前期 4.33）で標準偏差は 0.72（前期 0.72）であった。大きな変化はないと考えられる。

学科で最も平均値が高かったのは日本語学科で 4.55（前期は書道学科で 4.54）であった。標準偏差の 0.67 を加味すると、3.88 から 5.22 の幅のなかにある。

全学共通科目の平均は 4.40、標準偏差は 0.70、全学平均より僅かに高い。最も数値が高かったのは書道学科で 4.58、標準偏差は 0.63 であった。

学科部局別、学年別、全学の回答分布をみると、5～1 の段階別の回答分布状況は、5「強くそう思う」、4「どちらかと言えばそう思う」の合計は全学 90.01%（前期 89.91%）、全

学共通科目 90.37%であった。学生は「シラバスの記述通りに授業が行われた」と認識しており、概ね満足していると言えるだろう。

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	866	4.45	0.67
中国文学科	233	4.39	0.71
英米文学科	604	4.47	0.65
教育学科	801	4.30	0.76
書道学科	341	4.53	0.65
歴史文化学科	337	4.26	0.87
社会経済学科	723	4.33	0.72
現代経済学科	447	4.41	0.68
中国語学科	509	4.33	0.72
英語学科	1,148	4.34	0.79
日本語学科	250	4.55	0.67
法律学科	908	4.32	0.77
政治学科	698	4.27	0.75
国際関係学科	491	4.46	0.65
国際文化学科	265	4.39	0.68
経営学科	1,037	4.35	0.65
スポーツ科学科	736	4.43	0.71
健康科学科	565	4.34	0.70
看護学科	718	4.38	0.68
社会学科	1,266	4.31	0.70
教職課程センター	272	4.33	0.73
国際交流センター	66	4.70	0.55
<b>全学</b>	<b>13,281</b>	<b>4.37</b>	<b>0.72</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	7,167	4.36	0.72
2	3,446	4.36	0.73
3	2,174	4.37	0.69
4	485	4.42	0.69

Q 1b 「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

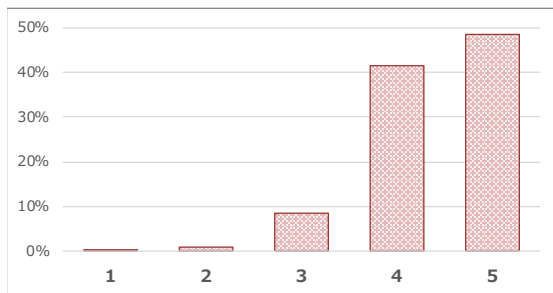
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.23%	0.92%	5.77%	40.07%	53.00%
中国文学科	0.43%	0.86%	8.15%	40.34%	50.21%
英米文学科	0.00%	0.66%	6.79%	37.91%	54.64%
教育学科	0.50%	1.87%	9.99%	42.45%	45.19%
書道学科	0.00%	0.59%	6.74%	31.96%	60.70%
歴史文化学科	1.78%	2.08%	11.57%	37.09%	47.48%
社会経済学科	0.28%	1.38%	8.71%	44.26%	45.37%
現代経済学科	0.45%	0.22%	7.38%	41.39%	50.56%
中国語学科	0.20%	0.59%	11.79%	40.86%	46.56%
英語学科	1.22%	1.05%	9.49%	38.68%	49.56%
日本語学科	0.80%	0.40%	4.00%	32.80%	62.00%
法律学科	0.77%	1.65%	9.25%	41.63%	46.70%
政治学科	0.72%	1.15%	10.60%	45.70%	41.83%
国際関係学科	0.00%	0.61%	6.72%	39.10%	53.56%
国際文化学科	0.00%	1.51%	6.79%	43.02%	48.68%
経営学科	0.10%	0.48%	7.91%	46.87%	44.65%
スポーツ科学科	0.27%	0.27%	10.60%	33.70%	55.16%
健康科学科	0.18%	0.88%	9.20%	44.07%	45.66%
看護学科	0.56%	0.42%	6.55%	45.26%	47.21%
社会学科	0.47%	0.39%	9.79%	46.29%	43.05%
教職課程センター	0.37%	1.47%	9.19%	42.65%	46.32%
国際交流センター	0.00%	0.00%	4.55%	21.21%	74.24%
<b>全学</b>	<b>0.46%</b>	<b>0.90%</b>	<b>8.64%</b>	<b>41.49%</b>	<b>48.52%</b>

Q 1b 「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.50%	0.87%	8.66%	41.61%	48.36%
2	0.55%	0.78%	9.46%	40.48%	48.72%
3	0.23%	1.06%	7.91%	42.87%	47.93%
4	0.21%	1.44%	5.77%	41.24%	51.34%
<b>全学</b>	<b>0.46%</b>	<b>0.90%</b>	<b>8.64%</b>	<b>41.49%</b>	<b>48.52%</b>

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	61	0.46%
2	119	0.90%
3	1147	8.64%
4	5510	41.49%
5	6444	48.52%
合計	13281	

【全学共通科目】

Q 1b 「シラバス通り」の学科/部局別 (左) および学年別 (右) の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	153	4.40	0.75
中国文学科	65	4.49	0.61
英米文学科	48	4.52	0.58
教育学科	518	4.29	0.76
書道学科	67	4.58	0.63
歴史文化学科	55	4.15	1.00
社会経済学科			
現代経済学科	82	4.34	0.67
中国語学科			
英語学科	150	4.56	0.67
日本語学科	67	4.43	0.65
法律学科	303	4.46	0.61
政治学科	140	4.44	0.62
国際関係学科	58	4.52	0.59
国際文化学科	13	4.08	0.47
経営学科	159	4.44	0.65
スポーツ科学科	266	4.50	0.66
健康科学科	16	4.56	0.50
看護学科			
社会学科	166	4.22	0.79
教職課程センター			
国際交流センター			
<b>全学</b>	2,326	4.40	0.70

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,552	4.40	0.69
2	590	4.38	0.76
3	118	4.48	0.58
4	64	4.50	0.66

【全学共通科目】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.00%	1.96%	10.46%	33.33%	54.25%
中国文学科	0.00%	0.00%	6.15%	38.46%	55.38%
英米文学科	0.00%	0.00%	4.17%	39.58%	56.25%
教育学科	0.39%	1.54%	11.39%	41.89%	44.79%
書道学科	0.00%	0.00%	7.46%	26.87%	65.67%
歴史文化学科	1.82%	5.45%	16.36%	29.09%	47.27%
社会経済学科					
現代経済学科	0.00%	0.00%	10.98%	43.90%	45.12%
中国語学科					
英語学科	1.33%	0.00%	2.00%	34.67%	62.00%
日本語学科	0.00%	0.00%	8.96%	38.81%	52.24%
法律学科	0.00%	0.00%	5.94%	42.57%	51.49%
政治学科	0.00%	0.00%	7.14%	42.14%	50.71%
国際関係学科	0.00%	0.00%	5.17%	37.93%	56.90%
国際文化学科	0.00%	0.00%	7.69%	76.92%	15.38%
経営学科	0.00%	0.00%	8.81%	38.36%	52.83%
スポーツ科学科	0.00%	0.38%	7.89%	33.46%	58.27%
健康科学科	0.00%	0.00%	0.00%	43.75%	56.25%
看護学科					
社会学科	1.20%	1.20%	12.05%	45.18%	40.36%
教職課程センター					
国際交流センター					
<b>全学</b>	<b>0.30%</b>	<b>0.73%</b>	<b>8.60%</b>	<b>39.21%</b>	<b>51.16%</b>

【全学共通科目】

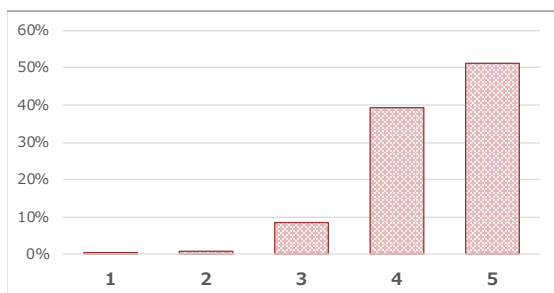
Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.26%	0.52%	8.51%	40.53%	50.19%
2	0.51%	1.36%	10.17%	35.42%	52.54%
3	0.00%	0.00%	4.24%	43.22%	52.54%
4	0.00%	1.56%	4.69%	35.94%	57.81%
<b>全学</b>	<b>0.30%</b>	<b>0.73%</b>	<b>8.60%</b>	<b>39.21%</b>	<b>51.16%</b>

#### 【全学共通科目】

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	7	0.30%
2	17	0.73%
3	200	8.60%
4	912	39.21%
5	1190	51.16%
合計	2326	

#### 4.2.3 【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

この設問の回答は、5「とても難しかった」～1「とても易しかった」であり、数値が高いほど良いわけではない。全学の平均は3.54（前期3.58）、標準偏差は0.79であった。どの学科も3「適切だった」から4「やや難しかった」の間に平均があることから、難易度は概ね適切と言えるだろう。学科では健康科学科が3.74と最も高く、授業内容をやや難しいと受け止めている傾向にある。

学科部局別と全学の回答分布状況を見ると、全学では3と4の合計が84.05%であり、全体としては概ね適切ではあるものの、やや難しいと受け止めているようだ。なお、3「適切だった」が5割を超える高い数値を示したのは、国際交流センター62.50%、教職課程センター59.31%、書道科学科59.14%、歴史文化学科56.68%、スポーツ学科55.35%、日本文学科53.58%、日本語学科52.10%、国際関係学科50.92%であった。

全学共通科目の平均は3.45、標準偏差0.78であった。3と4の合計は85.90%で、全学よりやや高い数値であった。学年別の平均値では、全学も全学共通科目も、1年生と2年生のほうが3年生よりも数値が大きく、授業をやや難しいと受け止めている結果になった。4年生の場合、全学共通科目（3.51）のほうが全学（3.45）よりも高い値であった。

Q 2 「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	1,047	3.47	0.72
中国文学科	291	3.54	0.73
英米文学科	699	3.46	0.79
教育学科	955	3.52	0.74
書道学科	421	3.37	0.67
歴史文化学科	397	3.39	0.76
社会経済学科	801	3.51	0.81
現代経済学科	515	3.62	0.86
中国語学科	616	3.64	0.82
英語学科	1,348	3.49	0.79
日本語学科	286	3.51	0.76
法律学科	1,201	3.67	0.82
政治学科	828	3.59	0.77
国際関係学科	542	3.56	0.76
国際文化学科	300	3.60	0.83
経営学科	1,194	3.60	0.79
スポーツ科学科	898	3.29	0.86
健康科学科	663	3.74	0.78
看護学科	812	3.70	0.77
社会学科	1,529	3.56	0.73
教職課程センター	349	3.38	0.69
国際交流センター	72	3.19	0.74
<b>全学</b>	<b>15,764</b>	<b>3.54</b>	<b>0.79</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	8,497	3.55	0.80
2	4,084	3.57	0.80
3	2,626	3.48	0.73
4	548	3.45	0.69

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.67%	2.77%	53.58%	34.48%	8.50%
中国文学科	1.03%	2.41%	47.08%	40.55%	8.93%
英米文学科	1.43%	4.01%	51.93%	32.33%	10.30%
教育学科	0.63%	2.41%	52.04%	34.24%	10.68%
書道学科	1.19%	2.61%	59.14%	32.54%	4.51%
歴史文化学科	2.02%	3.02%	56.68%	30.23%	8.06%
社会経済学科	1.12%	4.87%	48.31%	33.46%	12.23%
現代経済学科	2.33%	3.11%	39.81%	39.42%	15.34%
中国語学科	0.97%	2.44%	44.81%	35.39%	16.40%
英語学科	1.93%	2.67%	49.55%	35.98%	9.87%
日本語学科	1.75%	1.05%	52.10%	34.97%	10.14%
法律学科	1.17%	2.50%	41.63%	37.97%	16.74%
政治学科	0.97%	2.54%	45.17%	38.89%	12.44%
国際関係学科	0.74%	1.66%	50.92%	34.32%	12.36%
国際文化学科	1.00%	4.67%	42.33%	37.67%	14.33%
経営学科	1.59%	2.43%	42.13%	41.62%	12.23%
スポーツ科学科	3.90%	6.35%	55.35%	25.95%	8.46%
健康科学科	0.15%	1.36%	41.93%	37.10%	19.46%
看護学科	0.49%	0.74%	43.60%	38.42%	16.75%
社会学科	0.39%	2.42%	48.86%	37.34%	10.99%
教職課程センター	1.15%	2.58%	59.31%	30.95%	6.02%
国際交流センター	2.78%	6.94%	62.50%	23.61%	4.17%
<b>全学</b>	<b>1.25%</b>	<b>2.82%</b>	<b>48.37%</b>	<b>35.68%</b>	<b>11.88%</b>

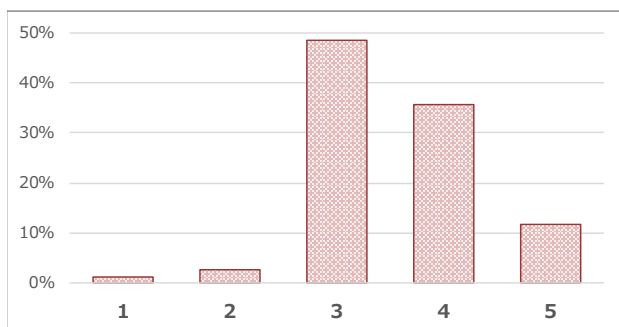
Q 2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.40%	2.91%	47.38%	35.66%	12.65%
2	1.22%	2.99%	46.18%	36.85%	12.76%
3	0.99%	2.48%	52.82%	34.96%	8.76%
4	0.36%	2.01%	58.03%	31.02%	8.58%
<b>全学</b>	<b>1.25%</b>	<b>2.82%</b>	<b>48.37%</b>	<b>35.68%</b>	<b>11.88%</b>



Q2 「難易度適切」に対する全学の回答分布

( 1「とても易しかった」 / 2「やや易しかった」 / 3「適切だった」 / 4「やや難しかった」 / 5「とても難しかった」)



回答	回答者数	割合
1	197	1.25%
2	445	2.82%
3	7625	48.37%
4	5624	35.68%
5	1873	11.88%
合計	15764	

【全学共通科目】

Q2 「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	183	3.29	0.79
中国文学科	76	3.36	0.68
英米文学科	62	3.63	0.63
教育学科	616	3.59	0.75
書道学科	72	3.24	0.74
歴史文化学科	64	3.56	0.77
社会経済学科			
現代経済学科	97	3.79	0.90
中国語学科			
英語学科	172	3.34	0.68
日本語学科	80	3.60	0.68
法律学科	380	3.59	0.73
政治学科	159	3.50	0.68
国際関係学科	62	3.40	0.61
国際文化学科	17	3.71	0.82
経営学科	182	3.41	0.83
スポーツ科学科	306	3.00	0.84
健康科学科	21	3.33	0.47
看護学科			
社会学科	202	3.50	0.73
教職課程センター			
国際交流センター			
<b>全学</b>	<b>2,751</b>	<b>3.45</b>	<b>0.78</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,827	3.44	0.78
2	712	3.47	0.77
3	141	3.43	0.81
4	69	3.51	0.75

【全学共通科目】

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	3.28%	5.46%	56.28%	28.96%	6.01%
中国文学科	1.32%	3.95%	56.58%	34.21%	3.95%
英米文学科	0.00%	0.00%	45.16%	46.77%	8.06%
教育学科	0.49%	2.60%	46.43%	38.64%	11.85%
書道学科	2.78%	2.78%	69.44%	18.06%	6.94%
歴史文化学科	1.56%	0.00%	51.56%	34.38%	12.50%
社会経済学科					
現代経済学科	3.09%	3.09%	24.74%	49.48%	19.59%
中国語学科					
英語学科	1.74%	2.33%	60.47%	31.40%	4.07%
日本語学科	1.25%	1.25%	40.00%	51.25%	6.25%
法律学科	0.53%	1.84%	47.11%	39.21%	11.32%
政治学科	0.63%	0.63%	55.35%	35.22%	8.18%
国際関係学科	0.00%	1.61%	61.29%	32.26%	4.84%
国際文化学科	0.00%	5.88%	35.29%	41.18%	17.65%
経営学科	2.75%	3.85%	53.30%	30.22%	9.89%
スポーツ科学科	7.52%	8.50%	64.05%	16.01%	3.92%
健康科学科	0.00%	0.00%	66.67%	33.33%	0.00%
看護学科					
社会学科	0.50%	2.97%	52.97%	33.66%	9.90%
教職課程センター					
国際交流センター					
<b>全学</b>	<b>1.89%</b>	<b>3.20%</b>	<b>51.91%</b>	<b>33.99%</b>	<b>9.01%</b>

【全学共通科目】

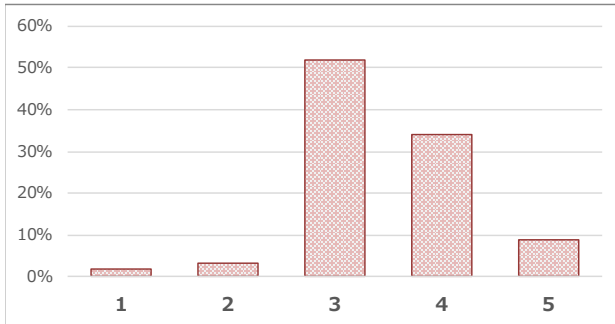
Q 2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.92%	3.45%	51.94%	33.72%	8.98%
2	1.83%	2.95%	50.28%	36.52%	8.43%
3	2.84%	0.71%	58.87%	26.24%	11.35%
4	0.00%	4.35%	52.17%	31.88%	11.59%
<b>全学</b>	<b>1.89%</b>	<b>3.20%</b>	<b>51.91%</b>	<b>33.99%</b>	<b>9.01%</b>

### 【全学共通科目】

#### Q2 「難易度適切」に対する全学の回答分布

( 1「とても易しかった」 / 2「やや易しかった」 / 3「適切だった」 / 4「やや難しかった」 / 5「とても難しかった」 )



回答	回答者数	割合
1	52	1.89%
2	88	3.20%
3	1428	51.91%
4	935	33.99%
5	248	9.01%
合計	2751	

#### 4.2.4 【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

全学で1「あります」と回答したのは15.7%、全学共通科目でも9.7%と低い比率となった。前期は全学で80.74%、全学共通科目でも84.61%と高い比率を示していたのに対し、後期は学生が全体的に授業参加に対して消極的になっている。

全学の約6割の学科が20%未満であった。全学共通科目においても、書道学科40.3%と国際関係学科26.2%は20%を超えているが、それ以外は20%未満であった。

学年別には、全学では1年生16.0%、2年生14.0%、3年生16.2%、4年生20.1%であり、前期に比べ大幅に低下した。全学共通科目でも、1年生9.3%、2年生9.6%、3年生14.2%に対し、4年生10.1%と低い水準を示した。

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	15.3%	84.7%
中国文学科	21.7%	78.3%
英米文学科	21.7%	78.3%
教育学科	12.8%	87.2%
書道学科	27.0%	73.0%
歴史文化学科	15.7%	84.3%
社会経済学科	13.8%	86.2%
現代経済学科	13.6%	86.4%
中国語学科	27.5%	72.5%
英語学科	25.3%	74.7%
日本語学科	29.4%	70.6%
法律学科	11.9%	88.1%
政治学科	11.4%	88.6%
国際関係学科	17.6%	82.4%
国際文化学科	26.8%	73.2%
経営学科	9.6%	90.4%
スポーツ科学科	16.5%	83.5%
健康科学科	9.4%	90.6%
看護学科	4.2%	95.8%
社会学科	10.0%	90.0%
教職課程センター	19.1%	80.9%
国際交流センター	36.1%	63.9%
<b>全学</b>	<b>15.7%</b>	<b>84.3%</b>

学年	1	2
1	16.0%	84.0%
2	14.0%	86.0%
3	16.2%	83.8%
4	20.1%	79.9%

【全学共通科目】

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	3.8%	96.2%
中国文学科	9.2%	90.8%
英米文学科	17.7%	82.3%
教育学科	7.3%	92.7%
書道学科	40.3%	59.7%
歴史文化学科	4.8%	95.2%
社会経済学科		
現代経済学科	5.2%	94.8%
中国語学科		
英語学科	15.2%	84.8%
日本語学科	18.8%	81.3%
法律学科	4.8%	95.2%
政治学科	0.6%	99.4%
国際関係学科	26.2%	73.8%
国際文化学科	0.0%	100.0%
経営学科	10.5%	89.5%
スポーツ科学科	14.6%	85.4%
健康科学科	4.8%	95.2%
看護学科		
社会学科	9.0%	91.0%
教職課程センター		
国際交流センター		
<b>全学</b>	<b>9.7%</b>	<b>90.3%</b>

学年	1	2
1	9.3%	90.7%
2	9.6%	90.4%
3	14.2%	85.8%
4	10.1%	89.9%

4.2.5 【Q4】 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は3.73（前期は4.15）、標準偏差は1.31（前期は0.97）であった。4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の間にあり、対応は迅速であったと認識されていると言える。学科部局別回答分布をみても、4と5の合計が60.27%と6割を超えてはいるが、前期の4、5の合計73.72%と比較すると、大きく低下している。気になるのは、1「まったくそう思わない」9.76%（前期2.05%）と2「どちらかといえばそう思わない」7.23%（前期2.21%）の合計が16.99%を示し、前期の1と2の合計4.26%の4倍近い値になっていることである。

学科では前期と同様、書道学科4.36（標準偏差1.15）が最も高かった（前期は4.63）。部

局では国際交流センターが 4.17（前期は 4.44）、標準偏差 1.23(前期は 0.83)であった。

全学共通科目の平均は 3.54（前期は 4.09）、標準偏差 1.31（前期は 1.01）であった。前期の水準に比べると低くなった。

学年別では、全学では 1 年生の 3.67（標準偏差 1.33）から 4 年生の 3.94（標準偏差 1.20）の間の数値であり、学年による大きな違いはみられない。全学共通科目では、最も低い 1 年生 3.51（標準偏差 1.31）、最も高い 4 年生 3.72（標準偏差 1.31）と、全学に比べると平均値の幅は僅か小さい。どちらにしても 4 年生の数値は他学年に比べて相対的に高い。

Q 4「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	262	4.01	1.19
中国文学科	102	3.89	1.28
英米文学科	252	4.00	1.25
教育学科	277	3.62	1.28
書道学科	157	4.36	1.15
歴史文化学科	112	3.95	1.25
社会経済学科	279	3.56	1.32
現代経済学科	181	3.55	1.32
中国語学科	257	3.70	1.31
英語学科	599	3.93	1.32
日本語学科	121	4.02	1.28
法律学科	304	3.66	1.21
政治学科	251	3.46	1.26
国際関係学科	210	3.62	1.43
国際文化学科	146	3.80	1.32
経営学科	340	3.41	1.23
スポーツ科学科	336	3.73	1.40
健康科学科	204	3.41	1.27
看護学科	245	3.52	1.31
社会学科	367	3.65	1.30
教職課程センター	101	3.92	1.26
国際交流センター	42	4.17	1.23
<b>全学</b>	5,145	3.73	1.31

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	2,926	3.67	1.33
2	1,221	3.68	1.29
3	782	3.94	1.26
4	212	3.94	1.20

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

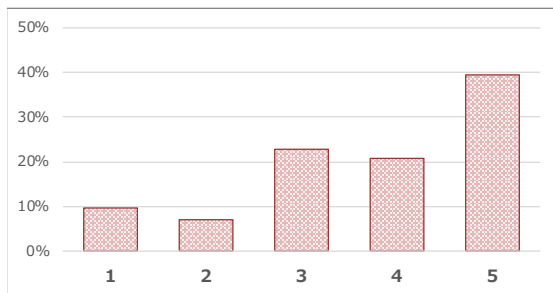
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	6.49%	4.58%	17.94%	23.66%	47.33%
中国文学科	9.80%	4.90%	14.71%	27.45%	43.14%
英米文学科	7.54%	6.75%	13.10%	23.81%	48.81%
教育学科	8.66%	10.47%	25.27%	21.30%	34.30%
書道学科	7.01%	1.91%	6.37%	17.20%	67.52%
歴史文化学科	7.14%	6.25%	19.64%	18.75%	48.21%
社会経済学科	11.11%	7.89%	27.60%	20.43%	32.97%
現代経済学科	12.15%	8.29%	22.10%	27.07%	30.39%
中国語学科	9.73%	8.56%	21.40%	22.57%	37.74%
英語学科	9.85%	6.18%	13.52%	22.20%	48.25%
日本語学科	10.74%	2.48%	9.09%	28.93%	48.76%
法律学科	8.22%	4.28%	34.21%	20.07%	33.22%
政治学科	10.36%	9.16%	31.87%	21.51%	27.09%
国際関係学科	12.86%	10.48%	20.48%	14.29%	41.90%
国際文化学科	10.27%	5.48%	20.55%	21.23%	42.47%
経営学科	8.53%	12.94%	32.65%	20.29%	25.59%
スポーツ科学科	12.50%	5.95%	22.02%	15.48%	44.05%
健康科学科	11.76%	6.37%	37.25%	18.14%	26.47%
看護学科	13.06%	4.08%	31.43%	20.82%	30.61%
社会学科	8.45%	11.44%	23.71%	19.89%	36.51%
教職課程センター	8.91%	2.97%	21.78%	19.80%	46.53%
国際交流センター	7.14%	4.76%	11.90%	16.67%	59.52%
<b>全学</b>	<b>9.76%</b>	<b>7.23%</b>	<b>22.74%</b>	<b>20.87%</b>	<b>39.40%</b>

Q 4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	10.63%	7.66%	23.14%	20.81%	37.76%
2	8.93%	8.60%	25.06%	19.90%	37.51%
3	8.70%	4.35%	17.77%	22.63%	46.55%
4	6.60%	4.25%	22.64%	21.23%	45.28%
<b>全学</b>	<b>9.76%</b>	<b>7.23%</b>	<b>22.74%</b>	<b>20.87%</b>	<b>39.40%</b>

Q4 「フィードバック」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」 )



回答	回答者数	割合
1	502	9.76%
2	372	7.23%
3	1170	22.74%
4	1074	20.87%
5	2027	39.40%
合計	5145	

【全学共通科目】

Q4 「フィードバック」の学科/部局別 (左) および学年別 (右) の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	44	3.27	1.25
中国文学科	19	3.58	1.35
英米文学科	19	3.89	1.17
教育学科	153	3.47	1.24
書道学科	36	4.25	1.38
歴史文化学科	17	3.00	1.37
社会経済学科			
現代経済学科	32	3.22	1.41
中国語学科			
英語学科	60	3.68	1.40
日本語学科	27	3.67	1.15
法律学科	78	3.36	1.14
政治学科	37	3.30	1.16
国際関係学科	29	3.72	1.41
国際文化学科	2	3.50	0.50
経営学科	55	3.35	1.30
スポーツ科学科	110	3.86	1.33
健康科学科	3	3.67	0.47
看護学科			
社会学科	60	3.40	1.29
教職課程センター			
国際交流センター			
<b>全学</b>	<b>781</b>	<b>3.54</b>	<b>1.31</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	534	3.51	1.31
2	178	3.58	1.29
3	43	3.67	1.36
4	25	3.72	1.31



【全学共通科目】

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	9.09%	15.91%	38.64%	11.36%	25.00%
中国文学科	10.53%	10.53%	26.32%	15.79%	36.84%
英米文学科	5.26%	5.26%	26.32%	21.05%	42.11%
教育学科	8.50%	11.76%	31.37%	20.92%	27.45%
書道学科	13.89%	0.00%	2.78%	13.89%	69.44%
歴史文化学科	23.53%	5.88%	35.29%	17.65%	17.65%
社会経済学科					
現代経済学科	18.75%	9.38%	28.13%	18.75%	25.00%
中国語学科					
英語学科	10.00%	13.33%	18.33%	15.00%	43.33%
日本語学科	7.41%	7.41%	22.22%	37.04%	25.93%
法律学科	8.97%	5.13%	48.72%	15.38%	21.79%
政治学科	8.11%	13.51%	37.84%	21.62%	18.92%
国際関係学科	10.34%	13.79%	13.79%	17.24%	44.83%
国際文化学科	0.00%	0.00%	50.00%	50.00%	0.00%
経営学科	10.91%	14.55%	29.09%	20.00%	25.45%
スポーツ科学科	9.09%	6.36%	22.73%	12.73%	49.09%
健康科学科	0.00%	0.00%	33.33%	66.67%	0.00%
看護学科					
社会学科	13.33%	5.00%	36.67%	18.33%	26.67%
教職課程センター					
国際交流センター					
<b>全学</b>	<b>10.24%</b>	<b>9.35%</b>	<b>29.32%</b>	<b>18.05%</b>	<b>33.03%</b>

【全学共通科目】

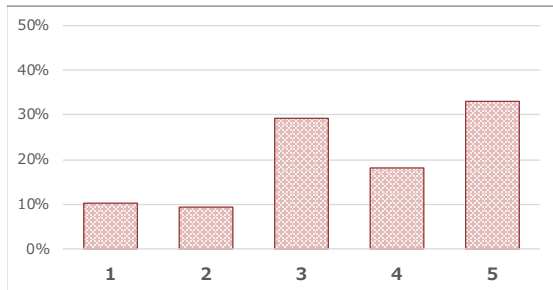
Q 4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	10.49%	9.93%	29.59%	18.35%	31.65%
2	8.99%	8.99%	31.46%	15.73%	34.83%
3	13.95%	2.33%	23.26%	23.26%	37.21%
4	8.00%	12.00%	20.00%	20.00%	40.00%
<b>全学</b>	<b>10.24%</b>	<b>9.35%</b>	<b>29.32%</b>	<b>18.05%</b>	<b>33.03%</b>

#### 【全学共通科目】

##### Q4 「フィードバック」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	80	10.24%
2	73	9.35%
3	229	29.32%
4	141	18.05%
5	258	33.03%
合計	781	

#### 4.2.6 【Q5】 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

[自分意欲]

この設問に対する全学の平均は 4.07 (前期は 4.06)、標準偏差 0.81 (前期は 0.81) であり、前期とほぼ同じ数値であった。学科別では、書道学科 4.41 (標準偏差 0.68) が最も高いが (前期はスポーツ科学科、平均値 4.34、標準偏差 0.74)、学科による平均値の幅は 0.46 で大きくない。部局では国際交流センター 4.39 (前期は教職課程センター 4.17) が高かった。

学科部局別の回答分布をみても、4「どちらかと言えばそう思う」 49.44%、5「強くそう思う」 31.28%と、4と5の合計 80.72 で8割を超えており、学生は意欲をもって授業に取り組んだと言えるだろう。

学年別の平均では、1年生から4年生は 4.0 以上であり、1年生 4.08 (標準偏差 0.83) が最も高い数値を表している。

全学共通科目では平均 4.05 (前期は 4.04)、標準偏差 0.82 (前期は 0.83) と、前期とほぼ同じ水準であると言える。回答分布は、4「どちらかと言えばそう思う」 49.56%、5「強くそう思う」 30.36%と、4と5の合計が 79.92%とほぼ8割であり、学生は意欲をもって授業に取り組んだと言えるだろう。

学年別の平均では、どの学年も 4 以上となっており大差はみられない。

Q5「自分意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	1,042	4.05	0.81
中国文学科	292	4.08	0.78
英米文学科	697	4.10	0.82
教育学科	954	4.08	0.78
書道学科	421	4.41	0.68
歴史文化学科	397	4.08	0.79
社会経済学科	799	3.99	0.78
現代経済学科	514	4.05	0.80
中国語学科	616	4.08	0.83
英語学科	1,345	4.14	0.84
日本語学科	286	4.20	0.83
法律学科	1,202	3.97	0.86
政治学科	828	3.95	0.80
国際関係学科	545	4.12	0.75
国際文化学科	301	4.11	0.84
経営学科	1,193	3.96	0.80
スポーツ科学科	898	4.30	0.76
健康科学科	661	4.07	0.81
看護学科	813	4.10	0.83
社会学科	1,526	3.98	0.80
教職課程センター	349	4.16	0.76
国際交流センター	72	4.39	0.72
<b>全学</b>	<b>15,751</b>	<b>4.07</b>	<b>0.81</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	8,491	4.08	0.83
2	4,079	4.07	0.80
3	2,626	4.07	0.77
4	546	4.00	0.81

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

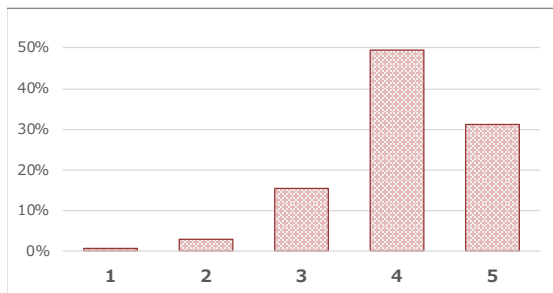
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.06%	2.78%	15.45%	51.44%	29.27%
中国文学科	0.68%	2.74%	14.73%	52.05%	29.79%
英米文学科	0.57%	4.02%	13.63%	48.64%	33.14%
教育学科	0.63%	2.62%	15.41%	50.84%	30.50%
書道学科	0.24%	0.95%	6.65%	42.28%	49.88%
歴史文化学科	0.50%	2.02%	18.64%	47.10%	31.74%
社会経済学科	0.88%	2.75%	17.52%	54.19%	24.66%
現代経済学科	0.97%	2.72%	15.18%	52.33%	28.79%
中国語学科	1.14%	2.60%	16.40%	46.59%	33.28%
英語学科	1.49%	2.38%	13.23%	46.84%	36.06%
日本語学科	0.70%	3.85%	10.49%	44.76%	40.21%
法律学科	1.25%	4.66%	16.72%	50.67%	26.71%
政治学科	0.72%	3.86%	19.08%	52.42%	23.91%
国際関係学科	0.55%	1.28%	15.96%	50.28%	31.93%
国際文化学科	0.66%	3.32%	16.61%	43.52%	35.88%
経営学科	0.67%	3.52%	19.87%	51.05%	24.90%
スポーツ科学科	0.22%	2.12%	10.36%	41.87%	45.43%
健康科学科	0.76%	3.03%	15.73%	49.47%	31.01%
看護学科	0.74%	3.32%	15.74%	45.26%	34.93%
社会学科	0.85%	4.13%	15.53%	55.05%	24.44%
教職課程センター	0.29%	2.29%	13.47%	49.28%	34.67%
国際交流センター	0.00%	0.00%	13.89%	33.33%	52.78%
<b>全学</b>	<b>0.81%</b>	<b>3.05%</b>	<b>15.41%</b>	<b>49.44%</b>	<b>31.28%</b>

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.80%	3.29%	15.88%	47.23%	32.81%
2	0.86%	3.11%	14.51%	51.24%	30.28%
3	0.76%	2.28%	14.62%	53.62%	28.71%
4	0.92%	2.75%	18.68%	50.73%	26.92%
<b>全学</b>	<b>0.81%</b>	<b>3.05%</b>	<b>15.41%</b>	<b>49.44%</b>	<b>31.28%</b>

Q5 「自分意欲」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」 )



回答	回答者数	割合
1	128	0.81%
2	481	3.05%
3	2427	15.41%
4	7788	49.44%
5	4927	31.28%
合計	15751	

【全学共通科目】

Q5 「自分意欲」の学科/部局別 (左) および学年別 (右) の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	183	3.93	0.83
中国文学科	77	4.17	0.81
英米文学科	62	3.84	0.83
教育学科	615	3.96	0.81
書道学科	72	4.53	0.58
歴史文化学科	64	3.84	0.99
社会経済学科			
現代経済学科	97	4.00	0.76
中国語学科			
英語学科	172	4.13	0.88
日本語学科	80	4.04	0.84
法律学科	381	3.94	0.82
政治学科	159	3.92	0.81
国際関係学科	62	4.29	0.70
国際文化学科	17	3.94	1.00
経営学科	181	4.09	0.75
スポーツ科学科	305	4.44	0.68
健康科学科	21	4.19	0.50
看護学科			
社会学科	202	3.92	0.85
教職課程センター			
国際交流センター			
<b>全学</b>	<b>2,750</b>	<b>4.05</b>	<b>0.82</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,824	4.05	0.83
2	714	4.04	0.81
3	141	4.11	0.80
4	69	4.06	0.72

【全学共通科目】

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.55%	4.92%	20.22%	49.18%	25.14%
中国文学科	0.00%	6.49%	6.49%	50.65%	36.36%
英米文学科	0.00%	6.45%	24.19%	48.39%	20.97%
教育学科	0.81%	3.41%	19.51%	51.22%	25.04%
書道学科	0.00%	0.00%	4.17%	38.89%	56.94%
歴史文化学科	3.13%	3.13%	29.69%	34.38%	29.69%
社会経済学科					
現代経済学科	1.03%	2.06%	16.49%	56.70%	23.71%
中国語学科					
英語学科	2.91%	2.33%	8.72%	50.58%	35.47%
日本語学科	2.50%	3.75%	7.50%	60.00%	26.25%
法律学科	0.79%	4.46%	18.90%	51.71%	24.15%
政治学科	0.63%	5.66%	16.35%	55.35%	22.01%
国際関係学科	0.00%	3.23%	4.84%	51.61%	40.32%
国際文化学科	5.88%	0.00%	17.65%	47.06%	29.41%
経営学科	0.55%	1.10%	17.68%	50.28%	30.39%
スポーツ科学科	0.00%	1.31%	6.89%	38.36%	53.44%
健康科学科	0.00%	0.00%	4.76%	71.43%	23.81%
看護学科					
社会学科	1.49%	3.96%	20.30%	50.00%	24.26%
教職課程センター					
国際交流センター					
<b>全学</b>	<b>0.91%</b>	<b>3.35%</b>	<b>15.82%</b>	<b>49.56%</b>	<b>30.36%</b>

【全学共通科目】

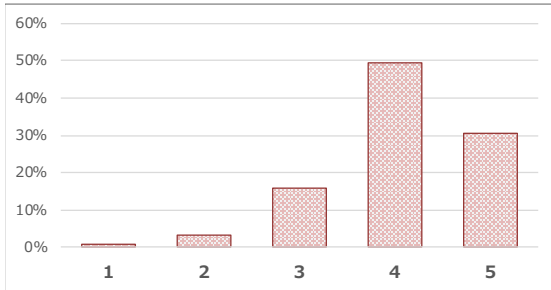
Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.88%	3.62%	16.17%	48.46%	30.87%
2	0.98%	2.80%	16.25%	50.70%	29.27%
3	1.42%	2.84%	9.93%	55.32%	30.50%
4	0.00%	2.90%	14.49%	56.52%	26.09%
<b>全学</b>	<b>0.91%</b>	<b>3.35%</b>	<b>15.82%</b>	<b>49.56%</b>	<b>30.36%</b>

#### 【全学共通科目】

##### Q 5 「自分意欲」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	25	0.91%
2	92	3.35%
3	435	15.82%
4	1363	49.56%
5	835	30.36%
合計	2750	

#### 4.2.7 【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

この設問に対する全学平均は 4.49 (前期は 4.46)、標準偏差 0.72 (前期は 0.75) と、わずかに上昇しているが、ほぼ前期並みと言える。この平均値は、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」のちょうど中間点であり、学科部局別と全学の回答分布をみても、5 が 59.43%、4 が 32.31% という値で、5 の回答が約 6 割である。4 と 5 の合計で 91.74% と高い数値を示し、満足してよい結果と言える。これはどの学科も同じ傾向にある。

学科別では書道学科の平均が 4.69、標準偏差 0.60 と最も高かった (前期も書道学科、平均 4.83、標準偏差 0.39)。部局では国際交流センターの平均が 4.67 (標準偏差 0.60) と高かった (前期は教職課程センターの平均 4.59、標準偏差 0.71)。学年別ではどの学年も 4.4 以上であり概して高い。

全学共通科目の平均 4.51、標準偏差 0.68 と全学の平均とほぼ同じ結果となっている。回答分布も 59.43%、4 が 33.22%、92.65% と全学の回答分布よりもやや高い数値となった。こちらも満足してよい結果と言えるだろう。

学年別では、全学も全学共通科目でも 4.4 以上の高い数値を示し、学年による違いは見られない。

Q 6「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	1,046	4.61	0.60
中国文学科	290	4.46	0.77
英米文学科	699	4.57	0.64
教育学科	956	4.47	0.74
書道学科	421	4.69	0.60
歴史文化学科	397	4.41	0.81
社会経済学科	801	4.41	0.79
現代経済学科	515	4.42	0.73
中国語学科	618	4.49	0.70
英語学科	1,349	4.48	0.82
日本語学科	286	4.63	0.66
法律学科	1,200	4.42	0.78
政治学科	828	4.41	0.75
国際関係学科	547	4.65	0.59
国際文化学科	301	4.52	0.71
経営学科	1,193	4.37	0.76
スポーツ科学科	901	4.60	0.64
健康科学科	661	4.48	0.67
看護学科	812	4.48	0.70
社会学科	1,525	4.46	0.69
教職課程センター	349	4.49	0.72
国際交流センター	72	4.67	0.60
<b>全学</b>	<b>15,767</b>	<b>4.49</b>	<b>0.72</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	8,501	4.47	0.74
2	4,081	4.50	0.71
3	2,627	4.53	0.68
4	549	4.52	0.70



Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

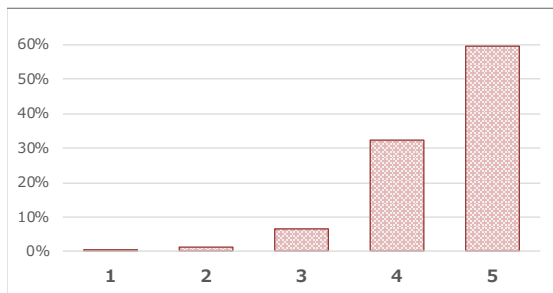
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.00%	0.57%	4.30%	28.39%	66.73%
中国文学科	1.03%	1.38%	6.55%	33.10%	57.93%
英米文学科	0.14%	0.43%	5.87%	29.18%	64.38%
教育学科	0.63%	1.15%	7.43%	32.53%	58.26%
書道学科	0.24%	1.19%	2.14%	22.09%	74.35%
歴史文化学科	1.01%	1.51%	9.82%	30.48%	57.18%
社会経済学科	0.87%	1.87%	7.87%	34.21%	55.18%
現代経済学科	0.78%	0.78%	7.57%	37.09%	53.79%
中国語学科	0.49%	0.81%	6.47%	33.50%	58.74%
英語学科	1.33%	1.70%	7.93%	26.02%	63.01%
日本語学科	0.70%	0.70%	3.50%	25.52%	69.58%
法律学科	1.33%	1.25%	6.08%	36.42%	54.92%
政治学科	0.85%	1.09%	7.49%	36.96%	53.62%
国際関係学科	0.00%	0.37%	4.94%	24.31%	70.38%
国際文化学科	0.33%	1.66%	5.98%	29.90%	62.13%
経営学科	0.50%	2.01%	8.05%	39.23%	50.21%
スポーツ科学科	0.22%	0.67%	5.11%	27.19%	66.81%
健康科学科	0.00%	0.91%	7.56%	34.19%	57.34%
看護学科	0.62%	0.49%	6.65%	34.85%	57.39%
社会学科	0.26%	1.25%	6.30%	36.85%	55.34%
教職課程センター	0.57%	1.43%	6.02%	32.09%	59.89%
国際交流センター	0.00%	0.00%	6.94%	19.44%	73.61%
<b>全学</b>	<b>0.58%</b>	<b>1.14%</b>	<b>6.54%</b>	<b>32.31%</b>	<b>59.43%</b>

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.60%	1.26%	7.23%	32.55%	58.36%
2	0.59%	1.08%	6.15%	32.00%	60.18%
3	0.49%	0.91%	5.14%	32.20%	61.25%
4	0.73%	0.73%	5.46%	31.51%	61.57%
<b>全学</b>	<b>0.58%</b>	<b>1.14%</b>	<b>6.54%</b>	<b>32.31%</b>	<b>59.43%</b>

Q 6 「教員熱意」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	92	0.58%
2	179	1.14%
3	1031	6.54%
4	5094	32.31%
5	9371	59.43%
合計	15767	

【全学共通科目】

Q 6 「教員熱意」の学科/部局別 (左) および学年別 (右) の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	182	4.51	0.69
中国文学科	76	4.59	0.75
英米文学科	62	4.65	0.51
教育学科	617	4.35	0.79
書道学科	72	4.75	0.55
歴史文化学科	64	4.42	0.77
社会経済学科			
現代経済学科	97	4.42	0.66
中国語学科			
英語学科	172	4.75	0.55
日本語学科	80	4.61	0.54
法律学科	380	4.48	0.62
政治学科	159	4.42	0.66
国際関係学科	62	4.74	0.51
国際文化学科	17	4.41	0.49
経営学科	182	4.56	0.64
スポーツ科学科	306	4.61	0.60
健康科学科	21	4.57	0.49
看護学科			
社会学科	202	4.48	0.73
教職課程センター			
国際交流センター			
<b>全学</b>	<b>2,751</b>	<b>4.51</b>	<b>0.68</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,826	4.49	0.68
2	713	4.51	0.69
3	141	4.62	0.65
4	69	4.49	0.77

【全学共通科目】

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.00%	1.10%	8.24%	29.67%	60.99%
中国文学科	1.32%	0.00%	7.89%	19.74%	71.05%
英米文学科	0.00%	0.00%	1.61%	32.26%	66.13%
教育学科	0.00%	0.00%	9.72%	37.28%	50.57%
書道学科	0.00%	1.39%	1.39%	18.06%	79.17%
歴史文化学科	0.00%	0.00%	17.19%	23.44%	59.38%
社会経済学科					
現代経済学科	0.00%	1.03%	6.19%	42.27%	50.52%
中国語学科					
英語学科	0.58%	0.00%	2.33%	18.02%	79.07%
日本語学科	0.00%	0.00%	2.50%	33.75%	63.75%
法律学科	0.00%	0.79%	4.47%	41.05%	53.68%
政治学科	0.00%	1.89%	3.77%	45.28%	49.06%
国際関係学科	0.00%	0.00%	3.23%	19.35%	77.42%
国際文化学科	0.00%	0.00%	0.00%	58.82%	41.18%
経営学科	0.00%	1.65%	3.30%	32.42%	62.64%
スポーツ科学科	0.00%	0.65%	4.25%	28.76%	66.34%
健康科学科	0.00%	0.00%	0.00%	42.86%	57.14%
看護学科					
社会学科	0.50%	0.99%	8.42%	30.69%	59.41%
教職課程センター					
国際交流センター					
<b>全学</b>	<b>0.29%</b>	<b>0.98%</b>	<b>6.07%</b>	<b>33.22%</b>	<b>59.43%</b>

【全学共通科目】

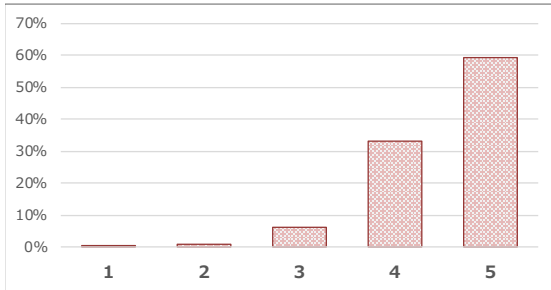
Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.16%	0.99%	6.46%	34.06%	58.32%
2	0.56%	0.70%	5.89%	32.82%	60.03%
3	0.00%	2.13%	2.84%	25.53%	69.50%
4	1.45%	1.45%	4.35%	31.88%	60.87%
<b>全学</b>	<b>0.29%</b>	<b>0.98%</b>	<b>6.07%</b>	<b>33.22%</b>	<b>59.43%</b>

### 【全学共通科目】

#### Q6 「教員熱意」に対する全学の回答分布

( 1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」 )



回答	回答者数	割合
1	8	0.29%
2	27	0.98%
3	167	6.07%
4	914	33.22%
5	1635	59.43%
合計	2751	

#### 4.2.8 【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]

この設問に対する全学の平均は 4.29(前期は 4.26)、標準偏差は 0.79 (前期は 0.81) であった。前期とほぼ同じ数値となった。全体としてはまずまずの結果と言えるだろう。学科の平均は前期と同じく、書道学科が 4.59 (標準偏差 0.60) と最も高く (前期は平均 4.63、標準偏差 0.58)、部局では国際交流センターの平均 4.49、標準偏差 0.71 (前期は教職課程センターの平均 4.45、標準偏差 0.73) であった。

学科・部局別、および全学の回答分布をみると、4「どちらかと言えばそう思う」43.07%、5「強くそう思う」45.21%であり、4よりも5のほうが高くなっている。4よりも5の割合のほうが高かった学科は、日本文学科 51.91%、中国文学科 44.86%、英米文学科 47.13%、教育学科 47.12%、書道学科 64.37%、歴史文化学科 44.33%、中国語学科 49.11%、英語学科 51.22%、日本語学科 52.80%、国際関係学科 53.03%、国際文化学科 47.00%、スポーツ科学科 54.22%、健康科学科 47.06%であった。なかでも、書道学科は高い数値を示しており、具体的な技術の習得と成長実感が結びついていることが考えられる。部局では、教職課程センターも国際交流センターも5の割合が高く、教職課程センター49.86%、国際交流センター61.97%であった。

全学共通科目の平均は 4.30、標準偏差 0.77 であった (前期は平均 4.28、標準偏差 0.80)。全学の平均とほぼ同じといえる。こちらもまずまずの結果と言えるだろう。

学年別の回答分布を見ると、全学でも全学共通科目でも、5「強くそう思う」の割合が最も高いのは3年生 (全学 48.30%、全学共通科目 58.57%) であった。

Q7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	1,048	4.41	0.72
中国文学科	292	4.29	0.78
英米文学科	698	4.34	0.75
教育学科	955	4.33	0.76
書道学科	421	4.59	0.60
歴史文化学科	397	4.26	0.81
社会経済学科	802	4.18	0.82
現代経済学科	516	4.27	0.76
中国語学科	617	4.35	0.79
英語学科	1,349	4.31	0.90
日本語学科	286	4.42	0.72
法律学科	1,203	4.22	0.85
政治学科	828	4.18	0.81
国際関係学科	545	4.42	0.72
国際文化学科	300	4.31	0.77
経営学科	1,192	4.20	0.78
スポーツ科学科	900	4.42	0.73
健康科学科	661	4.27	0.74
看護学科	813	4.28	0.76
社会学科	1,527	4.19	0.80
教職課程センター	349	4.32	0.83
国際交流センター	71	4.49	0.71
<b>全学</b>	<b>15,770</b>	<b>4.29</b>	<b>0.79</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	8,505	4.26	0.82
2	4,085	4.30	0.77
3	2,623	4.37	0.72
4	548	4.36	0.75

Q 7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

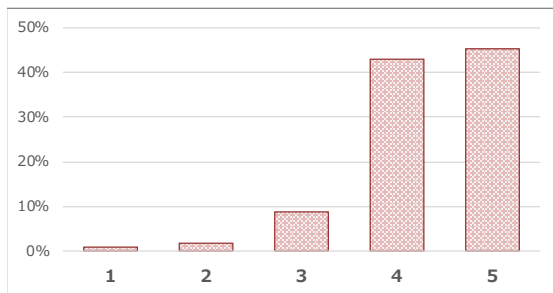
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.57%	1.15%	6.68%	39.69%	51.91%
中国文学科	1.03%	1.37%	9.93%	42.81%	44.86%
英米文学科	0.57%	1.72%	8.31%	42.26%	47.13%
教育学科	0.94%	1.26%	8.48%	42.20%	47.12%
書道学科	0.00%	0.71%	3.56%	31.35%	64.37%
歴史文化学科	1.26%	1.26%	11.84%	41.31%	44.33%
社会経済学科	1.75%	1.75%	10.35%	49.13%	37.03%
現代経済学科	1.16%	1.36%	8.33%	47.67%	41.47%
中国語学科	1.13%	1.94%	7.29%	40.52%	49.11%
英語学科	2.30%	2.52%	8.23%	35.73%	51.22%
日本語学科	0.70%	1.40%	5.59%	39.51%	52.80%
法律学科	1.83%	2.99%	7.81%	46.47%	40.90%
政治学科	1.21%	2.42%	10.63%	48.55%	37.20%
国際関係学科	0.73%	0.37%	8.26%	37.61%	53.03%
国際文化学科	0.67%	1.33%	11.33%	39.67%	47.00%
経営学科	0.92%	2.18%	10.15%	49.33%	37.42%
スポーツ科学科	0.22%	1.67%	8.33%	35.56%	54.22%
健康科学科	0.45%	1.06%	11.65%	44.63%	42.21%
看護学科	0.86%	1.35%	9.23%	45.63%	42.93%
社会学科	1.18%	2.82%	9.04%	50.16%	36.80%
教職課程センター	0.57%	3.72%	8.88%	36.96%	49.86%
国際交流センター	0.00%	0.00%	12.68%	25.35%	61.97%
<b>全学</b>	<b>1.07%</b>	<b>1.88%</b>	<b>8.78%</b>	<b>43.07%</b>	<b>45.21%</b>

Q 7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.26%	2.14%	10.02%	42.18%	44.41%
2	1.03%	1.62%	7.74%	45.21%	44.41%
3	0.53%	1.45%	7.01%	42.70%	48.30%
4	0.91%	1.82%	6.02%	43.07%	48.18%
<b>全学</b>	<b>1.07%</b>	<b>1.88%</b>	<b>8.78%</b>	<b>43.07%</b>	<b>45.21%</b>

Q7「成長感覚」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」/ 2「どちらかと言えばそう思わない」/ 3「どちらとも言えない」/ 4「どちらかと言えばそう思う」/ 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	168	1.07%
2	296	1.88%
3	1385	8.78%
4	6792	43.07%
5	7129	45.21%
合計	15770	

【全学共通科目】

Q7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	183	4.16	0.82
中国文学科	77	4.44	0.76
英米文学科	62	4.26	0.69
教育学科	616	4.24	0.80
書道学科	72	4.58	0.55
歴史文化学科	64	4.02	1.02
社会経済学科			
現代経済学科	98	4.19	0.72
中国語学科			
英語学科	172	4.45	0.77
日本語学科	80	4.33	0.63
法律学科	381	4.29	0.71
政治学科	159	4.25	0.78
国際関係学科	62	4.56	0.64
国際文化学科	17	4.47	0.61
経営学科	182	4.40	0.74
スポーツ科学科	306	4.38	0.76
健康科学科	21	4.52	0.50
看護学科			
社会学科	202	4.18	0.79
教職課程センター			
国際交流センター			
<b>全学</b>	<b>2,754</b>	<b>4.30</b>	<b>0.77</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,828	4.27	0.78
2	715	4.34	0.74
3	140	4.51	0.66
4	69	4.29	0.93

【全学共通科目】

Q7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.55%	3.28%	13.66%	44.81%	37.70%
中国文学科	1.30%	0.00%	9.09%	32.47%	57.14%
英米文学科	0.00%	0.00%	14.52%	45.16%	40.32%
教育学科	1.30%	1.95%	9.25%	46.59%	40.91%
書道学科	0.00%	0.00%	2.78%	36.11%	61.11%
歴史文化学科	4.69%	1.56%	18.75%	37.50%	37.50%
社会経済学科					
現代経済学科	1.02%	1.02%	9.18%	55.10%	33.67%
中国語学科					
英語学科	1.16%	1.74%	5.23%	34.88%	56.98%
日本語学科	0.00%	0.00%	8.75%	50.00%	41.25%
法律学科	0.26%	1.57%	8.66%	47.77%	41.73%
政治学科	1.26%	1.89%	8.18%	47.80%	40.88%
国際関係学科	0.00%	0.00%	8.06%	27.42%	64.52%
国際文化学科	0.00%	0.00%	5.88%	41.18%	52.94%
経営学科	0.55%	1.65%	7.14%	38.46%	52.20%
スポーツ科学科	0.33%	1.63%	10.13%	35.29%	52.61%
健康科学科	0.00%	0.00%	0.00%	47.62%	52.38%
看護学科					
社会学科	0.99%	2.48%	10.40%	49.50%	36.63%
教職課程センター					
国際交流センター					
<b>全学</b>	<b>0.84%</b>	<b>1.63%</b>	<b>9.22%</b>	<b>43.43%</b>	<b>44.88%</b>

【全学共通科目】

Q7「成長感覚」に対する学年別回答分布

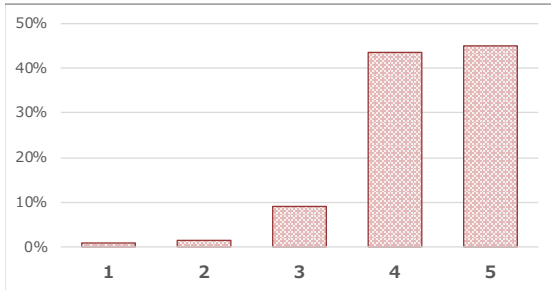
学年	1	2	3	4	5
1	0.88%	1.64%	10.34%	44.09%	43.05%
2	0.84%	1.26%	7.41%	44.48%	46.01%
3	0.00%	1.43%	5.00%	35.00%	58.57%
4	1.45%	5.80%	7.25%	33.33%	52.17%
<b>全学</b>	<b>0.84%</b>	<b>1.63%</b>	<b>9.22%</b>	<b>43.43%</b>	<b>44.88%</b>



### 【全学共通科目】

#### Q7「成長感覚」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」/ 2「どちらかと言えばそう思わない」/ 3「どちらとも言えない」/ 4「どちらかと言えばそう思う」/ 5「強くそう思う」)



回答	回答者数	割合
1	23	0.84%
2	45	1.63%
3	254	9.22%
4	1196	43.43%
5	1236	44.88%
合計	2754	

4.2.9【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。[総合満足]

包括的な設問(総合満足)であるQ8の結果は、全学の平均は8.26(前期8.09)、標準偏差は1.69(前期1.78)であった。平均値は僅かに上昇し、標準偏差は僅かに減少している。まずは「合格点」と言えるのではないだろうか。学科では前期と同じく、平均が最も高かった学科は書道学科で8.98を示した(前期は8.92)。標準偏差が最も低かったのも書道学科で1.18であった。部局の平均は国際交流センター8.96が高かった(前期は教職課程センター8.40)。

学科部局別、および全学の回答分布をみると、8が24.38%(前期24.28%)、9が22.02%(前期21.55%)、10が27.92%(前期24.81%)、合計74.32%(前期合計70.64%)と全体の7割以上を占める。最頻値は10であった。内訳を前期と比較してみても微増しており、全体として総合満足度は高くなっていると考えられるだろう。

学科では、10が30%を超える数値を示すのは、日本文学科31.42%、英米文学科31.52%、書道学科44.76%、英語学科31.55%、日本語学科33.22%、国際関係学科32.91%、スポーツ科学科39.82%、看護学科31.98%であった。書道学科は1~4までが0%であり、8~10の合計が86.66%と、概して満足度が高い。前期に10の割合が30%を超えたのは、日本文学科30.96%、書道学科45.04%、スポーツ科学科42.60%のみであった。10の割合については19.11%~44.76%と分布しており、学科によって大きな違いが見られる。

部局では、10の割合は教職課程センター27.22%、国際交流センター50.00%と大きな差を示しており、8~10の合計が教職課程センター71.63%、国際交流センター86.11%であった。

全学共通科目の平均は8.33、標準偏差1.56(前期は平均8.19、標準偏差1.71)であった。回答分布をみると、8が24.52%、9が21.07%、10が29.13%、8~10の合計が74.72%であった。全学の数値よりも僅かに高い割合となっている。

学年別では、全学、全学共通科目ともに4年生は10の割合が高く、これは例年同様の傾向である。

1と2の数値については注意が必要であろう。全学の1の割合を学年別にみると、どの学年も2より1のほうが高い。さらに、3、4年生よりも1、2年生のほうが、1と2の数値が

高い。つまり、学年の低いほうが総合的満足度の低い層が多くなっている。全学共通科目も同様の傾向にある。全学共通科目について、3、4年生は1と2は0%であった。学年が上がるにつれ全学共通科目の履修者は減るが、それでも無視できない点であろう。

Q 8「総合満足」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	1,047	8.49	1.49
中国文学科	292	8.16	1.75
英米文学科	698	8.40	1.63
教育学科	953	8.24	1.62
書道学科	420	8.98	1.18
歴史文化学科	397	8.21	1.79
社会経済学科	802	8.11	1.65
現代経済学科	516	8.26	1.64
中国語学科	617	8.22	1.75
英語学科	1,347	8.29	1.85
日本語学科	286	8.56	1.49
法律学科	1,203	7.94	1.93
政治学科	827	8.12	1.70
国際関係学科	547	8.54	1.54
国際文化学科	300	8.28	1.67
経営学科	1,193	8.01	1.57
スポーツ科学科	899	8.66	1.53
健康科学科	662	8.24	1.61
看護学科	813	8.23	1.73
社会学科	1,529	8.12	1.69
教職課程センター	349	8.13	1.87
国際交流センター	72	8.96	1.37
<b>全学</b>	15,769	8.26	1.69

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	8,498	8.22	1.73
2	4,086	8.24	1.68
3	2,627	8.40	1.58
4	549	8.49	1.55

Q 8 「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

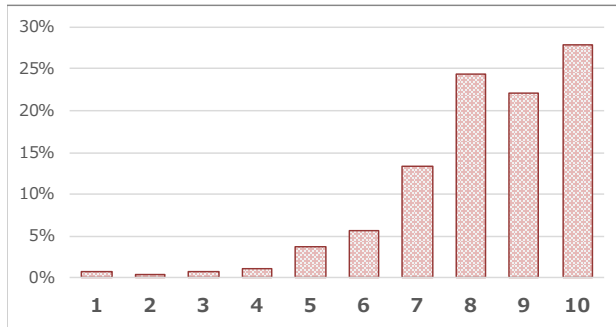
学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.29%	0.29%	0.19%	0.86%	2.96%	3.53%	12.99%	23.97%	23.50%	31.42%
中国文学科	1.03%	0.34%	1.03%	2.40%	2.74%	5.82%	13.70%	22.60%	27.40%	22.95%
英米文学科	0.29%	0.57%	0.57%	1.43%	3.58%	4.73%	11.03%	23.78%	22.49%	31.52%
教育学科	0.42%	0.21%	0.63%	1.36%	3.99%	5.46%	15.11%	25.50%	19.83%	27.49%
書道学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.19%	2.14%	10.00%	15.95%	25.95%	44.76%
歴史文化学科	1.01%	0.00%	1.01%	2.52%	3.78%	7.05%	11.08%	22.42%	22.42%	28.72%
社会経済学科	0.62%	0.50%	0.75%	1.12%	4.36%	5.74%	14.84%	28.30%	21.82%	21.95%
現代経済学科	0.78%	0.19%	0.97%	0.78%	3.10%	5.81%	14.15%	25.39%	21.71%	27.13%
中国語学科	1.46%	0.32%	0.81%	0.97%	2.92%	5.67%	13.45%	25.12%	22.85%	26.42%
英語学科	1.63%	0.74%	0.37%	1.63%	3.34%	4.60%	12.69%	21.16%	22.27%	31.55%
日本語学科	0.70%	0.00%	0.00%	0.35%	2.10%	5.94%	12.24%	18.88%	26.57%	33.22%
法律学科	2.08%	0.58%	0.91%	1.91%	4.90%	6.32%	15.05%	24.85%	20.20%	23.19%
政治学科	0.85%	0.48%	1.21%	0.60%	4.35%	6.17%	13.54%	26.24%	24.43%	22.13%
国際関係学科	0.55%	0.55%	0.00%	0.37%	3.47%	4.20%	9.14%	24.50%	24.31%	32.91%
国際文化学科	0.67%	0.00%	0.67%	1.33%	5.33%	5.33%	11.67%	23.33%	23.33%	28.33%
経営学科	0.42%	0.34%	0.75%	1.26%	3.94%	6.71%	16.43%	32.52%	18.52%	19.11%
スポーツ科学科	0.33%	0.22%	0.22%	0.56%	3.11%	4.89%	9.45%	19.80%	21.58%	39.82%
健康科学科	0.00%	0.45%	0.76%	1.21%	3.93%	7.40%	14.35%	22.96%	21.60%	27.34%
看護学科	0.62%	0.62%	0.62%	0.74%	4.18%	7.38%	15.74%	22.26%	15.87%	31.98%
社会学科	0.85%	0.39%	1.11%	1.37%	3.14%	6.67%	13.73%	26.95%	23.61%	22.17%
教職課程センター	0.57%	0.86%	1.72%	1.72%	5.44%	7.16%	10.89%	19.48%	24.93%	27.22%
国際交流センター	0.00%	0.00%	0.00%	1.39%	1.39%	4.17%	6.94%	15.28%	20.83%	50.00%
<b>全学</b>	<b>0.78%</b>	<b>0.41%</b>	<b>0.68%</b>	<b>1.19%</b>	<b>3.65%</b>	<b>5.68%</b>	<b>13.31%</b>	<b>24.38%</b>	<b>22.02%</b>	<b>27.92%</b>

Q 8 「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.84%	0.44%	0.61%	1.21%	4.37%	6.22%	13.63%	23.46%	21.17%	28.05%
2	0.83%	0.47%	0.78%	1.30%	2.91%	5.75%	13.46%	26.33%	21.39%	26.77%
3	0.57%	0.30%	0.76%	0.76%	2.78%	4.23%	12.83%	24.06%	25.20%	28.51%
4	0.55%	0.00%	0.55%	2.00%	2.19%	3.46%	9.84%	25.68%	24.77%	30.97%
<b>全学</b>	<b>0.78%</b>	<b>0.41%</b>	<b>0.68%</b>	<b>1.19%</b>	<b>3.65%</b>	<b>5.68%</b>	<b>13.31%</b>	<b>24.38%</b>	<b>22.02%</b>	<b>27.92%</b>

Q 8 「総合満足」に対する全学の回答分布

( 1「10%」/ 2「20%」/ … / 9「90%」/ 10「100%」)



回答	回答者数	割合
1	123	0.78%
2	64	0.41%
3	107	0.68%
4	187	1.19%
5	575	3.65%
6	895	5.68%
7	2099	13.31%
8	3844	24.38%
9	3472	22.02%
10	4403	27.92%
合計	15769	

**【全学共通科目】**

Q 8「総合満足」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差
日本文学科	183	8.35	1.61
中国文学科	77	8.43	1.57
英米文学科	62	8.55	1.41
教育学科	615	8.05	1.65
書道学科	72	9.28	0.96
歴史文化学科	64	7.91	1.76
社会経済学科			
現代経済学科	98	7.94	1.68
中国語学科			
英語学科	172	8.57	1.53
日本語学科	80	8.21	1.38
法律学科	381	8.16	1.52
政治学科	159	8.35	1.35
国際関係学科	62	8.89	1.09
国際文化学科	17	7.88	1.18
経営学科	182	8.37	1.41
スポーツ科学科	306	8.95	1.33
健康科学科	21	8.52	1.05
看護学科			
社会学科	202	8.15	1.78
教職課程センター			
国際交流センター			
<b>全学</b>	<b>2,753</b>	<b>8.33</b>	<b>1.56</b>

学年	回答者数	平均	標準偏差
1	1,827	8.31	1.56
2	715	8.33	1.56
3	140	8.58	1.47
4	69	8.61	1.68

【全学共通科目】

Q 8「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.00%	0.00%	0.55%	2.19%	4.92%	4.92%	13.11%	21.31%	21.86%	31.15%
中国文学科	0.00%	0.00%	0.00%	2.60%	5.19%	2.60%	14.29%	19.48%	23.38%	32.47%
英米文学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.23%	4.84%	17.74%	17.74%	20.97%	35.48%
教育学科	0.33%	0.16%	0.98%	1.46%	5.04%	6.67%	18.54%	24.72%	18.70%	23.41%
書道学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.39%	0.00%	2.78%	13.89%	29.17%	52.78%
歴史文化学科	0.00%	0.00%	1.56%	3.13%	9.38%	3.13%	17.19%	25.00%	18.75%	21.88%
社会経済学科										
現代経済学科	1.02%	0.00%	1.02%	1.02%	4.08%	8.16%	19.39%	28.57%	15.31%	21.43%
中国語学科										
英語学科	0.58%	0.00%	0.58%	1.16%	2.33%	2.91%	10.47%	24.42%	23.26%	34.30%
日本語学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.75%	8.75%	17.50%	23.75%	25.00%	21.25%
法律学科	0.00%	0.26%	0.26%	1.31%	4.72%	6.56%	15.22%	27.56%	21.52%	22.57%
政治学科	0.00%	0.00%	1.26%	0.63%	0.00%	5.03%	17.61%	26.42%	27.04%	22.01%
国際関係学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.61%	0.00%	8.06%	25.81%	27.42%	37.10%
国際文化学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.88%	5.88%	17.65%	41.18%	23.53%	5.88%
経営学科	0.00%	0.00%	1.10%	0.00%	3.30%	5.49%	9.89%	31.87%	23.08%	25.27%
スポーツ科学科	0.00%	0.00%	0.33%	0.00%	2.29%	4.25%	6.54%	16.67%	21.57%	48.37%
健康科学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	19.05%	33.33%	23.81%	23.81%
看護学科										
社会学科	0.99%	0.99%	0.50%	0.50%	3.96%	8.42%	12.87%	28.22%	13.37%	30.20%
教職課程センター										
国際交流センター										
<b>全学</b>	<b>0.22%</b>	<b>0.15%</b>	<b>0.62%</b>	<b>0.98%</b>	<b>3.81%</b>	<b>5.48%</b>	<b>14.02%</b>	<b>24.52%</b>	<b>21.07%</b>	<b>29.13%</b>

【全学共通科目】

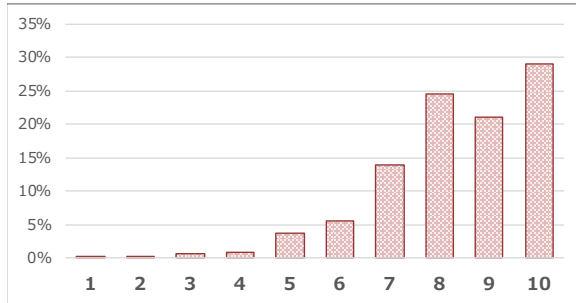
Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.11%	0.11%	0.60%	0.99%	4.49%	5.80%	14.23%	23.65%	21.62%	28.41%
2	0.56%	0.28%	0.42%	0.84%	2.80%	4.90%	14.41%	27.97%	19.30%	28.53%
3	0.00%	0.00%	1.43%	0.71%	0.71%	5.71%	12.14%	20.00%	25.00%	34.29%
4	0.00%	0.00%	1.45%	2.90%	2.90%	2.90%	8.70%	21.74%	15.94%	43.48%
<b>全学</b>	<b>0.22%</b>	<b>0.15%</b>	<b>0.62%</b>	<b>0.98%</b>	<b>3.81%</b>	<b>5.48%</b>	<b>14.02%</b>	<b>24.52%</b>	<b>21.07%</b>	<b>29.13%</b>

【全学共通科目】

Q 8 「総合満足」に対する全学の回答分布

( 1「10%」/ 2「20%」/ … / 9「90%」/ 10「100%」)



回答	回答者数	割合
1	6	0.22%
2	4	0.15%
3	17	0.62%
4	27	0.98%
5	105	3.81%
6	151	5.48%
7	386	14.02%
8	675	24.52%
9	580	21.07%
10	802	29.13%
合計	2753	

4.3.1 【クロス表に関する結果（全学）】

当該クロス表(表1,2)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、最も右の列に「どちらかと言えばそう思う」と「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。

この表に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の箇所の数字が高くなっていることが見て取れる。さらに、最も右の列の数字に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことがより顕著に示されている。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことが分かる。

表1：クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）[回答数]

		自分意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	28	14	16	14	19	91	33
	2 どちらかと言えばそう思わない	10	44	48	57	20	179	77
	3 どちらとも言えない	20	99	607	254	50	1,030	304
	4 どちらかと言えばそう思う	23	192	1,080	3,445	344	5,084	3,789
	5 強くそう思う	47	132	670	4,012	4,489	9,350	8,501
合計		128	481	2,421	7,782	4,922	15,734	12,704

表2：クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）[パーセント]

		自分意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	30.77%	15.38%	17.58%	15.38%	20.88%	100.00%	36.26%
	2 どちらかと言えばそう思わない	5.59%	24.58%	26.82%	31.84%	11.17%	100.00%	43.02%
	3 どちらとも言えない	1.94%	9.61%	58.93%	24.66%	4.85%	100.00%	29.51%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.45%	3.78%	21.24%	67.76%	6.77%	100.00%	74.53%
	5 強くそう思う	0.50%	1.41%	7.17%	42.91%	48.01%	100.00%	90.92%

#### 4.3.2 【クロス表に関する結果解釈（全学共通科目）】

当該クロス表(表 1,2)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、最も右の列に「どちらかと言えばそう思う」と「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。

この表に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の箇所の数字が高くなっていることが見て取れる。さらに、最も右の列の数字に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことがより顕著に示されている。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことが分かる。

表 1：【全学共通科目】 クロス集計（【自分意欲】 × 【教員熱意】） [回答数]

	自分意欲					合計	4+5
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも思えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	3	1	1	1	2	8	3
2 どちらかと言えばそう思わない	2	7	10	8	0	27	8
3 どちらとも思えない	3	15	100	44	5	167	49
4 どちらかと言えばそう思う	4	43	207	594	64	912	658
5 強くそう思う	13	26	116	715	763	1,633	1,478
合計	25	92	434	1,362	834	2,747	2,196

表 2：【全学共通科目】 クロス集計（【自分意欲】 × 【教員熱意】） [パーセント]

	自分意欲					合計	4+5
	1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも思えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	37.50%	12.50%	12.50%	12.50%	25.00%	100.00%	37.50%
2 どちらかと言えばそう思わない	7.41%	25.93%	37.04%	29.63%	0.00%	100.00%	29.63%
3 どちらとも思えない	1.80%	8.98%	59.88%	26.35%	2.99%	100.00%	29.34%
4 どちらかと言えばそう思う	0.44%	4.71%	22.70%	65.13%	7.02%	100.00%	72.15%
5 強くそう思う	0.80%	1.59%	7.10%	43.78%	46.72%	100.00%	90.51%

#### 4.4.1 【相関表に関する結果（全学）】

相関係数に関しては、 $+0.3 \sim +0.6$  ( $-0.3 \sim -0.6$ )で弱い正（負）の相関関係、 $+0.6 \sim +1$  ( $-0.6 \sim -1$ )で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関表では、弱い正の相関関係をオレンジ色、強い正の相関関係を赤字で記す。分析の結果、『難易度が適切かどうか』に関わるもの以外の全てに関して、正の相関関係が観られた。

もっとも重要な『総合満足度』に対しては、特に『成長実感』との間に強い正の相関関係が観られ、その後、正の相関関係が強い順に『教員熱意』、『自分の意欲』、『シラバス通りかどうか』と続く。ここから、『総合満足度』の向上に対しては、『成長実感を持てるかどうか』が重要な構成要素であり、その他『教員熱意』、『自分の意欲』、『シラバス通りかどうか』の順で重要な要素であることが示された。

次に、その『成長実感』と関連性の強い項目順に見ていくと、『教員の熱意』との間に強い正の相関関係が観られ、その後、『自分の意欲』、『シラバス通りかどうか』と続く。ここ



から、『成長実感』の向上に対しては、『教員の熱意があるかどうか』が重要な構成要素であり、その他『自分の意欲』、『シラバス通りかどうか』の順で重要な要素であることが示された。

「難易度が適切かどうか」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度」などの他の変数が5点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度」は3点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、「難易度」と他の変数における関連性は、単純に2つの変数が共変しているかどうかを測る相関分析で測ることができない。よって、「難易度が適切かどうか」に関わる結果に対して妥当な解釈は困難であろう。

まとめると、教員の熱意が成長実感や学生の意欲向上に繋がり、それらが『総合満足度』に大きく影響を与えていることが示された。

表 1：相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		〔シラバス通り〕	〔難易度適切〕	〔FB丁寧〕	〔自分意欲〕	〔教員熱意〕	〔成長実感〕	〔総合満足〕
Q1b	〔シラバス通り〕	1.00						
Q2	〔難易度適切〕	-0.04	1.00					
Q4	〔FB丁寧〕	0.22	-0.21	1.00				
Q5	〔自分意欲〕	0.38	-0.07	0.18	1.00			
Q6	〔教員熱意〕	0.46	-0.04	0.29	0.47	1.00		
Q7	〔成長実感〕	0.46	-0.09	0.26	0.55	0.61	1.00	
Q8	〔総合満足〕	0.49	-0.19	0.27	0.50	0.58	0.64	1.00

#### 4.4.2 【相関表に関する結果（全学共通科目）】

相関係数に関しては、+0.3～+0.6(-0.3～-0.6)で弱い正(負)の相関関係、+0.6～+1(-0.6～-1)で強い正(負)の相関関係があると解釈できる。当該相関表では、弱い正の相関関係をオレンジ色、強い正の相関関係を赤字で記す。分析の結果、『難易度が適切かどうか』に関わるもの以外の全てに関して、正の相関関係が観られた。

もっとも重要な『総合満足度』に対しては、正の相関関係が強い順で『成長実感』、『教員の熱意』、『自分の意欲』、『シラバス通りかどうか』と続く。ここから、『総合満足度』の向上に対しては、『成長実感を持てるかどうか』が重要な構成要素であり、その他『教員の熱意』、『自分の熱意』、『シラバス通りかどうか』の順で重要な要素であることが示された。

次に、その『成長実感』と関連性の強い項目順に見ていくと、『教員の熱意』、『自分の意欲』、『シラバス通りかどうか』と続く。ここから、『成長実感』の向上に対しては、『教員の

熱意があるかどうか』が重要な構成要素であり、その他『自分の意欲』、『シラバス通りかどうか』の順で重要な要素であることが示された。

「難易度が適切かどうか」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度」などの他の変数が5点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度」は3点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、「難易度」と他の変数における関連性は、単純に2つの変数が共変しているかどうかを測る相関分析で測ることができない。よって、「難易度が適切かどうか」に関わる結果に対して妥当な解釈は困難であろう。

まとめると、教員の熱意が成長実感や学生の意欲向上に繋がり、それらが『総合満足度』に大きく影響を与えていることが示された。

表1：【全学共通科目】 相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		〔シラバス通り〕	〔難易度適切〕	〔FB丁寧〕	〔自分意欲〕	〔教員熱意〕	〔成長実感〕	〔総合満足〕
Q1b	〔シラバス通り〕	1.00						
Q2	〔難易度適切〕	-0.01	1.00					
Q4	〔FB丁寧〕	0.21	-0.23	1.00				
Q5	〔自分意欲〕	<b>0.40</b>	-0.13	0.19	1.00			
Q6	〔教員熱意〕	<b>0.45</b>	-0.07	0.25	<b>0.46</b>	1.00		
Q7	〔成長実感〕	<b>0.41</b>	-0.11	0.21	<b>0.53</b>	<b>0.56</b>	1.00	
Q8	〔総合満足〕	<b>0.46</b>	-0.20	0.25	<b>0.51</b>	<b>0.56</b>	<b>0.59</b>	1.00

#### まとめと結論（教員所属別）

2023年度後期の主な結果をまとめると以下のようになる。

1. シラバス内容を知っているのは全学77.9%、全学共通科目78.2%であった。この数値は前期の全学80.98%と全学共通科目83.17%より低下したものであった。
2. シラバス内容を知っている学生は、授業はシラバス通りに実施されたと概ね認識した。（最頻値=全学5・全学共通科目5、平均値=全学4.37・全学共通科目4.40）
3. 授業の難易度については「適切だった」という認識が最も多く、次に「やや難しかった」という認識が多かった。前期に引き続き、全体としては概ね適切な難易度設定がなされていると考えられる。（最頻値=全学3・全学共通科目3、平均値=全学3.54・全学共通科目3.45）

ただし、相関係数表の結果をみる限り、難易度に関してはすべての項目間で相関関係があるとは言えない。

4. 質問をしたことのある学生は全学の平均で15.7%、全学共通科目で9.7%であった。

前期は全学80.74%、全学共通科目84.61%であったことから、前期と真逆の結果となった。

5. 質問に対する対応は概ね「迅速である」と認識されていた(最頻値=全学5・全学共通科目5、平均値=全学3.73・全学共通科目3.54)。一方で、「迅速ではない」という認識している学生が前期の4倍近くになっており、マイナスの評価の割合が高くなっている。学生の質問に対する教員の対応如何によって、学生も質問意欲が変わることが考えられる。
6. 学生は「熱意・意欲」をもって授業に取り組んだ、と概ね認識していた(最頻値=全学4・全学共通科目4、平均値=全学4.07・全学共通科目4.05)。前期とほぼ同様の結果であった。
7. 担当教員は熱意を持って授業を行っている、と学生は概ね認識していた(最頻値=全学5・全学共通科目5、平均値=全学4.49・全学共通科目4.51)。前期とほぼ同様の結果であった。
8. 学生自身の意欲の自己認識と、学生が感じる教員の熱意には、弱い正の相関関係が確認された。学生が教員熱意を感じようになると、連動して学生自身の意欲も向上するようになっていくと言える。ただし、相関係数表(全学0.47と全学共通科目0.46)から判断する限り、教員としては熱意をもって授業に取り組むことは当然として、熱意が学生に伝わるよう一層努力する必要があるだろう。
9. 授業を通じて知識の習得、思考の深化、技術の向上等の成長を感じたという認識は多くの学生が持っており、最頻値が前期と同じく5である。(最頻値=全学5・全学共通科目5、平均値=全学4.29・全学共通科目4.30)
10. すべてを総合して授業に(概ね)満足だと認識した学生(8~10を選んだ学生)は全学で74.32%(前期は70.64%)であった(最頻値=全学10・全学共通科目10、平均値=全学8.26・全学共通科目8.33)。
11. 「自分意欲」と「教員熱意」のクロス集計表をみると、教員の「強くそう思う」と学生の「どちらかと言えばそう思う」との関係は「全学42.91%、全学共通科目43.78」であり、お互いに「強くそう思う」の関係は「全学48.01%、全学共通科目46.72%」を示し、それぞれ合わせると、全学90.92%、全学共通科目90.50%となる。この結果から、後期も前期と同じく、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。
12. 「総合満足」に最も影響があるのは相関係数表によると、全学は「成長実感」であり、次いで「教員の熱意」「自身の意欲」「シラバス通りがどうか」「フィードバックが丁寧かどうか」という順序であった。全学共通科目は、同じく相関係数表によると、「総合満足」に最も影響があるのは「成長実感」であり、次に「自身の意欲」「教員の熱意」「シラバス通りがどうか」「フィードバックが丁寧かどうか」の順であった。

最後に、全学および全学共通科目の傾向は以上の通りであるが、全体として回答率は前期よりも大幅に上昇した。しかし、その内訳をみると、質問する学生が減り、質問した学生に対する教員の対応に厳しい評価が増えている。前期はそれ以前のコロナ禍のオンライン授業と比較し、対面での授業全般を高く評価する傾向が出ていたのだとすると、後期は本来の授業形式のなかで学生の認識にも変化が生じてきたのかもしれない。この理由については、今後の動向をみながら検討する必要があるだろう。

以上

## 【全学共通科目（学生所属別）】

2023 年度後期の初めての試みとして、全学共通科目において、学生の所属学科ごとに集計をおこなった。その結果は次の通りである。

回答率が最も高かった学科は看護学科 56.60%であった。全学平均値 30.28%を超える学科は社会学科 47.29%、法律学科 42.88%、日本文学科 41.42%、日本語学科 37.24%、歴史文化学科 36.63%、書道学科 33.70%、中国語学科 33.51%、中国文学科 31.93%、社会経済学科 31.04%であった。20 学科中 10 学科が平均以上の回答率となった。

### 【全学共通科目】

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	285	403	688	41.42%
中国文学科	38	81	119	31.93%
英米文学科	110	314	424	25.94%
教育学科	127	360	487	26.08%
書道学科	31	61	92	33.70%
歴史文化学科	126	218	344	36.63%
社会経済学科	208	462	670	31.04%
現代経済学科	156	440	596	26.17%
中国語学科	124	246	370	33.51%
英語学科	217	532	749	28.97%
日本語学科	73	123	196	37.24%
法律学科	334	445	779	42.88%
政治学科	131	319	450	29.11%
国際関係学科	73	320	393	18.58%
国際文化学科	60	268	328	18.29%
経営学科	306	1,034	1,340	22.84%
スポーツ科学科	60	309	369	16.26%
健康科学科	51	154	205	24.88%
看護学科	60	46	106	56.60%
社会学科	183	204	387	47.29%
<b>全学</b>	<b>2,753</b>	<b>6,339</b>	<b>9,092</b>	<b>30.28%</b>

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	1,827	2,909	4,736	38.58%
2	715	2,439	3,154	22.67%
3	140	593	733	19.10%
4	69	395	464	14.87%

### 【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

「2 知っている」と回答した比率が最も高かったのは、国際関係学科 90.4%である。全学平均 78.2%を超えている学科は、中国文学科 89.5%、社会経済学科 86.1%、現代経済学科 84.0%、英語学科 83.8%、経営学科 82.6%、歴史文化学科 82.5%、健康科学科 82.4%、看護学科 81.7%、教育学科 78.6%となっている。

これに対して、「1 知らない」という回答の平均は 21.8%であった。1 が最も高かった学科はスポーツ科学科 46.7%であった。平均を超えていたのが、社会学科 32.8%、法律学科

27.5%、書道学科 25.8%、中国語学科 24.4%、日本文学科 24.2%、日本語学科 23.3%、国際文化学科 23.0%、英米文学科 22.9%、教育学科 21.4%であり、10 学科の学生がシラバスを見ていないという結果になった。

### 【全学共通科目】

Q 1a 「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	24.2%	75.8%
中国文学科	10.5%	89.5%
英米文学科	22.9%	77.1%
教育学科	21.4%	78.6%
書道学科	25.8%	74.2%
歴史文化学科	17.5%	82.5%
社会経済学科	13.9%	86.1%
現代経済学科	16.0%	84.0%
中国語学科	24.4%	75.6%
英語学科	16.2%	83.8%
日本語学科	23.3%	76.7%
法律学科	27.5%	72.5%
政治学科	26.0%	74.0%
国際関係学科	9.6%	90.4%
国際文化学科	23.0%	77.0%
経営学科	17.4%	82.6%
スポーツ科学科	46.7%	53.3%
健康科学科	17.6%	82.4%
看護学科	18.3%	81.7%
社会学科	32.8%	67.2%
<b>全学</b>	<b>21.8%</b>	<b>78.2%</b>

学年	1	2
1	21.4%	78.6%
2	24.8%	75.2%
3	18.6%	81.4%
4	7.2%	92.8%

【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい(おおよそ)知っています」と回答した学生のみが回答した。

「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」を回答した比率の合計が 100%となっている学科は中国文学科である。多くの学科が 90%を超える一方で、英語学科 87.37%、社会学科 85.72%、スポーツ科学科 82.93%、中国語学科 81.98%の 4 学科は 90%以下であった。

「1 まったくそう思わない」「2 どちらかと言えばそう思わない」の合計の場合、0%を示していたのは、中国文学科、教育学科、法律学科、政治学科、スポーツ科学科、健康科学科の 6 学科であった。

【全学共通科目】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.87%	0.87%	7.42%	38.86%	51.97%
中国文学科	0.00%	0.00%	0.00%	31.43%	68.57%
英米文学科	0.00%	2.15%	7.53%	34.41%	55.91%
教育学科	0.00%	0.00%	6.60%	43.40%	50.00%
書道学科	0.00%	4.35%	4.35%	39.13%	52.17%
歴史文化学科	0.00%	0.93%	6.48%	37.96%	54.63%
社会経済学科	1.53%	0.51%	7.65%	38.27%	52.04%
現代経済学科	0.72%	0.00%	7.25%	43.48%	48.55%
中国語学科	0.90%	0.00%	17.12%	30.63%	51.35%
英語学科	0.00%	1.01%	11.62%	37.37%	50.00%
日本語学科	0.00%	1.67%	5.00%	30.00%	63.33%
法律学科	0.00%	0.00%	7.28%	40.23%	52.49%
政治学科	0.00%	0.00%	8.74%	38.83%	52.43%
国際関係学科	0.00%	1.49%	4.48%	38.81%	55.22%
国際文化学科	0.00%	2.13%	6.38%	42.55%	48.94%
経営学科	0.00%	0.38%	9.43%	41.89%	48.30%
スポーツ科学科	0.00%	0.00%	17.07%	31.71%	51.22%
健康科学科	0.00%	0.00%	8.70%	45.65%	45.65%
看護学科	0.00%	3.85%	3.85%	36.54%	55.77%
社会学科	0.00%	1.36%	12.93%	46.26%	39.46%

【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

「Q2：授業難易度」の回答分布状況を見ると、「3 適切だった」と「4 やや難しかった」の合計が最も高かったのは中国文学科 97.37%である。「5 とても難しかった」までを入れると、中国文学科は100%となる。中国文学科の学生は、全学共通科目に対して総じて難しいと感じていると言える。3と4の合計が90%を超えるのは書道学科 96.77%と歴史文化学科 92.06%のみであった。

これに対して、「1 とても易しかった」と「2 やや易しかった」の合計と、「5 とても難しかった」の数値を比較すると、看護学科以外は5のほうが高い。看護学科は、1と2の合計15.00%、5は6.67%であった。同学科は全学共通科目に対して、易しいと捉えていることを示す結果となった。

### 【全学共通科目】

#### Q2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	2.81%	2.46%	56.49%	30.53%	7.72%
中国文学科	0.00%	0.00%	65.79%	31.58%	2.63%
英米文学科	0.91%	3.64%	49.09%	33.64%	12.73%
教育学科	0.00%	1.57%	55.12%	33.86%	9.45%
書道学科	0.00%	3.23%	74.19%	22.58%	0.00%
歴史文化学科	0.79%	3.17%	61.90%	30.16%	3.97%
社会経済学科	1.92%	4.33%	52.40%	31.73%	9.62%
現代経済学科	1.92%	3.85%	50.64%	35.90%	7.69%
中国語学科	0.82%	1.64%	42.62%	37.70%	17.21%
英語学科	3.23%	3.23%	41.01%	38.71%	13.82%
日本語学科	1.37%	1.37%	42.47%	45.21%	9.59%
法律学科	1.79%	4.18%	58.81%	29.85%	5.37%
政治学科	3.08%	5.38%	46.92%	33.08%	11.54%
国際関係学科	1.37%	1.37%	49.32%	35.62%	12.33%
国際文化学科	0.00%	1.64%	54.10%	32.79%	11.48%
経営学科	1.97%	2.95%	46.89%	40.00%	8.20%
スポーツ科学科	1.67%	0.00%	46.67%	36.67%	15.00%
健康科学科	3.92%	0.00%	58.82%	25.49%	11.76%
看護学科	5.00%	10.00%	45.00%	33.33%	6.67%
社会学科	1.64%	3.83%	55.74%	32.79%	6.01%

**【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。**

[質問対応]

「1 ある」という回答の全学平均値は9.7%である。この平均値を超えている学科は、書道学科 19.4%、英語学科 15.7%、健康科学科 14.0%、経営学科 12.3%、社会経済学科 12.1%、スポーツ科学科 11.7%、英米文学科 10.9%の7学科であった。

これに対して、「2 したことがない」という回答の全学平均値は90.3%である。英米文学科 89.1%、スポーツ科学科 88.3%、社会経済学科 87.9%、経営学科 87.7%、健康科学科 86.0%、英語学科 84.3%、書道学科 80.6%の7学科は平均以下であった。

この結果から、全学共通科目に対する学生の授業参加は必ずしも積極的であるとは言えない。

**【全学共通科目】**

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	9.6%	90.4%
中国文学科	7.9%	92.1%
英米文学科	10.9%	89.1%
教育学科	8.7%	91.3%
書道学科	19.4%	80.6%
歴史文化学科	7.9%	92.1%
社会経済学科	12.1%	87.9%
現代経済学科	9.7%	90.3%
中国語学科	8.1%	91.9%
英語学科	15.7%	84.3%
日本語学科	5.6%	94.4%
法律学科	5.7%	94.3%
政治学科	6.2%	93.8%
国際関係学科	8.5%	91.5%
国際文化学科	6.6%	93.4%
経営学科	12.3%	87.7%
スポーツ科学科	11.7%	88.3%
健康科学科	14.0%	86.0%
看護学科	6.8%	93.2%
社会学科	8.8%	91.2%
<b>全学</b>	<b>9.7%</b>	<b>90.3%</b>

学年	1	2
1	9.3%	90.7%
2	9.6%	90.4%
3	14.2%	85.8%
4	10.1%	89.9%



【Q4】 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」と回答した学生のみが回答した。「5 強くそう思う」と「4 どちらかと言えばそう思う」を回答した合計が60%を超えている学科は、健康科学科、72.22%、日本文学科 72.09%、書道学科 70.00%、国際文化学科 66.67%、スポーツ科学科 66.67%、教育学科 63.64%、現代経済学科 61.11%の7学科のみであった。

一方、「1 まったくそう思わない」と「2 どちらかと言えばそう思わない」の回答の合計は全学平均で 19.59%であった。中国語学科 33.33%、社会経済学科 28.77%、日本語学科 26.32%、国際関係学科 25.00%、社会学科 23.91%、英米文学科 23.81%、経営学科 21.57%、政治学科 21.43%、英語学科 20.88%が20%を超えており、教員の質問対応に厳しい目が向けられている。

【全学共通科目】

Q4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	4.65%	9.30%	13.95%	20.93%	51.16%
中国文学科	0.00%	0.00%	42.86%	0.00%	57.14%
英米文学科	11.90%	11.90%	30.95%	19.05%	26.19%
教育学科	9.09%	9.09%	18.18%	13.64%	50.00%
書道学科	0.00%	0.00%	30.00%	50.00%	20.00%
歴史文化学科	7.14%	7.14%	32.14%	21.43%	32.14%
社会経済学科	16.44%	12.33%	23.29%	19.18%	28.77%
現代経済学科	5.56%	5.56%	27.78%	25.00%	36.11%
中国語学科	11.76%	21.57%	33.33%	13.73%	19.61%
英語学科	10.99%	9.89%	20.88%	17.58%	40.66%
日本語学科	26.32%	0.00%	36.84%	21.05%	15.79%
法律学科	7.14%	3.57%	48.81%	17.86%	22.62%
政治学科	10.71%	10.71%	46.43%	10.71%	21.43%
国際関係学科	16.67%	8.33%	33.33%	16.67%	25.00%
国際文化学科	0.00%	9.52%	23.81%	9.52%	57.14%
経営学科	9.80%	11.76%	28.43%	19.61%	30.39%
スポーツ科学科	6.67%	0.00%	26.67%	13.33%	53.33%
健康科学科	11.11%	0.00%	16.67%	22.22%	50.00%
看護学科	14.29%	4.76%	33.33%	9.52%	38.10%
社会学科	10.87%	13.04%	23.91%	17.39%	34.78%

【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。[自分意欲]

「Q5：学生の意欲/熱意」の回答分析結果は、「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」の合計が、看護学科のみ 90%であった。80%を超えているのは、数値の高い順に英米文学科 88.18%、教育学科 87.40%、健康科学科 86.27%、歴史文化学科 85.60%、日本文学科 84.21%、書道学科 83.87%、社会経済学科 81.64%、経営学科 81.05%、日本語学科 80.82%であった。他の学科は 67.95%(現代経済学科)から 79.78%(社会学科)の間であった。

「1 まったくそう思わない」「2 どちらかと言えばそう思わない」の合計は、スポーツ科学科 10.00%、英語学科 8.33%、国際文化学科 6.56%が他学科よりも高い値を示した。

### 【全学共通科目】

#### Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	2.46%	1.40%	11.93%	50.53%	33.68%
中国文学科	0.00%	5.26%	21.05%	26.32%	47.37%
英米文学科	0.00%	4.55%	7.27%	47.27%	40.91%
教育学科	0.00%	1.57%	11.02%	62.20%	25.20%
書道学科	0.00%	0.00%	16.13%	41.94%	41.94%
歴史文化学科	0.00%	4.00%	10.40%	52.80%	32.80%
社会経済学科	2.90%	2.90%	12.56%	54.11%	27.54%
現代経済学科	0.00%	4.49%	27.56%	46.79%	21.15%
中国語学科	1.63%	2.44%	20.33%	45.53%	30.08%
英語学科	0.46%	7.87%	16.67%	46.30%	28.70%
日本語学科	0.00%	4.11%	15.07%	45.21%	35.62%
法律学科	0.60%	3.28%	20.00%	48.66%	27.46%
政治学科	0.77%	2.31%	17.69%	50.77%	28.46%
国際関係学科	0.00%	1.37%	19.18%	45.21%	34.25%
国際文化学科	3.28%	3.28%	18.03%	45.90%	29.51%
経営学科	0.33%	2.61%	16.01%	53.27%	27.78%
スポーツ科学科	1.67%	8.33%	13.33%	46.67%	30.00%
健康科学科	0.00%	3.92%	9.80%	45.10%	41.18%
看護学科	0.00%	5.00%	5.00%	38.33%	51.67%
社会学科	1.09%	1.64%	17.49%	53.55%	26.23%

【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

「Q6：教員の意欲/熱意」の回答結果は、「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」の合計が最も高い学科は看護学科 100%である。90%以上を示したのは日本文学科 97.54%、中国文学科 97.37%、社会経済学科 94.71%、英米文学科 94.55%、政治学科 93.89%、教育学科 93.70%、社会学科 93.44%、スポーツ科学科 93.33%、日本語学科 93.15%、法律学科 92.19%、歴史文化学科 92.06%、経営学科 91.83%、英語学科 91.20%、健康科学科 90.20%であった。その他は 84.55%(中国語学科)から 89.10%(現代経済学科)の間である。20 学科中 15 学科の学生が、全学共通科目を担当する教員の意欲や熱意を高く評価している。

【全学共通科目】

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.05%	0.35%	1.05%	25.96%	71.58%
中国文学科	0.00%	0.00%	2.63%	21.05%	76.32%
英米文学科	0.00%	0.00%	5.45%	21.82%	72.73%
教育学科	0.00%	0.00%	6.30%	32.28%	61.42%
書道学科	0.00%	6.45%	6.45%	16.13%	70.97%
歴史文化学科	0.79%	0.79%	6.35%	26.98%	65.08%
社会経済学科	0.00%	1.44%	3.85%	34.13%	60.58%
現代経済学科	0.00%	0.64%	10.26%	37.18%	51.92%
中国語学科	0.00%	0.81%	14.63%	27.64%	56.91%
英語学科	0.00%	3.24%	5.56%	31.48%	59.72%
日本語学科	1.37%	0.00%	5.48%	31.51%	61.64%
法律学科	0.00%	0.60%	7.21%	40.84%	51.35%
政治学科	0.00%	0.76%	5.34%	37.40%	56.49%
国際関係学科	0.00%	1.37%	9.59%	20.55%	68.49%
国際文化学科	0.00%	1.64%	9.84%	34.43%	54.10%
経営学科	0.65%	0.33%	7.19%	37.25%	54.58%
スポーツ科学科	1.67%	0.00%	5.00%	35.00%	58.33%
健康科学科	0.00%	1.96%	7.84%	27.45%	62.75%
看護学科	0.00%	0.00%	0.00%	36.67%	63.33%
社会学科	0.00%	2.19%	4.37%	44.81%	48.63%

【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長感覚]

「Q7：成長実感」の回答分析結果の場合、「4 どちらかと言えばそう思う」と「5 強くそう思う」の合計について、書道学科が 100%を示した。次いで、中国文学科 94.74%、日本文学科 93.33%、英米文学科 90.91%、教育学科 90.55%が 90%を超えている。他の学科も 8 割を超えており、総じて高い数値となっている。

中国文学科、英米文学科、書道学科、看護学科の 4 学科については、「1 まったくそう思わない」「2 どちらかと言えばそう思わない」の合計が 0.00%であった。

### 【全学共通科目】

#### Q 7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.05%	0.70%	4.91%	41.75%	51.58%
中国文学科	0.00%	0.00%	5.26%	34.21%	60.53%
英米文学科	0.00%	0.00%	9.09%	34.55%	56.36%
教育学科	0.00%	1.57%	7.87%	45.67%	44.88%
書道学科	0.00%	0.00%	0.00%	48.39%	51.61%
歴史文化学科	2.38%	1.59%	6.35%	34.13%	55.56%
社会経済学科	1.44%	0.96%	7.69%	45.67%	44.23%
現代経済学科	0.64%	0.64%	14.10%	43.59%	41.03%
中国語学科	1.61%	3.23%	12.10%	43.55%	39.52%
英語学科	0.92%	3.69%	10.60%	41.01%	43.78%
日本語学科	1.37%	1.37%	9.59%	36.99%	50.68%
法律学科	0.60%	1.79%	10.45%	43.58%	43.58%
政治学科	0.00%	2.29%	10.69%	44.27%	42.75%
国際関係学科	0.00%	1.37%	12.33%	39.73%	46.58%
国際文化学科	0.00%	3.33%	11.67%	33.33%	51.67%
経営学科	0.65%	1.63%	7.84%	52.61%	37.25%
スポーツ科学科	0.00%	1.67%	15.00%	45.00%	38.33%
健康科学科	0.00%	3.92%	9.80%	35.29%	50.98%
看護学科	0.00%	0.00%	15.00%	38.33%	46.67%
社会学科	2.19%	1.64%	8.20%	51.91%	36.07%
<b>全学</b>	<b>0.84%</b>	<b>1.63%</b>	<b>9.22%</b>	<b>43.43%</b>	<b>44.88%</b>

【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。〔総合満足〕

「Q8:総合満足」は、8から10の合計が最も高かったのは英米文学科83.64%であった。次いで、80%を超えているのは看護学科83.33%、日本文学科80.70%、書道学科80.65%、健康科学科80.39%である。

中国語学科(66.94%)、英語学科(67.28%)、スポーツ科学科(68.33%)、政治学科(69.47%)の4学科以外は70%台を示していた。

### 【全学共通科目】

Q8「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	1.40%	0.00%	0.00%	0.35%	3.16%	5.26%	9.12%	24.56%	21.40%	34.74%
中国文学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	5.26%	2.63%	13.16%	23.68%	18.42%	36.84%
英米文学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.91%	2.73%	3.64%	9.09%	24.55%	25.45%	33.64%
教育学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.79%	1.57%	7.09%	17.32%	24.41%	22.83%	25.98%
書道学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.23%	3.23%	12.90%	22.58%	35.48%	22.58%
歴史文化学科	0.00%	0.00%	2.38%	1.59%	3.17%	4.76%	16.67%	19.84%	17.46%	34.13%
社会経済学科	0.00%	0.00%	0.48%	0.00%	3.85%	2.40%	16.35%	26.92%	20.19%	29.81%
現代経済学科	0.00%	0.00%	0.64%	0.64%	3.21%	6.41%	16.03%	28.85%	22.44%	21.79%
中国語学科	0.00%	0.81%	0.00%	2.42%	7.26%	7.26%	15.32%	25.81%	16.94%	24.19%
英語学科	0.00%	0.92%	1.38%	4.15%	5.53%	7.37%	13.36%	22.12%	15.21%	29.95%
日本語学科	1.37%	0.00%	1.37%	1.37%	4.11%	5.48%	8.22%	23.29%	23.29%	31.51%
法律学科	0.00%	0.00%	0.30%	0.60%	4.79%	5.39%	14.67%	24.85%	23.05%	26.35%
政治学科	0.00%	0.00%	0.76%	0.76%	7.63%	6.11%	15.27%	22.14%	19.85%	27.48%
国際関係学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	4.11%	5.48%	13.70%	17.81%	24.66%	34.25%
国際文化学科	0.00%	0.00%	1.67%	1.67%	1.67%	5.00%	20.00%	16.67%	18.33%	35.00%
経営学科	0.00%	0.33%	0.33%	0.65%	2.29%	5.56%	17.32%	29.41%	21.24%	22.88%
スポーツ科学科	0.00%	0.00%	3.33%	1.67%	5.00%	10.00%	11.67%	25.00%	15.00%	28.33%
健康科学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.92%	7.84%	7.84%	19.61%	21.57%	39.22%
看護学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.33%	8.33%	5.00%	16.67%	23.33%	43.33%
社会学科	0.55%	0.00%	1.09%	0.55%	1.64%	3.28%	14.75%	26.23%	23.50%	28.42%

## まとめと結論（全学共通科目・学生所属別）

全学共通科目のみを対象とした本集計と教員の所属別で集計した結果を安易に比べることはできない。だが、学生の所属を軸にしたことで、各学科の1、2年生の傾向がわずかながらうかがえる結果となった。

1. 全学共通科目は幅広い知識を得る機会であり、学生自身の知的な世界を広げる第一歩となる。学生の関心に沿って自由に選択できる科目であるがゆえに、シラバスは重要な役割を果たす。しかし、全学共通科目に限ってみると、学科によってはそのシラバスの内容を知らない学生の割合が高いことが明らかになった。これが近年の傾向なのか、以前からの傾向なのかはわからないが、今後推移をみる必要があるだろう。
2. 授業での質問の有無についても、どの学科も質問したことがない学生が多い。全学共通科目は受講者数が多くなるため、教員との距離が生じる結果であろう。
3. 授業の難易度に関しては、「適切」あるいは「やや難しい」と捉えている学生が大半であった。その一方で、「難しい」と捉えている層が多い学科と、逆に「とても易しい」「やや易しい」と捉えている層が一定数を占める学科があり、学科間の相違が顕著であった。
4. 教員の意欲や熱意に対しては、20学科中15学科の学生が高く評価している。全学共通科目は多数の履修者を抱えている授業が多いが、教員による授業の工夫と授業改善の努力が学生に伝わっている結果であろう。

### 3. 各学部・学科によるアンケート結果についての考察

#### 文学部 日本文学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

すべてのQにおいて、全学平均を上回っており、Q8「総合して満足か」に関しては、書道学科に次ぐ全学2位となっている。学科の規模を考慮すれば、特筆すべきであろう。ただし、Q7「授業を通じて成長したか」については、全学平均4.26で学科が4.28と、もう少し改善の余地がある。授業で得た新たな知見について、丁寧に説明して学生の自覚を促すなど、工夫をしたい。

以上

## 文学部 中国文学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

他学科と比較して、全体的な数値は高くも低くもない。

Q5「自分意欲」は前期 3.95 と大きく全学平均を下回ったものの、後期は 4.08 と全学平均を上回った。

Q6「教員熱意」は前期 4.46 と全学平均並みであったが、後期も変わらず 4.46 に留まり、全学平均以下となった。これは学部内で最も低い数値となった。

教員自ら熱意を持った授業・指導を行い、少しでも自分意欲を高めてもらえるように善処する。

以上



## 文学部 英米文学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

①「【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか」の質問に「知っている」と答えた学生の割合が、英米文学科では前期 88.89%、後期 80.5%であり、大学全体の平均を上回っていた。今後も同様に、学生がシラバスの内容を理解し自らの学びと授業履修に活かしていけるように、新入生オリエンテーションなどの場も活用しつつ、シラバスについて学生に周知していく必要があると考える。

②「【Q7】この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか」の質問への英米文学科の回答平均値は前期 4.19 であり、大学全体の平均を下回っていた。後期では 4.34 と大学全体の平均を上回り、数値が向上したことは良いことではあった。しかし、学生が英米文学科の学びの軸である、実用的な英語運用能力と、専門科目である英語圏の文学・文化・言語学という、4つの分野の全般において、能力や専門的知識を継続的に向上させ、批判的考察力を高めていけるようなカリキュラムの整備も必須である。現在、カリキュラム改訂に取り組んでおり、今後も引き続き改善を目指していく。

その他、アンケートの前提である回答率自体が、英米文学科は今年度の前期で 16.01%と非常に低かった。後期の回答率は 37.15%に向上したが、授業時間内にアンケートを実施するようにとの伝達が講師控室でも行われていたことが効果的であったように思われる。今後もアンケート実施前に、アンケートの実施期間や、授業時間内で行うという実施方法について、専任・非常勤の教員と学生に周知を徹底し、回答率を高めていく必要がある。

以上

## 文学部 教育学科

- Q1a～Q8 の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

教育学科は、回答率が低く、昨年度よりも低下であること、授業に対する満足度がやや低い傾向にある。他の項目は、平均的で際立ったものがない。

- Q9a（良かった点）、Q9b（改善すべき点）の自由記述回答部分から感じられたことなどについて授業担当者の自由意志に基づく範囲において学科内で共有する機会があれば、そこから今後の授業改善に向けて得られた示唆について記述してください。【オプション】

※自由記述については情報提供いたしません。先生方ご自身の対象科目に書かれた内容を指しております。

アンケートを書いてくれる学生は、比較的出席率もよく、講義に対して好意的な学生であると考えられる。もう少し学生全体の意見が聞けるとよい。

以上

## 文学部 書道学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

### 【授業の難易度】

Q2「難易度適切」では、4) やや難しかった、の回答が、前期は全学中最も多かったが、後期では、3) 適切であった、の回答が59.14%と全学科中最も高くなっている。後期授業の難易度設定を変更してはいないので、前期の学生の反応に応じた教員の指導対応、フィードバック(Q4)が適切であったことが窺える。

### 【フィードバック】

Q4「教員対応の適当」については、5段階平均4.36と高く、5) 強くそう思う、の回答が67.52%と、前期に続いて他学科を圧倒している。Q2の難易度意識の変化がこれを証明している。全学共通科目においてはこの傾向がより顕著となっている。

### 【学生の意欲/熱意】

Q5「自分意欲」については、5段階平均4.41(全学平均4.07)と高く、特に5) 強くそう思う、の回答が49.88%と、全学科中最も高い。書道学科の学生は専願入学者が多く、就学目的がより明確であるため、他学科に比べて意欲的な傾向が強いといえる。

### 【教員の意欲/熱意】

Q6「教員熱意」は4.69と、前期に続いて全学科中最も高く、学生の強い意欲(Q5)に対し、教員の対応、フィードバックが丁寧であり、適切であったことが見てとれる。

### 【成長実感】

Q7「成長実感」は前期後期ともに書道学科が最も高い(前期4.83/後期4.59)。特筆すべき点は、5) 強くそう思う、の回答が、前期後期ともに全学科のなかで突出している(前期68.7%/後期64.37%)。知識の獲得と技術の習得が強く実感できているようであり、なによりの結果である。

### 【総合満足】

Q8「総合満足」は5段階平均8.98と前期(8.92)に続いて最も高く、100%満足の回答が前期45.04%、後期は44.78%を占め、他学科を圧倒している。学生の意欲と教員の熱意が密接に相互作用した結果であろう。また、学生個々の志向に応じた細やかなフィードバックも適切であったと思われる。

以上

## 文学部 歴史文化学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

全体的な傾向としては、前期よりも後期の方が若干高く、また非常勤と専任では専任の授業の方が高かった。後期のまとめの方が具体的問題が見えるものであったので以下それについて述べる。

歴文の値が全学に比べて目立って高かったものとしては、Q1a シラバス既知 (82.5%)、難易度の適切さ (3 適当、4 やや難しいで 90%を越える、3 適切が 56.68%)、Q5 学生の意欲 (4 ややある、5 大いにあるで 85.6%)、Q 6 教員の意欲 (4、5 で 92.06%)、Q 7 知識が増えたか (4 より 5 が多い)、Q 8 満足度 (平均) 一方、Q4 質問の割合は低かった (特に非常勤)。

以上の、学科のよさは継続し、問題点は解決できよう今後の教育に生かしていきたい。

以上

## 経済学部 社会経済学科・現代経済学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

アンケート結果について、10点満点で評価した「Q8 総合満足」について、社会経済学科の平均は前期 7.98・後期 8.11、現代経済学科の平均は前期 8.06・後期 8.26 であり、全学平均の前期 8.09・後期 8.26 と比べるとやや低い。原因を考察するうえで、「Q2 難易度適切」「Q3 質問対応」「Q5 自分意欲」の回答に着目してみる。

授業の難易度を尋ねた「Q2 難易度適切」の結果を見ると、社会経済学科が前期 3.66・後期 3.51 であり、現代経済学科が前期 3.63・後期 3.62 である（全学平均は前期 3.58・後期 3.54）。これより、授業をやや難しいと感じている学生が多いことが伺える。

しかし、「Q3 質問対応」において、質問をしたことがあると答えた学生は、社会経済学科で前期 13.8%・後期 13.8%、現代経済学科で前期 13.2%・後期 13.6%と極めて少ない（全学平均は前期 19.3%・後期 15.7%）。これより、ほとんど質問をしていない実態が浮かび上がり、不明点等を解決することなく放置している学生が多いと思われる。

授業に対して意欲・熱意を持って取り組んだかどうかを尋ねた「Q5 自分意欲」の回答からは、経済学部生の意欲は、社会経済学科は前期 3.97・後期 3.99、現代経済学科は前期 3.97・後期 4.05 となっており、全学平均（前期 4.06・後期 4.07）よりも低い。

調査設計上の問題により、意欲が低いから満足度が下がったのか、あるいはその逆なのかの因果関係までは、本調査結果からは明らかにできない。しかし、経済学部内で前後期を比較すると、後期は前期に比べて、①難易度はやや低下、②意欲と満足度はやや上昇、③質問率は横ばい、となっており、質問などの積極的なアクションを起こさずとも、少し理解できる部分が増えたことにより、意欲・満足度も増えたと考えることもできる。つまり、特に前期において、もともと意欲が低い学生が、少し難しく理解が追いつかないことがあっても質問をして解消しようとせず放置した結果、わからない部分が多いこととなり、満足度が低くなっている可能性が考えられる。

ただし、全学的に見ても代表性が疑問視される状態であること、学科の数値と全学平均の差が統計的に意味のある大きさなのかも不明であることなどから分析上、結果の解釈には留意が必要である。昨年度と比べ、学生満足度の大きな違いは見られない。経済学部のアンケート結果について、設問によって平均を上回ることもあれば下回ることもあるが、平均値と極端に違うような項目は無い。平均値だけでなく、回答の分布を見ても、経済学部の結果が大学全体の傾向と大きく違うことはないように思える。

以上

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

**【Q1a】** あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。

「はい（おおよそ）知っています」の割合は下記のとおりである。

前期：74.03%（全学平均：80.98%）

後期：73.9%（全学平均：77.9%）

それほど低い数値ではないものの、前期後期いずれも全学平均を下回っている。シラバスの重要性を学生により広く周知する必要があると思われる。

**【Q3】** あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

「はい、あります」の割合は下記のとおりである。

前期：27.11%（全学平均：19.26%）

後期：27.5%（全学平均：15.7%）

前期後期いずれも全学平均を上回っている。前期は部局を除く第3位、後期は部局を除く第2位であり、授業内容をきちんと理解しようとする積極的な姿勢がうかがえる。

一方で、**【Q4】** 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。における数値は下記のように全学平均をやや下回っている。

前期：4.09（全学平均：4.15）

後期：3.70（全学平均：3.73）

今後は、Q3とQ4の結果に見られる差を埋められるよう努力する必要がある。

**【Q7】** この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。

前期：4.32（全学平均：4.26）

後期：4.35（全学平均：4.29）

前期後期いずれも全学平均を上回っており、好ましい結果であるといえる。

**【Q8】** すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。

前期：7.99（全学平均：8.09）

後期：8.22（全学平均：8.26）

Q7とは異なり、Q8の数値は前期後期ともに全学平均をやや下回っている。学生が授業

について満足していない点を探り、この数値を上げていけるよう努力する必要がある。

## 外国語学部 日本語学科

- Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

学生自身の達成度・達成感にかかる設問（Q5、Q7、Q8）について検討する。

Q5の自分意欲については、全学平均 4.07 であるところ、本学科の平均は 4.20 であった。全学科の中では、書道学科（4.41）、スポーツ科学科（4.30）に次いで高い結果となった。

Q7の成長感覚については、全学平均 4.29 であるところ、本学科の平均は 4.42 であった。全学科の中では、書道学科（4.59）に次いで高い結果となった（ただし、国際関係学科、スポーツ科学科も 4.42）。

Q8の総合満足については、全学平均 8.26 あるところ、本学科の平均は 8.56 あった。書道学科（8.98）、スポーツ科学科（8.66）に次いで高い結果であった。

本学科の学生指導においては、かねてより「偏差値よりマッチング」を重視しているところであるが、これらの結果に、そのような方針が反映されたものであるとするなら、望ましい結果であると言える。

- Q9a（良かった点）、Q9b（改善すべき点）の自由記述回答部分から感じられたことなどについて授業担当者の自由意志に基づく範囲において学科内で共有する機会があれば、そこから今後の授業改善に向けて得られた示唆について記述してください。【オプション】

※自由記述については情報提供いたしません。先生方ご自身の対象科目に書かれた内容を指しております。

学科としては、個別の科目の授業認識アンケートの自由記述解答部分についてのコメントは差し控える。

以上



## 法学部 法律学科

■ Q1a～Q8 の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

### (1) シラバス・授業内容について

シラバスの既知度(Q1a)に関しては、「知っている」が前期 76.40%(80.98%、以下カッコ内の数値は全学平均)、後期 69.6%(77.9%)と後期の方が下がっている。授業がシラバス通りの進行であったか(Q1b)については、前期 4.29(4.33)、後期 4.32(4.37)とほぼ同水準である。Q1b に関する値は、前期・後期ともに適切であり、水準も全学平均とさほど変わらない。他方で Q1a に関しては、全学平均よりも低い値となっている。例えば毎回の授業において、全体計画のどのあたりの講義しているのかを示すなどの努力により改善することが求められている。特に後期において、学科として意識的に取り組む必要があるものと思われる。授業の難易度(Q2)については、前期 3.67(3.58)、後期 3.67(3.54)ともに同水準で、全学平均より若干高いが、大幅な差はないことから数値は適切であると判断している。

### (2) 質問とそれに対するフィードバックについて

教員への質問の有無(Q3)については、「したことがある」が前期 14.04%(19.26%)、後期 11.9%(15.7%)と全学平均より大幅に低い。法律学科では履修者が 100 人を超えるような講義科目が多いが、こうした大講義科目では教員と学生間に距離があり、質問等に行きにくい環境があるのではないかと推測される(結果から推察するに、これは社会科学系の学部学科に共通の傾向と思われる)。今後も対応を検討していく必要がある。フィードバック(Q4)に関しては、Q4 前期 4.04(4.15)、後期 3.66(3.73)となっている。全学平均より若干低い値になっているが、ほぼ同水準である。

### (3) 学生/教員の授業に対する意欲・熱意及び学生の満足度

学生の授業に対する意欲(Q5)については、前期 3.97(4.06)、後期 3.97(4.07)、教員の授業に対する熱意(Q6)については、前期 4.36(4.46)、後期 4.42(4.49)と、全学平均とほぼ同水準であるが、やや低いと思われる。教員の熱意はある程度学生には伝わっているようであるが、それに対応する学生側の意欲や熱意の数値が低いと思われることから、学生側の意欲を向上させる取り組みを検討していく必要がある。また、成長実感に関する設問(Q7)に対して、前期 4.18(4.26)、後期 4.22(4.29)と全学平均並みではあるものの、法律学科の様々な取り組みから考えると、やや低い印象がある。自身の成長を感じられるような取り組みを講義科目においても取り入れることによって、この数字を向上させていくことが、

学生の意欲(Q5)向上にもつながるのではないかと考えられる。学生の満足度(Q8)については、前期 7.80(8.09)、後期 7.94(8.26)と、全学平均よりもやや低いと思われる。また、満足度について 50%以下の回答をした者が 10.38%(6.71%)と全学平均よりもやや高くなっている点にも注意が必要と思われる。結果報告でも成長実感(Q7)が満足度(Q8)に最も影響があることが指摘されていることから、まずは成長実感の向上により、学生の満足度を高める方向へと繋げていきたい。

■Q9a（良かった点）、Q9b（改善すべき点）の自由記述回答部分から感じられたことなどについて授業担当者の自由意志に基づく範囲において学科内で共有する機会があれば、そこから今後の授業改善に向けて得られた示唆について記述してください。【オプション】

■アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

部局別回答率について、前期 22.22%(22.69%)、後期 25.18%(31.62%)と、全学平均と比較して（特に後期は）低いと思われる。ただし、全学共通科目における法律学科生の回答率は後期のみの数値であるが、42.88%(30.28%)と高くなっている。学科としては回答率が低いことから、学生に対して授業中の回答を促すよう取り組んでいきたいと考えている。また、教員のコメント入力状況について、後期 42.2%と他学科に比べて芳しくないため、コメント入力率を上げることが課題であると考えている。

## 法学部 政治学科

■ Q1a～Q8 の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

本学科学生の回答率は前期 29.04%、後期 33.69%と推移した (4.65%増)。もっとも、全体の 3分の1 前後にとどまっていることは今後の課題ともいえる。

Q1a (シラバス既知) は後期の肯定的回答が 71.3%で、前期比 4.05 %減。後期に減少するのは、必修科目や前期に続く後期の同名科目のシラバスを、読まない学生が一定数いることを推測させる。Q1b シラバス通りの授業だったかの問いには、後期は前期に比べ、「強くそう思う」が 9.4%増となっている。Q2 授業の難易度は、後期の全学平均 3.54 に対し本学科は 3.59 で、標準的。前期 3.62 (全学 3.58) に比べやや下降しており、学生の理解度の向上と、教員の授業上の工夫との、双方の要因があろう。Q3 質問対応に関しては、「質問したことがある」が前期 12.33%から後期 0.6%へと大幅に下がっており、数値的にも他学科との差が見受けられる。Q5 学生自身の意欲、及び Q6 教員の熱意については前後期にほとんど差はなかった。Q6 の後期全学平均 4.49 に対し本学科は 4.41 (前期と同じ) だが、ともに平均値からかけ離れてはいないのは昨年同様である。Q7 自分自身の成長実感についての質問では、前期の平均 4.20 に対し、後期は 4.18 とほぼ同じである。Q8 総合満足度は 10 段階評価で 8.12 (昨年同期比で 0.15、前期比で 0.1 上昇) であり、評価 8 以上と答えた学生は 72.80%と、昨年同期比で 3.73%、前期比で 3.89%増加している。このような上昇傾向は、この 2 年間顕著になっている。

Q8 の内容から判断するに、政治学科の各教員が、後期において、相対的に多数の学生に前期より高い満足感を与えるような授業を展開したことを示す。大教室講義が一定数あり、教員一人当たりの学生数も多いことをも考え合わせるなら、前年に引き続き、本学科は健闘していると言える。

■ Q9a (良かった点)、Q9b (改善すべき点) の自由記述回答部分から感じられたことなどについて授業担当者の自由意志に基づく範囲において学科内で共有する機会があれば、そこから今後の授業改善に向けて得られた示唆について記述してください。【オプション】

コメント用紙に対するフィードバックについて、他の受講生の意見がわかるのはとても有意義であったという趣旨の回答が多く見られた。また、配付したレジュメや資料、及び好投での補足説明がわかりやすかったという回答も少なくなく、パワーポイントや映像をほとんど使わないやり方での講義も一定の支持があることを実感した。もちろん、どのようなツールを使うにせよ、「わかりやすさ」と「丁寧さ」を意識した形で講義を行うことが重要であることは言うまでもない。

## 国際関係学部 国際関係学科・国際文化学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

2023年度後期における国際関係学科（以下、関係）、国際文化学科（以下、文化）の授業認識アンケート結果について、考察する。Q1a（シラバス既知）では、関係が86.7%で学科間1位（以下同）、文化が83.4%で3位であったのに、Q1b（シラバス通り）の平均値では、関係が4.46で4位、文化が4.39で7位となっていた。シラバスを事前に読むという行為は定着しているものの、その内容と授業との間でずれが生じている可能性があるため、教授会などで注意喚起したい。

Q2（難易度適切）の平均値は、関係が3.56、文化が3.60で、「3：適切である」という選択を若干上回った（全学平均の3.54）。大学の授業が難解であるのは当然であるので、この数値が本来の適切さであろうと思う。Q3（質問対応）では、「質問したことがある」が関係17.6%（8位）、文化26.8%（4位）であった（全学15.7%）。その質問に対するフィードバック（Q4）の平均値は、関係が3.62、文化が3.80で、全学平均（3.73）の前後に位置していた。

後半のQ5（自分意欲）、Q6（教員熱意）、Q7（成長感覚）、Q8（総合満足）は、いずれも両学科ともに高い数値を示しており、満足している。自分意欲は、関係が4.12で5位、文化が4.11で6位（全学平均4.07）。教員熱意は、関係が4.65で書道学科に次ぐ2位、文化が4.52で7位（全学平均4.49）。成長感覚は、関係が4.42で書道学科に次ぐ2位、文化が4.31で8位（全学平均4.29）。総合満足は、関係が8.54で4位、文化が8.28で8位（全学平均8.26）であった。今後も、教務委員会や教授会で議論を重ね、各数値をより高めるよう、授業の改善や向上に努めたい。

以上

## 経営学部 経営学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

Q1a「シラバス既知」は、前後期とも80%以上で全学平均をやや上回り、Q1b「シラバス通り」は前後期とも4.35ptと全学平均と同水準であった。学生がシラバスに基づき履修を選択し計画的な授業運営が行われている。

Q2「難易度適切」は、前後期とも3点台後半であり全学平均ともほぼ同等である。新たな学びに対する「梯子掛け」としておおむね適切な難易度設定であった。

Q3「質問対応」は、前期12.0%、後期9.6%であり、全学平均（前期19.3%、後期15.7%）と比べてやや低い。学生が自らの問題意識を教員と交わすことで学びを深めることにつながる、インタラクションの工夫をする余地があるだろう。

Q4「フィードバック」は、前期（3.96pt）後期（3.41pt）とも全学平均をやや下回る。学生とのインタラクションの仕方に工夫の余地があるだろう。

Q5「自分意欲」は、前後期とも3.96ptであり、全学平均をやや下回る。他学科と比べてトップボックスの比率（前後期ともおよそ25%）がやや低く見受けられる。

Q6「教員熱意」は、前後期とも4.3点台であり全学平均よりもやや低かった。しかし、前後期とも最頻値は5点（前後期ともおよそ50%）である。

Q7「成長感覚」は、前期（4.21pt）後期（4.20pt）とも全学平均とほぼ同水準とみられる。

Q8「総合満足」は、前期は全学平均より低く7点台（7.79pt）だったが、後期は8点台（8.01pt）に向上した。

全学FD委員会による今回調査データによる相関分析の結果からも、「総合満足」には学生のQ7「成長実感」、Q6「教員熱意」、Q5「自分意欲」が正の相関を持つことが示唆されている。

本学科にて「成長実感」をさらに高めるには、学生と教員のインタラクションを工夫することが必要であると考えられる。2023年度は、前後期の調査により、Q3「質問対応」が後期に下がることが明らかになった。また、Q4「フィードバック」に関する学生の授業認識のポイントも同様だ。学生とのインタラクションの機会をどのように持ちながら年間を通じて授業を運営するか、各授業で検討余地がある。

経営学科の学生のQ5「自分熱意」は特設問題のある水準とは思われないが、トップボックスの回答比率が他学科と比べて低いことはやや気になる。経営学の広範な学修領域のなかで、学生各自の学修目的意識をなるべく早い時期から明確化・具体化することが課題

になるように思われる。

なお、学生の回答率は前期 15.47%、後期 23.10%であり、回答率は後期に高まった。しかし、高い水準とはいえないだろう。授業認識アンケートへの回答も含め、学生の積極的な授業参加を促す工夫を各授業で検討したい。

以上

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値を取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

スポーツ科学科のみならず、概して全学的に学生の回答率が低く（特に1年生）、このアンケートに回答している学生たちは元々学業や課外体育などの様々な活動に対する当事者意識が高いのではないかと考えられる。今後も回答率をもっと高めるように努めていきたい。

#### 【高数値】

Q2「難易度適切」については、3に近い結果（授業難易度が適切）が最多で、全学平均よりもはるかに高くなっており、これは適切な内容の授業が行われている証拠と思われる。今後も学科全体として学生の理解度の高い授業展開を目指していきたい。また、この設問では授業の難易度について「とても易しい」「易しい」と回答している学生が僅少とは言え（合計1割程度）、全学平均と比較して2倍から3倍いるのも特徴で、これは長年スポーツにある程度通曉した学生が本学科に入学する傾向があるためでもあろう。なお、「とても易しい」「易しい」と回答する学生が全学平均より多いことに関しては、一般入試で入学した学生と、特別入試および推薦入試で入学した学生との基礎学力の差がある可能性が影響しているかもしれない。つまり一般入試で入学した学生を中心とした、比較的基礎学力の上位層にいる学生にとっては少し物足りないレベルに感じてしまう授業もあるのであろう。いずれにせよ、そうした学生に対してもより高度な技術・知識を伝達できているのかといった検討が必要である。

またQ5の「自分意欲」については、本学科は5が特に多く（前期は学科中1位）、かつ4と5の合計数値が書道学科に次いで高いのも特徴である。これはQ2との関連で言えば、授業を易しく感じる学生には、数々のフォローによって、習熟レベルの個人差を超え、各学生たちが授業により高い意欲を保っている結果と考えられる。

Q6の「教員熱意」についても、全学平均よりも高く（学科としては5～6番目）学生から評価されているように、学科全体として熱意をもって教育活動を行っている。特に1年生は、フレッシュマンセミナーをはじめとする、スポーツ科学科独自の授業が配置されており、その授業内容から教員の熱意を感じ取ったのではないか。また2年生のキャリアセミナーでもそれぞれの教員が時事問題・SPI・一般常識を担当するだけでなく、外部講師を招聘したりするなど、直接就職に使える技術を熱心に伝授していることも影響したものと思われる。そして上記の内容に加えて、教員が一人一人の学生のことをよく把握することに努め、コミュニケーションをよくとっていることも、教員の熱意を感じて取って貰える要因になっていると考えられる。フレッシュマンセミナーやキャリアセミナーに加え、特にスポーツ

実技、演習、教職等、学生との距離が近い授業ではその熱意が伝わりやすいのであろう。

Q7「成長感覚」については、前期後期ともに5割を超えた学生が5を付け（前期59.56%、後期54.22%）、全学平均（前期43.78%、後期45.21%）よりもかなり高い数値である。しかし留意すべき点は、後期になって5が減り、4が増えていることで（前期31.6%、後期35.56%）、かつ4と5を合わせた数値で見ると、前期91.16%、後期89.78%となり、前期は全学平均を4%上回っていたのに対し、後期は1.5%程度に留まった点である。僅かとはいえ、満足度が前期より下がっていることについては、何が原因か考えていく必要があると考えている。さらに問題は1割程度ではあるが、3（どちらとも言えない）や2（どちらかと言えばそうとは思わない）をつけた学生がいたことも留意する必要があり、これは1割位の学生たちは成長実感を持っていないことを意味する。つまり学生間での両極化が見受けられ、この克服は今後の課題となろう。

Q8「総合満足」については、全部署のうち2～3位と高く、喜ばしいことである。いずれにせよ、全ての項目において学生たちの満足度を高めることは重要であるが、特に「成長感覚」「教員熱意」「難易度適切」を高めていくことが、学生の「総合満足」の上昇に大きく貢献するものと思われる。

#### 【低数値】

本学科の学生アンケートは、学内において比較的ネガティブな要素が少ない傾向にあると考えられるが、いくつか気になる点も見られた。たとえばQ1aの「シラバス既知」に関しては、後期になっても全学平均よりも「あまりよく知りません」が5%以上も多く、ガイダンス等での周知をより徹底させることが課題と考えられる。

後、比較的低数値と看取できるのは、Q4のFBに関する設問で、点数を見ると（前期4.09、後期3.73）、前期は全学平均以下（4.15）、後期は平均程度（3.73）である。しかしオンデマンドが多かった以前と比較して、対面授業形式に戻った現況においては、FBに対する満足度は上がっているものと思われ、5をつけた学生は前期50.32%、後期44.05%というように、全学平均（前期47.22%、後期39.4%）よりは多くなっている。しかし後期になって5が減っていることは全学的な動向とは言え、反省すべき点である。恐らく後期は入試等の業務で多忙を極めていることがフィードバックを難しくしているのではないかと思われる。

しかも1をつけた学生が前期では4.19%であったのに対し（全学平均2.05%）、後期は12.5%となっており（全学平均9.76%）、全学平均以上に増え方が顕著であり、この点も大いに反省し、原因を追究していく必要がある。今後は如何にして習熟度の低い学生たちへのFBを充実させていくかが大きな課題であろう。特に実技のフィードバックは個別に行う必要があると考えられるが、それは時間的に困難であるため、今後の課題としたい。また、manabaで課題提出を求めた際の個別返信にも同様の問題があるので、実技・講義ともにフィードバックの効率的・効果的方法の検討も喫緊の課題として受けとめている次第である。



### 【その他】

スポーツ科学科の教員による授業評価アンケートの回答率（後期）が常勤の教員で26.2%、非常勤でも41.5%であることを重く受けとめ、次年度以降の回答率向上を目指したい。学生に対し課題等の提出物についてべ切り厳守等を求める立場である教員の多くが回答していない状況はお粗末であると言わざるを得ない。学生に対してフィードバックの割合が低いのもこのあたりの取り組み方から改善していく必要があるのかもしれない。

以上

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

本学全体のアンケートに対する回答率として、前期より8.93%の上昇があったが、本学科においては19.4%の上昇であった。前期26.42%から後期45.8%の上昇であり、回答数は、662であった。学生への周知方法など回答数を上げる工夫は必要である。特に、全学部共通科目では、回答率が17.8%であった。この値は低い、全体として受講者数が118名という全学部のなかでも最も少ない受講者数であり、回答数が21であるため、百分率で表したことも影響している。次いで各項目の分析であるが、Q1のシラバスの既知度を示す数字としては、78.6%であり、全学の77.9%とあまり変わらない結果であった。特に本学科に特徴的な傾向ではなく、全学的な取組みが課題といえる。また、教員のコメント入力状況が学生のアンケートに対する入力への動機付けともなると考えられるため、その意味としては、コメント入力割合が、スポーツ・健康科学部全体として53.8%、健康科学科としては54.5%であり十分とはいえない。学生の学びの姿勢の動機づけや満足度にも繋がる内容であり、今後も数値の上昇へ向けた努力の必要性を感じている。次年度への重要課題として教員間の情報共有をしたい。

さらに前期、後期での違い、前年度との比較を見ると、「知っている」と回答した学生の割合は、昨年度後期について、82.01%（79.34%）であったが、今年度平均値（78.6%）の結果となり、同学部内の看護学科が後期で91.95%、既知割合が全学科中一番高い結果となっており、今後その水準に達するように、シラバス活用法について教員側の工夫が、引き続き健康科学科における教学上の課題である。

一方で、Q1bの回答にあるシラバスに沿った講義であったかの回答では、5段階の評価で4.34の回答であった。全学部でみると、4.31から4.55、平均4.37であり各学部学科ともほぼ同じ数字である。これに関して、講義では教科書を指定し、学生の理解度を確認しながら予習、復習を前提に進めること、学習目標を定めてそれに向けた計画を進めるためほぼ同じとなることは理解できる。今後も学生の学習計画として、予習復習が行いやすいようなシラバスの表記や講義計画を心がけるように周知したい。

ところで、健康科学科は、本学においては数少ない自然科学系を主とした学科であることは周知のとおりである。3コース制（臨床検査、健康マネジメント、理科）を展開することになり、各コースを選択する学生が新しく各コースで実験・実習を進めることになったが、学科の特性として、どのコースとも学習量が多く、実習の内容が実践的であることが特徴である。また本学科の場合は、入学時点での自然科学系の知識・理解量に関して、学生ごとに差が大きく、場合によっては高校時代に文系コースに在籍していた学生も少な

からず存在し、本学科では、入学から前期の終了時まで、化学、生物の補習授業・リメディアル教育は欠かせないものとなっている。加えて留学生の受け入れを開始した令和5年度においては、日本語を母語としない学生の留学生の受け入れへの対応も必要となった年度であった。

以上のような学科の実情に鑑みてアンケート結果を考察すると、Q2「授業の難易度の適切性」については、「4・難しかった」「5・とても難しかった」の合計が、56.56%であり、学生にとって、「授業は難しい」ものであることが示唆された。他の学科と比較をしても「授業がとても難しい」と感じている学生の割合が19.46%点と全学科のなかでも、看護学科（16.46%）とともに極めて高く、リメディアル教育の不十分な点が数字に表れているのかもしれない。特に臨床検査コースでは、膨大な医学用語を記憶する必要もあり、学生の日々の努力も必要となる。「難解な理科系、医療系授業を分かり易く講義するための工夫をどうするか等をテーマとしたFD」の実施など、実践に活用できる工夫の共有の必要性を感じる結果でもあった。

学生自身は、講義内容が難しいと分析、判断しているものの、難易度が適切かというQ2の質問では、平均3.33という丁度真ん中の値をとっていることから、講義の内容は難しいものの、自らの目標とする国家試験や資格取得という目標に対峙した場合、講義の内容が概ね妥当であり、適切と理解しているものと言える。

また、気になるアンケート項目の結果として、Q3の「質問対応」であり、質問をしたことがないという学生が90.6%いることである。同様な科目特性をもつ看護学科も95.8%の高い割合という結果になっている。この数字が示していることは、医療分野では、内容を理解し記憶するという特性が高いため、「なぜ？」という疑問が講義後などでは生じにくいかもしれない。しかし、一步踏み込んで考えると、「なぜそうなるのか？」という疑問が生じてしかるべきであり、その一步の踏み込みができていないのかもしれない。その一步を踏み込みにより、さらに理解が進み、将来の研究や深い学びに繋がると考えられるため、そのような深い学びへ導く指導法が今後に残す課題といえる。

それに呼応する質問でもある、Q4「質問に対する教員の対応」であるが、評価は、3.41という低い値であり、教員の対応は、学生にとって満足度があまり得られていないという結果であった。質問に対する満足度が低いため、質問をする頻度が低くなるという悪循環に陥っていることを示唆する内容でもあり、学生の満足度が上がるような質問を受ける体制作りも今後に残る課題といえる。

次いでQ5「意欲をもって取り組めたか。」の質問については、自分意欲の有無という質問として考えているが、4「どちらかと言えばそう思う」49.47%、5「強くそう思う」31.01%と、4と5の合計80.48%で8割を超えており、学生は意欲をもって授業に取り組んだことが伺える。この数字はどの学部、学科においてもほぼ差がなく学生の学習意欲は概ね高いことがわかる。質問の仕方としては、余り客観性がなく、主観的に聞くとどうしても自己評価としては「取り組んだ」という回答になる傾向もあると考えられ、出

席日数とかレポートの提出の割合、課題提出までの日数など客観性を持つ質問形式の方が良かったのかもしれない。

Q6「教員は熱意を持って取り組めたか」の質問に関しては、Q6に対する値として、全学の平均値が4.49であるのに対して、健康科学科の値は4.48であり、ほぼ同じ値であった。「1」の評価が0%であったことや、「4」、「5」の評価で91.53%という値であり良い評価といえる。

Q7「この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは技能が向上した」などの成長に関する質問では、「4」および「5」の評価で86.84%を占めており、また「4」より「5」の評価のほうが高く、本学科のみならず全学的な傾向であるものの良い傾向といえる。結果が満足出来る結果であったかという判断は難しいが、今後もこの傾向を維持しつつ、学びをとおして「より向上したという実感を持つことができる指導」を工夫する必要があると思われる。

Q8 総合的に判断した満足度に関する分析として、「10」が30%を越える学科があるなか、本学部では、健康科学科のみが「10」の評価が30%を越えることが出来ていない結果となり、27.34%であった。「1」の評価は無かったため、今後の対策により「10」の評価が増加していくことが期待出来るが、学科全体での工夫や教員間でのFD等を通じた情報共有などが必要と考えられる。

■アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

新型コロナ禍で高校生活を送った学生が大学生活を過ごすなかで、高校での学びと大学での学びの違いに戸惑いを感じていることは講義などを通して感じているが、その戸惑いを可能な限り解消して、大学の学びを自分のものとし、社会で活躍できるように育てることは大学の大きな使命である。アンケートを取ることで、学生自身もまた、大学で学生に接する教職員も認識を新たにすることができたと思われる。本学科についても様々な問題点・課題が浮き彫りになった。本調査の詳細な分析に感謝したい。

以上

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

(回答率について全体所感)

・大きく改善できた点として、期 237 件 (回答率 22.72%) に対し後期 813 件 (70.21%) であり、後期に前期の約 3.5 倍、50%を超える回答を得ることができたことが挙げられる。前期は学科の一部の学生の授業認識を反映したものであり、後期は学生の一定の認識傾向を示し、大変参考になるデータであると推察できる。このように回答の改善が図られた要因として、前期の状況を踏まえ、学生、ならびに特に教員へのアンケート実施に関する周知の徹底を図ったことが考えられる。更なる学生全体の認識を反映したアンケート結果を得るためには、教員への周知、アンケートの実施時期や回答時間に十分な注意が必要である。次年度も、一定の成果を上げることができた 2023 年度後期と同様、アンケートに関する学生周知、教員の取組みが必要不可欠であり、更なる回答率の向上を目指したい。

(Q1a～Q8の中で特に気になった項目についての分析・今後の課題)

・シラバスの理解『Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか?』については、「いいえ」前期 8.05% (全学 19.2%) に対し後期 18.5% (全学 22.1%)、「はい」前期 91.95% (全学 80.9) に対し後期 81.5% (全学 77.9%) であった。全学の傾向は前期・後期において殆ど差はないが、後期、看護学科学生のシラバスの理解が低下した原因として、前期はアンケート回答率が 50%未満であったことから、前期の方が全体の傾向を反映しておらず、むしろ後期の方が学生の傾向を正しく示しているものと考えられる。約 2 割の学生がシラバス内容を理解していない傾向が示されたことから、今後学生に対し、シラバスの重要性およびシラバスの周知方法を再検討する必要がある。

・『Q2 自分にとってのこの授業の難易度は適切だったと思いますか【授業の難易度】』については、看護学科は、5 段階評価「5 とても難しかった」に近い、前期平均 3.86 ポイント (全学 3.58) に対し後期平均 3.70 (全学 3.54) であった。全学の傾向は前期・後期ともに 3.5 ポイント程度であり、看護学科学生は全学を上回り授業を難しいと捉えている傾向が示されている。このような傾向はスポーツ・健康科学部における特徴とも考えられる。全学の中で、後期の第 1 位は健康科学科 3.74 (全学 3.54) であり、学生が難易度を高いと捉えているのは、健康科学科と同様に看護学科が国家資格取得を目指す学科であることから、医療・看護に関する専門的な学修を行うため、このような結果に結びついたものと考えられる。このため、教える側の更なる教育上の工夫も必要であるが、学生に対し難しい学修であるがゆえに事前・事後学習が必要となること、より主体的な学修への取り組みを指導する必要があると考えられる。

・『Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連した質問をしたことがありますか【質問対応】』については、看護学科は、「はい」前期 10.26%（全学 19.26）に対し、後期 4.2%（全学 15.7%）であり、看護学科において、主体的な質問が後期に低下したのは、前述のように前期の回答率が 50%未満であったことから、後期の方が学生の傾向を正しく示しているものと考えられる。前期において質問傾向が高い要因として、本アンケートに主体的に回答する学生であるため、積極的に質問を行っていると考えられる。また、全学と比較し、主体的に質問する傾向は低い。この要因として、Q2【授業の難易度】で看護学科の学生は授業を難しいと捉えていることから、何をどのように質問したら良いのか学生の中で考えをまとめることに時間を要していることも考えられる。しかし、難易度が高い学修ゆえに主体的に質問を行う姿勢を養うことも今後更に必要となると考えられる。

・以下の 3 項目、『Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。』、『Q6 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか。』、『Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。』については、前後期の変化はほとんど示されず、全学の平均とほぼ一致していた。更なる学生の認識向上に向けて、取り組みたい。

・『Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10「100%満足」、1を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んで下さい【総合満足】』については、看護学科の平均は、前期 7.75 ポイント（全学 8.09）、後期 8.23 ポイント（全学 8.26）であった。看護学科は、全学よりも前期・後期ともに低い傾向であった。しかし、後期は看護学科の前期と比較し改善傾向が示されている。Q2【授業の難易度】で看護学科は全学と比較し、授業を難しいと捉えているが、難易度が高い授業であっても総合満足において、後期は全学とほぼ同じ傾向に改善されていることは一定の評価に値すると考えられる。

以上

## 社会学部 社会学科

■ Q1a～Q8 の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

### 【総括】

大学全体の回収率が後期 31.62%の中で、社会学科は 40.70%と昨年に引き続き比較的高い回答率が維持できた。また、教員のコメント入力についても社会学科は 57.1%と比較的高い状態となっている。全般的に一定の評価が得られていると考えられるが、他学科との比較においては Q1b の「シラバス通り」の平均値が若干低い状況にあることは留意すべきである。また Q7 の「成長感覚」および Q8 の「総合満足」の平均値の低さについては、昨年度からの改善は見られなかった。今後も状況の把握と対応の検討を進めていくこととしたい。

### 【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

全学では「知っている」と回答したのは 77.9%（前年度 74.96%）に対して、社会学科では 75.9%（前年度 68.83%）であった。前年度と比べて 7 ポイント以上上った。全学でも上昇傾向にあり、来年度も学生がシラバス内容を十分に把握して科目選択をするようさらに周知させていきたい。

### 【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。

この設問には Q1a で「知っている」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は 4.37（昨年度は 4.33）である。社会学科での平均値は 4.31（昨年度は 4.29）であった。回答別にみると、「強く思う」（43.05%）、「そう思う」（46.29%）と回答した人の割合は 89.34%（前年度 88.98%）で、授業が概ねシラバス通り行われていたと言える。

### 【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。

全学の平均は 3.54（2022 年度 3.56）であり、3「適切だった」と 4「やや難しい」の間に平均があることを示しており、社会学科では 3.56（2022 年度 3.60）で平均通りであった。難易度別にみると、1「とても易しかった」0.39%、2「易しい」2.42%で、3「適切だった」と回答した学生は 48.86%（2022 年度 47.96%）であった。その一方で、4「やや難しかった」37.34%（2022 年度 35.62%）、5「とても難しかった」と回答した学生は 10.99%（13.64%）であった。昨年度に比べて、4「やや難しかった」が 1.72 ポイント増加、5「とても難しかった」は 2.65 ポイント減少した。このように、昨年度より難易度の適切性は若干改善されたが、5「とても難しかった」と回答した 1 割強の学生に向けた対

応が引き続き必要となる。

【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

全学では「したことがある」と回答したのは15.7%（前期は19.26%）であった。（なお、昨年度は設問が「あなたはこの授業で教員に質問やメール連絡をしたことがありますか」であり、昨年度とは比較ができない。）回答結果には学科によって差があるが、社会科学では「したことがある」と回答したのは10.0%であり、全学平均を下回った。

【Q4】 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。

この設問にはQ3で「メールで連絡をしたことがある」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は3.73（前期4.15）であり、全学的に前期よりも回答に対する満足度が落ちているといえる。（なお、昨年度は設問が「質問やメール連絡に対する対応は迅速だったと思いますか」であり、昨年度とは比較ができない。）そのなかで社会科学の平均は、3.65であり、全学の平均をやや下回っていた。回答別にみると「強く思う」36.51%、「どちらかと言えばそう思う」19.89%で、合計56.4%（全学合計60.27%）で全学の合計値に比べて3.87ポイント下回っていた。「どちらとも言えない」が23.71%であるのに対し、「どちらかといえばそう思わない」11.44%（全学7.23%）、「まったくそう思わない」8.45%（全学9.76%）であり、より適切な対応を心掛ける必要がある。

【Q5】 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

全学の平均は4.07で、4.14であった昨年度から若干低下している。社会科学は3.98と全学平均よりも低い値となっている。全学共通科目についてみても全学の平均が4.05であるのに対し、社会科学は3.92となっている。「強く思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計は、全学が80.72%であったのに対し、社会科学は79.49%と、やや低い割合となっている。同じような傾向は全学共通科目についてもいえ、全学の割合79.92%に対し、社会科学の合計74.26%となっている。以上からすると、全学よりも社会科学においては、学生本人意欲が低いことがうかがわれ、今後学生の様子を注視しながら、授業内容の工夫をする等の検討が必要である。

【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

全学の平均値は4.49（前期は4.46）であった。社会科学は4.49であり全学の平均とほぼ同じだった。この熱意の度合いを見ると、社会科学は「強くそう思う」（55.34%）、「どちらかと言えばそう思う」（36.58%）と合わせると、91.92%であり、教員は全体として熱意を持って授業を行っていることが伺えた。ただ前年と比べて大きな変化はなく、他学部他学科には社会科学よりも数値が高いところもあるので、さらに教員の教育姿勢を向上させる余地はあると考えられる。



【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。

全学の平均値は 4.29 で、社会学科では、平均値 4.19 であった。社会学科の「成長感覚」について、回答別に見てみる「強く思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した割合は 86.96%であり、全学の平均値 88.28%をやや下回るものであった。また、「どちらとも言えない」「どちらかといえばそう思わない」「まったそう思わない」の合計が 13.04%で、約 1 割が「成長感覚」を実感していないことが浮き彫りとなった。今後はこの 1 割の学生に対して学習意欲の改善などの手立てが必要である。

【Q8】 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。

全学の平均値は 8.26（前期は 8.09）、で前期より平均値が僅かだが上昇していた。社会学科の場合は、回答者数 1,529、平均値は 8.12 だった。その回答分布は「10」が 22.17%、「9」が 23.61%、「8」が 26.95%となっており、「8」以上の評価が 7 割を占めている。他方、「6」以下が、全体の 1.5 割程度あった。

#### 4. おわりに

2023年度の「学生による授業認識アンケート」の全容は以上のとおりである。各学科がさまざまなデータを基に議論され、今後の課題を明確に把握されたことがよくわかる。ここでは全学的な課題と今年度の試みを改めて挙げておきたい。

継続課題として回答率の低さがある。今年度の目標は回答率を上げることであり、そのために対象科目を各教員が担当する科目のなかから履修者の最も多い科目に限定したが、前期は前年度よりも低い回答率となってしまった。そこで、学生の回答時間を示すデータや各部局のアンケート実施率および回答率を提示し、アンケート実施に対する教員の意識を高めることに務めた。その結果、例年は下がる後期の回答率が前期よりも向上し、30%を超えることができた。とはいえ、この数字もけっして高いとはいえない。アンケート結果を解釈する上での妥当性を考えると、より一層の回答率の向上が求められる。

回答率の向上にあたっては、Web 回答方式が一つの壁になっているようだ。集計のためのエネルギーやコストを考えると紙媒体に戻すことは現実的ではない。学生は今後もスマートフォンから回答することになるだろう。授業中に回答を促し、多くの学生がスマートフォンを操作する様子を目にしながらも、思ったよりも低い回答率に驚く声が多く聞かれた。操作する手元を覗くわけにもいかず、根気強く回答を促すしかなさそうだ。

アンケート結果に対する教員からのフィードバックも十分とは言えない。授業に関するアンケートは実施して終わりではなく、その結果を授業改善や学生指導に活かすことが目的である。加えて、意見や感想を寄せてくれた学生たちの今後のアンケート回答に対するモチベーションを維持するためにも、教員からのフィードバックを徹底していく必要がある。

最後に、例年とは異なる点としてアンケート結果の集計について挙げておきたい。これまでは教員の所属ごとに結果をまとめ、各学部の傾向として提示してきた。前期はこの方法を踏襲している。しかし、この方法では全学共通科目に対する学生の認識が見えづらい。そこで、後期はこれに加え、全学共通科目だけを対象として集計し、学生の所属別にまとめることとした。データの数是十分とは言えないが、それでも各学科の1、2年生の傾向が見えてきたようだ。教育方法や学生指導を考えるうえでの参考にしていただければと考えている。

今後は学科内でのFD活動等を通じて、これらの結果や考察がより積極的な授業改善の動きにつながっていくことを期待したい。

以上

## 資料

### 1. 大東文化大学全学 FD 委員会規程

#### (目的)

第1条 この規程は、大東文化学園内部質保証推進委員会及び学部・大学院と連携をとりつつ、大東文化大学における教員の教育の内容及び技法の改善、その他研究活動、社会活動等における教員の資質の向上を組織的に支援することを目的とする。この目的達成のため、全学FD委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### (任務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議検討し、実施することを任務とする。

- (1) 本学の教員の教育活動、研究活動、社会活動等に対するFDの視点からの分析及び提言、並びにこれらの効果に関する諸調査の企画、実施及び分析
- (2) FDに関連する学内外の情報収集とその普及等の広報啓発活動
- (3) FDに関する講演会、研究会その他の企画及び開催
- (4) 「学生による授業評価」の策定及び実施、授業評価結果の分析、並びに授業評価結果報告書の作成及び公表
- (5) 授業評価結果の有効活用その他授業改善に関する取り組みの支援
- (6) その他、委員会が必要と認めた事項

#### (組織)

第3条 委員会は、次の委員をもつて構成する。

- (1) 学長又は学長が副学長の中から指名した者 1名
- (2) 各学部が選出する者 各1名
- (3) 各研究科が選出する者 各1名
- (4) 学長が指名する者 若干名

2 委員会の委員長は、前項第1号に定める者とする。

3 委員会に副委員長を1名ないし2名置く。副委員長は委員会の同意を得て委員長が指名する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があつた場合は、委員長の職務を代行する。

- 5 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 6 委員が欠けたときの後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 委員会は必要に応じて委員以外の者に同委員会への出席及び発言を求めることができる。

(運営)

第4条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門部会)

第5条 委員会は、第2条の任務を遂行するにあたり、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会には、委員以外の協力委員を置くことができる。

(事務局)

第6条 委員会に関する事務は、学務部学務課が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成18年5月15日から施行する。

附 則 (平成21年6月15日)

本規程は、平成21年6月15日から施行する。

附 則 (平成22年2月22日)

- 1 この改正規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この改正規程の施行に伴い、大東文化大学学生による授業評価実施委員会規程は、平成22年3月31日をもって廃止する。

附 則 (平成27年3月18日)

この規程は、平成27年4月1日より施行する。

附 則 (平成31年2月25日)

(施行期日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日より施行する。

(規程の改正及び名称の変更)

2 平成18年5月15日制定及び施行の「大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」を改正し、名称を「大東文化大学全学FD委員会規程」に変更する。

附 則（令和元年10月28日）

この規程は、令和元年10月28日から施行する。

## 2. 2023 年度 学生による授業認識アンケート実施要項

全学 FD 委員会

### 2023 年度『学生による授業認識アンケート』実施要項

#### 1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てるために実施する。

#### 2. 対象科目

- (1) 本アンケートは前期および後期に実施する。前期実施時は、前期科目（前期後半含む）を対象とする。後期実施時は、通年および後期科目（後期後半含む）を対象とする。
- (2) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とする。
- (3) 対象科目は教員（専任・非常勤問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とする。
- (4) 所定の期間内に教員より、アンケート実施科目の追加または変更について、希望があった場合には全学 FD 委員長と協議のもと個別対応とする。
- (5) 対象科目の確認、追加・変更申請期間（予定）  
前期：2023年6月7日（水）～6月18日（日） 後期：2023年11月1日（水）～11月12日（日）

#### 3. 調査項目

- (1) Web 方式 C-Learning 上で、選択式項目を基本とし、加えて自由記述欄を設ける。
- (2) 任意で教員独自の設問（個々の教員が受講生から意見を聴取したいと思う内容）を設けてもよい。独自の設問を実施する際は、設問を提示または配信して学生に周知する。

#### 4. 回答期間（当該教員は随時結果閲覧可能）

前期 2023年7月10日（月）～7月24日（月）対象科目：前期科目（前期後半含む）

後期 2023年12月4日（月）～12月17日（日）対象科目：通年・後期科目（後期後半含む）

#### 5. 実施方法

Web 方式 C-Learning にて実施。可能な限り方法 A で実施し、不可能な場合は方法 B による。

方法 A：実施期間内のどこかの授業内の10分程度を使って実施する。

方法 B：アンケートの QR コード等を提示/配信した上で、実施期間内（上記4）の

回答を促す。(この場合、実施期間途中で回答率をモニターし、必要に応じて回答をリマインドするとよい)

#### 6. 結果の閲覧と集計

(1) 担当教員は、回答期間終了後は、各自のデバイス(PC/スマートフォンなど)上で、自身の授業の集計結果および自由記述内容を確認する。

(2) 全学FD委員会は、全学的な集計結果をまとめ、その分析方法を検討する。

#### 7. 結果の取扱い

アンケートの結果を、担当教員に対する管理の強化や不利益な取扱いに利用することはしない。

#### 8. 結果の公表と活用

(1) 担当教員は当該授業についての数値結果および自由記述についての具体的なコメントを

C-Learning上に掲載する。このコメントは当該授業の履修者が閲覧可能とする。

(2) 上記の全学的集計結果の数値部分については『報告書』に掲載し、その『報告書』は、学生を含め学内に公開される。

(3) 自由記述欄の内容は『報告書』に記載せず、今後の授業の参考資料として活用する。

(4) 外部への公表および活用については、全学FD委員会の責任において、本学ホームページへの掲載等を含め、必要に応じて行う。ただし、設問内容によっては、外部には公表しない。

以上